最後の啓示宗教
イスラーム

ムラット・カヤ博士



エルカム出版社

بسم الله الرحمن الرحيم

イスタンブール－２０１８年

最後の啓示宗教
イスラーム

ムラット・カヤ博士

オリジナルタイトル: Son İlahi Din İSLAM
著者: ムラット・カヤ博士
翻訳者: ヌールッラー・サット
チェッカー: サット・佐紀
グラフィックデザイン: ラーシム・シャーキルオール
ISBN: 978-605-302-475-0
住所: Ikitelli Organize Sanayi Bölgesi Mah.
Atatürk Bulvarı, Haseyad
1. Kısım No: 60/3-C
Başakşehir, Istanbul, Turkey
電話番号: (+90-212) 671-0700 pbx
ファックス: (+90-212) 671-0748
メール: info@islamicpublishing.org
ウェブサイト: www.islamicpublishing.org
印刷者: エルカム印刷所
Language: Japanese

エルカム出版社

最後の啓示宗教
イスラーム

ムラット・カヤ博士

エルカム出版社

もくじ

第2部 信条、イバーダ、行為 / 79

第3部 クルアーン / 146

はじめに

1. 人間、世界、創造主

メヴラーナ・ジェラーレッディン・ルーミーは次のように語っています。

「ある時、ある牛が当時の文明の中心地であったバグダッドにやってきた。そして町全体を歩き回った。しかしその雄大な素晴らしさ、味覚、芸術の奇蹟の中で、ただ道端のメロンやスイカの皮だけがその注意をひいた。そもそも牛やロバの旅にふさわしいものは、道にこぼれ散らばった藁か、道のそばに生えた牧草である」（メスネーヴィ　4巻、2377－2379）

そう、私たちも、この世界でただ食べること飲むこと、楽しむことに従事していてはいけないのです。一瞬立ち止まって考えるべきです。どこから来てどこに行くのかを考え、人生をそれによって方向づけるべきです。まず何よりも自分たち自身の創造、物理的、精神的なあり方、私たちが持っている優れた特性、そして世界について深く熟考し、それらの詳細について調べるべきです。そう

した時に、人生はより意味深いものとなるのです。

例えば、土を考えてみましょう。同じ水で育てられたにもかかわらず、何千種類もの植物が育っています。これらはそれぞれに異なった色、形を持つ果実や野菜を与え、それを完全なシステムや秩序の中で行います。同じ土で育ち、同じ水ではぐくまれた食べ物が互いに優れ、異なっていることは、人の知性を驚嘆させる事象ではないでしょうか。[1]

それから目を天に向け、そこでの壮大で荘厳なシステムに触れてみましょう。例えば、太陽です。地球との間には1億5千万キロの距離があります。中程度の大きさの星である太陽は、容積としては非常に大きく、その内部に地球のような惑星が130万個入るのです。表面温度は摂氏6000度、内部は2000万度になります。その軌道上を時速72万キロという驚くべき速さで動きます。これは概算で太陽が1日に1728万キロ進むことを示します。[2]

太陽では、毎秒5億6400万トンの水素が5億6000万トンのヘリウムになります。その差400万トンの気体は、エネルギーとして放出されます。つまり太陽は毎秒400万トン、毎分では2億4000万トンの物質を失います。もし太陽が30億年もこの速度でエネルギーを生み出

1. 雷電章第4節
2. Prof. Dr. Osman Çakmak, *Bir Çekirdekti Kâinat,* p. 21, 66.

していれば、その期間で失う質量は100万の400,000,000,000乗トンとなり、この値は太陽の現在の質量の5000分の１となるのです。

地球はこれほどの壮大な質量とこれほどに大きなエネルギーの源に対し、この上なく計算された距離におかれています。太陽の焼き尽くす、焼失させるという面での影響は受けず、また一方でそれがもたらす効果的なエネルギーを受けられないということもありません。この壮大な力とエネルギーにより太陽は、人間を始めとして地上の全ての生命に最も効果的な力と大きさを持って創造され、その熱を適切な形で地球に届けるのです。しかも、何百万年も。[3]

ここで言及したこの雄大な太陽は、天の川銀河に存在する、2000億と推測される星のうちの一つに過ぎません。同時に天の川銀河も、近代的な望遠鏡で見ることのできる数千億の銀河系の一つに過ぎないのです。そしてこの天の川銀河の一端から反対側に行く為には、10万光年が必要です。（光は1秒で30万キロ進みます）地球から出発し、この銀河の中心部に到達する為には、300,000,000,000,000キロ進まなければいけないのです。[4]

3. Prof. Dr. Osman Çakmak, *Kâinat Kitap Atomlar Harf,* p. 50.
4. Prof. Dr. Osman Çakmak, 同著 p. 6; *Bir Çekirdekti Kâinat,* p. 10-12.

流体力学

自然界を見ると、魚が泳ぐこと、鳥が飛ぶこと、飛行機が飛ぶことは全て一定の原則（流体力学）の範疇で実現しています。川岸もしくは海岸で疲れを癒している時に、水の動きがどれほど複雑な秩序の中にあるか、気が付いたことはありますか？飛行機もしくは飛ぶ虫のどちらが、この原則をよりよく、効率的に使っているでしょうか。魚の体の形が設計される時、どの流体力学が適用されたのでしょうか？この自然界で目にしているこれらの適用は、技術において私たちに何を獲得させて来たでしょうか？そしてこれからも獲得させるでしょうか？クジラやツバメを研究することで、飛行機や船の燃料の節約を可能とすることができるでしょうか。蚊はなぜ水面で、沈まずにいることができるのでしょうか。蜘蛛の瞬間的なジャンプには、その足のどのような特性が影響しているのでしょうか。[5]

魚の心臓は、水が体に与える圧力が最も低くなる場所に位置しています。これにより、速度が増した時に外部からの圧力が減り、心臓の鼓動が容易となります。魚の目は、どのような速度であれ、常に同じ静圧値が維持される場所に位置しています。これに

5. Doç. Dr. Sami Polatöz, Tabiatta Mühendislik, İzmir 2004, p. 15-16.

より魚はゆっくり泳いでいる時も、速く泳いでいる時もその目において圧の変化はないのです。

私たちは皆、家で、瞬間的に速度を増したり落したりすることができ、空中で停止でき、宙返りをして逆向きに飛ぶことができ、逆向きのまま天井に止まることのできるハエを見たことがあります。サメの尾の切り込み、ハゲタカの翼の先端の広がった毛、クジラの尾部の三日月形の翼は、その動きにおいて彼らに流体力学的または空気力学的利点を与えます。ツバメやマグロにあるように、前後の翼が後方に湾曲している三日月形の翼はその効率性を上げます。人々は飛行機や船においてこの設計を活用しているのです。

調査の結果として、サメの皮において発見された小さな管が、塩水との摩擦を減らし、動きを効率的にする為に最も理想的な形、長さであることが知られています。

人や人間の関節における潤滑機構は非常に驚嘆すべきもので、現代まで、技術における3種類の潤滑タイプによっても完全に解明はされていません。

氷点下で生きる不凍の魚、暑い砂漠の砂の上を動くヘビ、潮間帯で生きる渇きに強い魚がいます。アザラシが1600メートルの深さで耐えることのできる圧力は、私たちが受けている圧力の160倍です。同時に、深海で暮らす

動物たちがこれほど大きな圧力の中でどうやって生命を維持しているかについては、知られていないことがあまりに多いのです。ウミヘビの一部は長い時間深く潜水している時には、皮膚を通して血液中の窒素を外に出し、表面に出る時には手間をかけません。しかし、現代、最も優れたダイバーですら、水面には休みながら時間をかけて上昇することしかできないのです。[6]

このように、周囲の存在について考える人はほとんど皆、無限の英知と力を持つ創造主が存在すること、自らも無駄に創造されたのではないこと、この世界に一定の目的の為にやってきたことに気づきます。実際、諸研究の結果としてもっとも原始的な民族的な宗教から、最も発展したものまで、全ての教えにはあらゆるものにその力が十分である崇高が創造主への信仰があることが確認されています。[7]

アッラーの存在と唯一性を示す証拠は非常に多くあります。その中から、誰でも簡単に目にすることのできる例は以下の通りです。

☑赤ちゃんができること、生まれること、育つこと、知恵や意志を持つこと、さら

6. Polatöz, 同著p. 18-42.
7. Prof. Dr. Günay Tümer, “Din” 項, *Diyanet İslâm Ansiklopedisi,* İstanbul 1994, IX, 315-317.

に重要なこととして、赤ちゃんがどのような物質から創造され、どのような状態に至るかということ。

☑人に恐れと希望を与える稲光、天から水が非常に周期的な形で下されること、それによって乾いた大地が蘇ること。

☑天と地が非常に細かなシステムの中に存在すること、そこに無数の生物が創造されていること。

☑風が、雨を吉報として伝えながら吹くこと、雲を様々な場所に運ぶこと、湖や海が形成されること、山のような船が何千トンもの重さで水面に浮かぶこと、何百もの飛行機が離着陸を行う小さな町のような船が、大洋を進むこと。[8]

☑あらゆる生命に天と地から糧が与えられること[9]

メヴラーナは次のように語っています。

「息子よ、文章を書き手が書いたと考えることと、それがひとりでに書かれたと考えることのどちらがより論理的であろうか」（マスナヴィ6）

8. ビザンチン章第20-46節; 相談章第29, 32節; ヤー・スィーン章第33-41節; 雌牛章第22節. 又は参照、イブラーヒーム章第32-33節; ビザンチン章第40, 48, 54節; 創造者章第9節;ガーフィル章第61, 64, 79節; 跪く時章第12節; 離婚章第12節
9. 創造者章第3節

「素朴なものよ、答えてみなさい。家の作り手、建築家がいることを考えることがより論理的か、もしくは作り手も建築家もなしで家が勝手に生じたと考えることが論理的なのか。美しい芸術作品は、目も見えない腕も動かないような人に作られるのか、もしくは才能があり、目が見え、感受性を持つ人の作品であるのか」（マスナヴィ6）

「刺繍や絵画は、彼らが知っていようといまいと、その全てがそれを作成する人の手によるものである。壺を作る者は、壺に関わり、それを捏ね、形を与え、作成する。壺はその作成者なしで勝手に広がったり伸びたりするだろうか？板は大工の手に庇護を求め、彼に従う。そうでなければそれが切られたり他の板に組み合わさったりするだろうか？服は仕立屋の手を通過せずに、ひとりでに裁断されたり縫製されたりするだろうか？利口な人よ。水入れは、水をくむ人の手になければ、どうやって勝手に水が入ったりなくなったりするだろうか。あなたもあらゆる瞬間に呼吸によって満たされ、からにされる。だから、英知を持つ者よ、その比類なき偉大な創造主の手に、あなたはいるのだ。いつかあなたの目の覆いが取り除かれ、神秘の結び目がほどければ、芸術作品は芸術家の手に置いてその姿を変えていることを理解するだろう」（マスナヴィ6）

被造物が存在すること、そして壮大なバランスとシステムの中で動いていることを、「偶然」によって説明することは、絶対に可能ではありません。エドウィン・コンクリン教授は次のように語っています。

「生命が偶然の産物として生じていることを主張することは、印刷所において偶然起こった爆発の結果、素晴らしい百科事典ができたと主張することに等しい」[10]

2. 人間と宗教

宗教は人に、創造主やその他の被造物との関係をただす法、秩序、道として定義されます。それによるなら宗教は、創造主によって人々に、死ぬ前の生、死後の生において道を示し、教えられる学問を含みます。人が現世での生で誰にも害を与えず、権利や法を順守して生きること、その短い期間を安楽な形で過ごすこと、将来の永遠の生におけるリスクを増やさない為に、いくつかの条件を設けています。

アッラーはこの世界で非常に多くの被造物を創造されました。しかしその中で人間は非常に異なる地位にあります。人間には、他の被造物にはない理性、意志、学問、理解、

10. *The Evidence of God,* P. 174; Prof. Dr. Vahidüddin Han, *İslâm Meydan Okuyor,* p. 129.

能力、そして統治すると言った多くの優れた能力が与えられました。ただ、この能力はもろ刃の剣のようです。これらの肯定的な面が用いられれば、この世界にはしっかりした秩序を、人間には豊かな善と恵みをもたらします。否定的な面が用いられれば、望まれないものをもたらし、恐ろしい分裂をもたらします。恐ろしい迫害や大きな戦いの要因と成ります。人のこの特性と能力が正しい形に方向づけられる為に、他のある力を必要とします。それは、正しい宗教です。しかし忘れてはいけないことは、アッラーは人が信心深くなることを必要とはされていないということ、人がアッラーの命令に従うことはアッラーには何の利益ももたらさないということです。しかし私たち人間が来世の幸福のみならず現世での幸福を得る為には、教えの命令に従うことが必ず必要となるのです。[11]

啓示された教えの全てが、人が創造主を知り、仕える為に創造されたことを示しています。[12]

宗教を人々へと伝えるのは、預言者たちです。イスラームは全ての預言者を認め、預言者たちへの信仰がムスリムとなることの一つの条件であるとしています。イスラームの信仰によるなら、預言者たちの間には一体性

11. Prof. Dr. M. S. R. el-Bûtî, *İslâm Akâidi,* p. 71-76.
12. 出エジプト記20:2-3; 申命記, 6:4-5; マタイ4:10; 使徒言行録17:26-28; 撒き散らす章第56節

と継続性が存在するのです。預言者たちは自分たち以前に来た者たちを評価し、その後に来る者についても吉報として伝えています。[13]

預言者ムハンマドを預言者として認める人は、彼以前の全ての預言者をも認めたことになります。実際預言ムハンマドの手紙を運んだハーティブ・ビン・アビー・バルターはアレクサンダーに次のように語っています。

「私はあなたを、アッラーが人々の為の教えとして選ばれたイスラームに招きます。ムハンマド・ムスタファはあなたのみではなく、全ての人々を招かれています。彼らのうちで彼に最も厳しく粗野に振る舞ったのはクライシュ族でした。彼に対し最も敵対したのはユダヤ教徒でした。人々のうちで最も近しさを示したのはキリスト教徒でした。預言者ムーサーが預言者イーサーの吉報を伝えたように、預言者イーサーも預言者ムハンマドの来訪を吉報として伝えています。私たちがあなたをクルアーンに招くことは、あなたが律法に従う人々を新約聖書に招くことのようです。皆、自分の時代に来た預言者のウンマとなるべきなのです。あなたは預言者ムハンマドの時代に間に合いました。だからあなたをイスラームに招くことで、あなたをイーサーの教えから遠ざけることにはならないので

13. Prof. Dr. Ö. F. Harman, “İslam” 項, *Diyanet İslâm Ansiklopedisi,* İstanbul 2001, XXIII, 4.

す。逆に、彼の預言者性にふさわしいことを行うよう提案しているのです」[14]

ペンシルバニア大学の教員である**ティモシー・ギアノッティ博士**はイスラームを選んだことで以前の宗教であるキリスト教を無と見なしているのではないこと、以前の宗教が自分自身によって、イスラームへの意向の為の準備期間という役割を持っていることを数回繰り返した後、イスラームがキリスト教の目的とする者をも内包する最も包括的な教えであることを説いています。そして、

「イスラームの目標は、ただ一定の集団ではなく、全ての集団をアッラーの位階において尊い人とすることである」と語っています。[15]

預言者たちが父を同じくする兄弟であることに言及するハディースは、[16] 全ての真実の教えがその原則において共通していることを示唆します。つまり真実の教えは、最初の預言者から最後の預言者まで、信仰の基本と特に道徳の原則の観点から常に同じであり、

14. この会話の全文については、参照：İbn-i Kesîr, *el-Bidâye,* IV, 266-267; İbn-i Sa'd, I, 260-261; İbn-i Hacer, *el-İsâbe,* III, 530-531.
15. Ahmet Böken - Ayhan Eryiğit, *Yeni Hayatlar,* I, 15.
16. 預言者ムハンマドは次のように語られました「私はマリヤムの息子に、人々の中で最も近しい者である。預言者たちは母が同じで父が異なる兄弟である。私と彼の間には他の預言者はいない。 (Buhârî, Enbiyâ, 48; Müslim, Fedâil 145)

イバーダの形や行動の決まりという観点から、いくつかの差異を持つのみです。[17]

真実の教えが一つである以上、啓示宗教の間に類似性があることは確実です。例えば、イスラームでは礼拝が命じられています。聖書では、礼拝のルクウの動作について言及する次のような表現があります。

「入って行き，崇拝をささげ，身をかがめよう。わたしたちの造り主エホバのみ前にひざまずこう」（詩編　95－6）

「次いでエホバはモーセとアロンに話してこう言われた。「この集会の中から離れよ。わたしが彼らを即座に滅ぼし絶やすためである」。これに対しふたりはひれ伏して，こう言った。「神よ，あらゆる肉なるものの霊の神よ，ただ一人の者が罪をおかすだけで，あなたは集会全体に対して憤られるのですか」（民数記、16：20－22）

「モーセは直ちに身を地に低くかがめて平伏した」（出エジプト記34－8）

「そして少し進んで行き，うつ伏してこう祈られた」（マタイ、26：39）

「これを聞くと，弟子たちはうつ伏して非常に恐れた」（マタイ、17：6）

17.　Prof. Dr. Ö. F. Harman, “İslam” 項, *DİA,* XXIII, 3.

第1部
イスラームの主な特徴

1. タウヒードを根本とする

そもそも全ての啓示宗教はタウヒード、すなわちアッラーが唯一であらえること、類似するものが存在しないことを教えます。預言者イブラーヒームはタウヒードの説明を、その父アゼルから始めました。[18]ユダヤ教が重きを置いて強調している最も基本的な原則は、神の唯一性です。律法によると、最初の人間やその子供たち、ヌーフ、[19]イブラーヒーム、イスハーク、ヤークブ、ユースフは、唯一であるアッラーへの招きを行っていました。預言者ムーサーに与えられた十戒と、律法のその他の場所で最も多く言及されている項目はアッラーの唯一性です。[20]預言者ダーウードに下された詩篇では、唯一である神にドゥアーを行っています。預言者イーサーも、

18. マルヤム章第 42-47節
19. 創世記, 1:26-28; 4:26; 6:9.
20. 出エジプト記, 20:2-3; Tensiye, 6:4-5.

その法における最初の命令がアッラーの唯一性であることを指摘しています。[21]

ユダヤ教における過度な賛美が、神を人間であるかのように描き、キリスト教における過度な愛情が人間であるイーサーを神格化し、それによってタウヒードから三位一体へと至る道を拓いたのです。イスラームにおいてはこの点で、タウヒードの概念にかつて生じていた不鮮明さを取り除き、ユダヤ教徒とキリスト教徒をタウヒードにおける統一へと呼びかけています。[22]

理性的かつ宇宙学的な根拠も、創造主が唯一であることを示しています。クルアーンでは次のように語られています。

「アッラーは子をもうけられない。またかれと一緒の外の神もない。そうであったら、それぞれの神は自分の創ったもので分裂しお互いに抜き出ようとして競い合う。アッラーに讃えあれ。（かれは）

21. マルコ, 12:28-29.
22. イムラーン家章第64節、Prof. Dr. Ö. F. Harman, “İslam” 項 *DİA,* XXIII, 4.
三位一体信仰を初めて示したパウロは、ユダヤ教徒により死を宣告され脅された為北部に逃亡し、三位一体に基づくキリスト教の布教を始めた。当時、多くのキリスト教徒によって否定されていた三位一体信仰は後に、ギリシア人の多神教に影響を受けたビザンチンの統治者たちにとってキリスト教徒が公式な教えとされた。フレッド・リードはShattered İmagesという名の著作で、キリスト教における唯一神信仰がどのように損なわれ、三位一体へと変化していったかを　細かく説いている。

かれらの配するものを（超越され）」（信者たち章第９１節）

「もし、その（天地の）間にアッラー以外の神々があったならば、それらはきっと混乱したであろう。それで玉座の主、かれらが唱えるものの上に（高くいます）アッラーを讃えなさい」（預言者章第２２節）

複数の創造者もしくは神が存在することは、それぞれにおける無力さ、不足、被造物であることといった不十分な特性を必要とするものであり、唯一の創造主であることは不可欠なのです。

イスラームによると、大きな罪のうち最大のものは、アッラーを知らないこと、その特性、特徴、みわざにおいてその共同者を見出すこと、アッラー以外のものを神格化することです。「シルク、多神崇拝」と呼ばれる罪は大罪のうち最大のものと言われるのです。アッラーはシルクを「最大の迫害と不正」「大罪によって破産すること」という形で表現されています。[23]アッラーは他の罪についてはお望みのものを許される一方で、シルクを行い、その悔悟を行うことなく亡くなったものを決して許さないとされています。[24]クルアーンでは次のように語られています。

23. ルクマーン章第13節; 婦人章第48節
24. 婦人章第48, 116節

「われは既にあなたに啓示した。あなた以前の者たちに（啓示）したように。もしあなたが（邪神をわれに）配したならば、（現世における）あなたの行いは虚しいものになり、必ず失敗者となるのである」（集団章第６５節）

シルクの罪から救われる為の唯一の出口は、それを放棄し、タウヒードへと向かうことです。

２．本質に適した教えであり、論理と矛盾しない

全人類を対象とするイスラームは、その基本的な条件を、一部の民族に見られる偶発的、一時的または部分的な特性ではなく、全人類に見られる本質的、天性的、生まれつきの傾向やニーズに応じて命じます。その為、イスラームは本質に適した教えであり、古くなることもありません。その信仰の基本は、特殊なものではなく、論理的で明白な現実の上に築かれています。従って科学的な現実と決して矛盾することはありません。イバーダや行為についての命令を精査すれば、それらが人間の天性と理性にいかに適しているかがすぐに理解されます。

人を他の被造物から区別する最も重要な特性は理性であり、クルアーンは理性を持って考えることを非常に強調します。７５０に

近い節で、人々を考えること、調べること、理性を良い形で用いることへの招きがなされています。[25]

預言者ムハンマドを信仰しない人々は「私たちに奇蹟を示してください。そうすればアッラーを信仰しよう。あなたが預言者であることを信じよう」と言い、アッラーはその提案を好まれませんでした。その存在と唯一性を信じる為に、奇蹟を求めることではなく、地や天を注意深く眺め、考えることを奨励されました。

イスラームは理性にこれほどの重要性を置いている為、それを覆い隠し、酔わせる酒や覚せい剤を禁じています。なぜなら人にとっては覚醒していることがより効果的であり、我を失っていることに利点はないからです。

イスラームが本質に適した教えであることの自然な結果として、常に現実的な判断を下します。そこには、実行が不可能であり、人々に苦労を与え、その本質に困難を及ぼす規定はありません。例えばウドゥーを行う為の水がなければ、あるいは病気の為にそれを使うことができなければ、タヤンムムを行うことができます。礼拝中立つことができなければ座って、あるいは寝たままで、さらにはイメージでも行うことができます。断食をす

25. Ayşe Sucu ve diğerleri, *Gençlik ve Din,* p. 220.

ることができなければ、後で行ったり、フィトラを払ったりすることができます。ザカートや巡礼は、経済的な状況が良い人にとっての義務です。イスラームを布教するムスリムは、ただそれを良い形で説明するという責任を負います。「何をしても全ての人をムスリムにする」というような強制はありません。

３．アッラーとしもべの間に誰も入ることができない、つまり聖職者階級が存在しない

イスラーム学者は、「アッラーに向かう数は、被造物の呼吸の数ほどある」と語っています。つまりすべての人が、アッラーと直接結びつきを持つ自由を持っているのです。あらゆる人は、イバーダやドゥアーによってアッラーに懇願し、アッラーに許しを願うことができます。心からアッラーに向かった時には、目の前にそのお方を見出すことは確実でしょう。

アッラーはしばしば、しもべたちにドゥアーを奨励されます。その慈悲が非常に広いこと、従ってドゥアーを受け入れ、罪を許す、と伝えられています。ドゥアーを受け入れること、罪を許すことはただ、アッラーの御手によってのみ可能です。なぜなら、唯一の力の主はそのお方であるからです。どの被

造物も、アッラーの力を用いることはできません。アッラー固有の顕現を、アッラー以外のものに見出すことを「シルク」と見なすのです。

信仰に関する項目は、この上なく厳しく細やかな構成を持っています。この点において注意深く振る舞わないこと、アッラーに属する権限をしもべに見出すこと、あるいはそれを制限しようとすることは、アッラーの怒りを招く非常に危険な思考です。預言者ムハンマドはあるハディースで次のように言われています。

「イスラエルの民に、互いに逆方向に進む二人がいた。１人は罪人で、もう１人はイバーダにおいて努力を行っていた。イバーダを行う方が、もう一方が罪を行っているのを目にした。『その罪をやめなさい』と忠告した。ある時また彼を、その罪を行っている最中に目にした。「やめなさい」と警告した。相手は『私を主と共に放っておきなさい。あなたは私の管理人として送り込まれたのか』と言った。イバーダを行う者は『誓って言うが、アッラーはあなたを許されない』と言った。もしくは『アッラーはあなたを天国に入れられない』と言った。

しばらくして、その２人ともが死を迎え、アッラーの御前で集められた。アッラーはイバーダを行う者に、

『あなたは私が(しもべにたいしてどのように振る舞うかを確実に)知っているのか、あるいは私の権限、裁量にあるものに対し何かを行う力を持っているのか』と言われた。それから罪人に向かい、

『行きなさい、わが慈悲によって、天国に入りなさい』と言われた。もう片方については『彼を地獄に連れて行きなさい」と命じられた』

アフマド・ビン・ハンバルの伝承によると預言者ムハンマドは次のように締めくくられました。

「アブール・カスムの息がそのお力のもとにあるアッラーに誓って言うが、彼はアッラーの怒りをもたらす誤ったことを口にしたのだ。現世も来世も滅ぼしてしまったのだ」(Ebû Dâvûd, Edeb 43/4901; Ahmed, II, 323. krş. Müslim, Birr, 137)

ここから、罪を許しても大目に見られる、というような意味を読み取るべきではありません。アッラーについて無知な言及をすること、誤った信仰を持つことがいかに危険な次元にまで到達し得るかという点に注目すべきなのです。

ウフドの戦いにおいて預言者ムハンマドは非常に困難な状況に陥りました。軍は散らばり、ご自身も額にけがをされ、神聖な歯が折れていました。この苦しみと悲しみゆえに、

「預言者にこの苦しみを与え、彼を生地付ける部族がどのように救われることができるだろうか」と仰せられました。アッラーはそれに対し、次のように警告されました。

「この点において、あなたに属することは何もない。アッラーが望まれれば彼らに悔悟させ、罪を許される。望まれれば、その迫害ゆえに彼らに罰を与えられる」(Âl-i İmrân, 128) (Buhârî, Meğâzî, 21; Tirmizî, Tefsîr, 3/3002-3003)

ある遊牧民が捕虜となり、預言者ムハンマドのもとに連れて来られました。遊牧民は

「アッラーよ、あなたに向かって、悔悟を行います。ムハンマドには悔悟は行いません」と言いました。それに対し預言者ムハンマドは

「主は彼に認識を与えられた、彼を釈放しなさい」と言われました。

この項目に関連して、預言者イーサーの次の言葉も注意をひくものです。

「あたかも神であるかのように、人々の罪を見てはいけない。しもべにふさわしい態度で、自分の罪を見なさい」[26](Muvatta', Kelâm, 8; İbn-i Ebî Şeybe, VI, 340/31879)

26. MuvattaのMüntekâという名の項で次のような表現がなされている。人が、他人の罪に目をつけることには何の意味もない。なぜならそれらを許すことも、罰を与えることもできないからである。罪は、ただ、それらを禁じられたアッラーが関与することができる。お望み

イスラームではドゥアー、悔悟、イバーダ、ニカーフ（婚姻）といった点で、宗教者を必要としません。ムスリムは皆、自分に必要なだけの宗教的学問を得ることが必要です。ムスリムが礼拝の為に集まった時には、その中で最も学問があり、徳のある人がイマームとなります。イスラーム学者の任務とは、ただ宗教的な項目を説き明かし、教えること、説話や忠言によって正しい道を示し、人々に光を与えることです。アッラーとそのしもべの間に入り、彼らを許すこと、あるいはそのドゥアーを受け入れることといった権限は持たないのです。

４．現世と来世、物質と意義のバランスを保っている

イスラームは節度や均衡に大きな重要性をおいています。一方に重きを置く時には、もう片方をも軽視しません。その両方をもアッラーが創造されたのであり、人々がそれを必要としているのであり、どちらか一方を軽視することは本質にそぐわないのです。全てにその権利を与え、必要なだけ関わりを持つことが必要なのです。この観点から、現世は来世を得る為の資本であり、非常に尊い恵み

により許され、もしくは罰せられる。しもべにふさわしいのは、自らの罪を見てそれらをただし、悔悟することである。

なのです。それを、アッラーのご満悦を得る方向で用いるべきなのです。来世は真の目的であり、それを決して失念しないことが必要です。ただ現世にのみ方向づけられた世俗主義者の観点と同様、ただ来世の身の方向づけられた聖職者としての見方も、人間を満足させることはありません。双方とも互いに譲り合い、繊細なバランスと一体性の中で調整されるべきです。その例の一つが、以下のようなものです。

預言者ムハンマドはマディーナに来たばかりの頃に、ムスリムたちが「兄弟であること」を宣言されました。マッカから移住した人々ムハージルを、マディーナの住民アンサールとそれぞれ一人ずつ兄弟とされたのです。この兄弟制は、多くの効果と共に、ムスリムたちに現世と来世を共に獲得する可能性を与えました。兄弟たちは朝起きると、一人が預言者ムハンマドのもとに、もう１人は仕事に出かけました。その日を預言者ムハンマドのもとで過ごしたサハーバは、その日学んだクルアーンの言葉やハディースを、夜になると隣人に伝えました。翌日にはその役割を交換しました。

魂と肉体について言えば、これらは人間の二つの面を構成しています。魂が本質であったとしても、肉体もその乗り物なのです。

従って魂に重きをおき、体を疲弊させることは正しくありません。

預言者ムハンマドの教えによると、人が来世で最初に問われることの一つが健康をどこで費やしたかということなのです。[27]

イスラームは、礼拝、断食、ザカートといったイバーダにおいてすら、均衡のとれた振る舞いをすることを命じています。嫌になる程に重いイバーダ生活は奨励していません。[28]例えば、施しについては次のように語られています。

「また（財貨を）使う際に浪費しない者、また吝嗇でもなく、よくその中間を保つ者。」（識別章第６７節）

ムスリムはどのような点でも過度になることはなく、常に中道を選択します。この為にアッラーはムハンマドのウンマについて次のように仰せられています。

「このようにわれは、あなたがたを中正の共同体〔ウンマ〕とする。」（雌牛章第１４３節）

27. Tirmizî, Kıyamet, 1/2417.
28. 参照 Buhârî, Savm 55, 56, 57, Teheccüd 7, Enbiyâ 37, Nikâh 1, 89; Müslim, Sıyâm 181-193; Ebû Dâvûd, Savm, 55/2428.

5. 学ぶことを奨励する

イスラームは今日まで、「知」と対立したり、衝突したりすることはありませんでした。イスラームは学問を禁じるどころか、それを強く奨励しているのです。そして知識を得ることを全てのムスリムの義務としたのです。[29]また一方で、学問の発見も決してイスラームの見解を嘘であるとはしなかったのです。逆に、常にそれらを評価してきました。なぜ、嘘とすることがあり得るでしょうか。学問とは、アッラーが創造された存在について研究し、アッラーがそれらに設けられた法則を見出そうとすることです。イスラームもアッラーによって下され、そのままの形で維持された神からの教えなのです。従って学問とイスラームの源は同じです。つまり、同じ水源を持つ、二つの異なる川のようです。学問が発展し、進めば進むほど、アッラーの偉大さ、力、英知の無限さがより明らかになり、人々のアッラーへの信仰は強まります。だから学問はイスラームの、欠かすことのできない一部なのです。

アッラーは知の主であられ、秘められたもの、明らかなもの全てをご存じであると示す多くのアッラーの美名があります。しもべはアッラーの知という特性から、何かを得られるよう努力すべきです。一方で、人々に学

29. İbn-i Mâce, Mukaddime, 17.

問を奨励する多くのクルアーンの言葉とハディースが存在します。そのうちの一部を紹介しましょう。

アッラーの、預言者ムハンマドへの最初の呼びかけは「読め」という命令です。この命令のすぐ後に、信者の注意を人間の創造へとひき、その点での研究を奨励しています。それから「読め」という命令が繰り返され、筆によって教え、人が知らないことを教えるアッラーが非常に気前の良いお方であることを示しています。学び、研究するしもべたちに豊かな恵みを与えられることが語られています。（凝血章1－5節）

続いて下された章句では、筆や書かれたもの、書物に誓いがなされ、書物という言葉が何度も繰り返され、知識、学者、知恵をつけること、熟考すること、思考することが賞賛と共に言及されています。[30]だから読むこと、書くこと、教育、研究、熟考、頭を使うといった点はこの教えの基本的な性質となっています。

アッラーは次のように語られています。

「アッラーはかれの外に神がないことを立証なされた。天使たちも正義を守る知識を授った

30. 筆章第1節; 金の装飾章第2節; 煙霧章,第2節; ルクマーン章第27節; 婦人章第127節;集団章第 1節; ガーフィル章第2, 67節; 雌牛章第2, 164節, 266; イムラーン家章第118節; 家畜章第32, 50節; ビザンチン章第8節; ヤースィーン章第68節;跪く時章第13節

者もまた（それを証言する）。偉力ならびなく英明なかれの外に、神はないのである。」（イムラーン家章第１８節）

この節では、真の学者たちと天使が同時に言及されており、これ以上の誉れはあり得ないでしょう。

「言いなさい。「主よ、わたしの知識を深めて下さい。」」（ター・ハー章第１１４節）

「もしあなたがた、これが分らないなら訓戒を受けた民に聞け。」（預言者章第７節）

「これらは、われが人間のために提示する譬えである。だが知識ある者の外は、これを理解しない。」（蜘蛛章第４３節）

「アッラーはあなたがたの中信仰する者や、知識を授けられた者の位階を上げられる。本当にアッラーは、あなたがたの行う一切を熟知なされる。」（抗弁する女章第１１節）

預言者ムハンマドは次のように言われました。

「誰であれ、知識を得ることを願って道に入るのであれば、アッラーはその人を天国への道のどれかに送られる。天使たちはその行いに満足し、学ぼうとする人の上に翼を広げる。天や地にある全てのもの、さらには水中の魚すら、知識ある者の為にアッラーに許しを求める。学者の、イバーダを行う者に対

する優位性は、満月の星に対する優越性のようである。学者たちは、預言者たちの遺産相続人である。預言者たちは、遺産として金銀を遺さない。彼らは知識を遺産として遺す。誰であれこの遺産を受け取る者は、大きなものを受け取ったことになる」(Ebû Dâvûd, İlim, 1/3641; Tirmizî, İlim, 19/2682. Bkz. Buhârî, İlim, 10; İbn-i Mâce, Mukaddime, 17)

「サダカのうち最も有益なものは、ムスリムが知識を学び、それをムスリムの兄弟に教えることである」(İbn-i Mâce, Mukaddime, 20)

「知識と英知の民と共にあり、低俗な性質を持つ者、罪を犯す者から遠ざかっている者は何と幸福なことか」(Ebû Nuaym, Hilye, III, 202-203)

「しもべが死後、墓に入ってからも報償が彼に届く７つの事柄がある。彼が教えた知識、流させた水、作った井戸、植えた実のなる木、建設したモスク、読ませる為に遺産として遺したクルアーン、死後彼の為に悔悟を行うよい子供である」(Beyhakî, Şuab, III, 248; Heysemî, I, 167)

「信者は、最後に到達する場所が天国となるまでは、耳にした知識に満足することはない」(ティルミズィー、イルム 19/2686)

預言者ムハンマドは読み書きを知っているサハーバたちを、マディーナのムスリムた

ちに文字を教えるべく任命しました。アブドゥラー・ビン・サアド、ウバーダ・ビン・サーミド、ハフサ・ビンティ・ウマル、シファー・ビンティ・アブドゥラーは、文字を教える任務を与えられたサハーバの例です。

偉大なイスラーム学者**フダイル・ビン・イヤーズ**は次のように語っています。

「学者、アーミルすなわち知識によって行動する者、そして教師は、天における魂や天使たちの位階で、「**偉大な者**」とされる」（ティルミズィー、イルム、19/2685）

だからムスリムは知識を得ることにイバーダの喜びによって結びついていました。読み書きができる人の割合は急速に上昇しました。サハーバや彼らに続く世代の人々は学問の為に何か月も旅をし、何年も異国に滞在していました。

イブニ・アッバースの解放奴隷**イクリマ**は次のように語っています。

「アブドゥッラー・ビン・アッバースは私と息子アリーに、

『アブー・サイドに行き、そこで預言者ムハンマドのお言葉を聞きなさい」と言いました。私たちはアブー・サイドのところに行きました。彼は兄弟と共に庭園を整え、水やりをしていました。私たちを見て、そばにき

て腰をかけました。そして話し始めました』（ブハーリー、サラート63、ジハード17）

預言者ムハンマドの孫ハサンは自分の子供たちと兄弟たちの子供たちを集め、次のように言いました。

「子供たちよ、甥たちよ、姪たちよ。あなた方は今は小さな子供であるが、近い将来、他の人々の中で上層と言われる立場に立つだろう。だから、必ず知識を学びなさい。学んだ知識を暗記し伝えることができない者は、それを書いて家に残しなさい」（ダーリミー、ムカッディメ　43/517 ）

ムスリムたちは設立した、もしくは征服した全ての年で、モスクのそばに学校、図書館、公衆浴場や食堂を建設しました。この学校で、宗教的知識とならび、医学、地理、数学、天文学といった学問も教えられました。なぜなら礼拝や断食と言ったイバーダのキブラや時間の割り出しの為に天文学、地理のような学問が、ザカート、遺産の分割においてはしっかりした数学が必要となるからです。クルアーンで言及されている民族について調べる為には歴史、地理と言った知識を得ることが必須でした。この為にムスリムたちは各種の有効な学問に従事するようになったのです。[31]

31. Prof. Dr. M. Hamîdullah, *İslâm'a Giriş*, p. 243-264.

ムスリム達の学問への奉仕

歴史を通して様々な場所で多くの文明が誕生しました。これらは互いに影響を与え、互いの文化遺産を得ながら発展しました。こうして学問は、様々な文化や文明の奉仕によってより迅速に発展することができたのです。ムスリムもそれ以前の文明から知識を得て、それを大きな謙虚さによって示し、学んだ知識を発展させる形で、学問や文明に大きな貢献を行いました。ロバート・ブリファルトは次のように語っています。

「ヨーロッパが発展したあらゆるシーンに、イスラーム文明の確実に大きな取り分、明らかな影響、絶対的な役割が存在する」[32]

ムスリムをこの道における努力へと導く動機は預言者ムハンマドの、

「英知は、信者が失ったものであり、それを見出した場所でそれを得る権利は誰よりもある」[33]というハディースです。　小さな頃からこの見解を持って成長したムスリムたちは、それ以前の人々の文明の遺産を集めるという点で互いに競い合っていました。しばらくすると世界でも最も重要な書物や最も偉大な学者たちがイスラーム諸国に流入するようになりました。ムスリムはまずこれらの本をアラビア語に翻訳しました。それから、そ

32. Robert Briffault, *The Making of Humanity,* p. 190.
33. Tirmizî, İlim, 19/2687; İbn-i Mâce, Zühd, 15.

れよりもなお発展した本を書きました。例えば、その時代まで最も偉大な医学書として認められていた、**ガレン**の「解剖書」がイスラーム学者によって翻訳された後、その内容はそのまま受け入れられることはなく、実際に検証を行い、誤った部分を取り除いてからそれを承認し、そこからさらに発展させていったのです。

エミル・チェレビは、「アンミュゼジュッティプ」という名の書物で、ある筆者が以前に書いた作品を、そこに何も加えることなくそのままで伝えることが正しくないこと、人が書いた作品に、自分の経験の成果も記録するべきであると語っています。例えば、サカモンヤ（マフムディィイェ草）と呼ばれる薬の量は、気候やそれが育つ場所によって変わる為、**イブン・スィーナー**の「医学典範」という書物で記されているままの量で使うことは正しくないこと、また一方でアンタクヤのサカモンヤとイスタンブールのバスラのサカモンヤはその分量で与えられると誤った結果を出すということを語っています。(Şaban Döğen, Müslüman İlim Öncüleri Ansiklopedisi, p. 132)

このようにムスリムと学問との結びつきは偶然ではなく、非常に意識的で効率の良いものなのです。

ムスリムは天文観測を、**アフマド・アンーニハーヴァンディ**により西暦800年に開始しまし

た。それから大きな観測所を造りました。天体観測儀を開発し、太陽、月、星やその他の惑星の高さ、時間、山の高さや井戸の深さを測定しました。研究の結果、以前の定理を補正し、新しい星の一覧を作成しました。多くの新しい星が発見され、黄道の傾きが新たに測定されました。太陽の南中の動きが観測され、恒星の動きと関連付けられました。惑星の動きに関する重要な発見がなされました。ムスリムは数学を天文学に適用することで新しいメソッドを構築しました。「桁計算」の代わりに三角法と正弦の計算を用い、より確実な測定が可能となりました。さらに惑星の動きに関する計算技術において、それまでよりもずっと高度な完成度に至ったのです。[34]

ムスリムは同様に、地質学、鉱物学、植物学、動物学、数学、物理学、化学、医学、薬学と言った多くの分野で発見を行い、それらの学問の発展に大きな貢献をしました。例えば、**イブン・スィーナー**（980～1037）は、29の異なる分野の発見により、ヨーロッパの学者を導いた偉大な学者です。医学に関して書いた「医学典範」という本は、ヨーロッパの大学で600年間、教科書として読まれてきました。目の網膜層の機能に初めて言及したのは**イブニ・ルシュド**（1126～1198）です。**アリ・ビン・イーサー**（11世紀）が目について書いた「眼科

34. Prof. Dr. Seyyid Hüseyin Nasr, *Islamic Science (İslam ve İlim)*, p. 113-134.

医の為の指針」という名の作品は、何世紀もその分野における唯一の書物であり、ラテン語、ドイツ語、フランス語といった言葉に翻訳されています。**アンマール・ビン・アリー**（11世紀）は9世紀前に目の手術を行い、白内障の治療について「アル・ムンタハブ・フィ　イラージル　アイン」という書物で詳しく説明しています。この書物も、ラテン語、ドイツ語と言った様々な言葉に翻訳されています。

光学系の科学の創始者である偉大な物理学者イブニ・ヘイセム（アルハゼン）（965～1051）はメガネを発明しました。**アリ・ビン・アッバース**（994）は現代の近代的な手術にもかなった形で、ガンの手術を行いました。彼の「キターブル・マーリキー」という名の医学事典は、今日でも驚きと共に精査がなされています。**アブー・カースム・アッーゼフラヴィー**（963～1013）は外科手術を独立した学問としました。200程の手術道具の絵を描き、どのような役に立つかについて、そして使用方法を「タスリフ」という名の作品で示しました。小血液循環について1210年から1288年に生きた**イブヌヌーナフス**が発見し、それをイブ・スィーナーの「医学典範」という本で書いた解説で詳しく説明しました。**アクシェムセッディン師**（1389～1459）の「マッダトゥルーハヤートゥ」という本において初めて細菌に関する言及がなされました。

数学でゼロを最初に用いたハーリズミー（780～850）は、「アル・ジャブル　ワルームカーバラ」という書物で、代数の基礎を築きました。ムーサーの息子たち（9世紀）は地球の周囲をわずかな誤差で測定しました。多くの学問分野で発見を行ったビルーニー（973～1051）が、地球の自転と公転を証明しました。インドのネンデネ近郊で行った調査の結果、地球の半径の測定に成功しました。この項目で彼が示した法はヨーロッパでは「ビールーニーの法則」として知られていました。バッターニ（アルバテグニ）は24秒の差で、太陽年を計算しました。最初の飛行試験は、イスマイル・ジェヴヘリー（950～1010）が行いました。飛行機の先駆けとなるものを、880年にイブニ・フィルナースが作りました。鳥の毛と布を張った飛行機と共に長時間空中にとどまり、滑空するように地面に降りました。ラーズィ―は引力について言及しました。クリストファー・コロンブス（1446～1506）はアメリカ大陸の存在をムスリムから、特にイブニ・ルシュド（1126～1198）の書物から知ったことを記録しています。イドリシー（1100～1166）は8世紀前に、現在の世界地図に似た地図を作製していました。ディネヴェリー（895年死去）は全6巻の植物事典である「植物の書」を書きました。この作品では植物の外見の説明にとどまらず、同時にその栄養価や医学的その他の性質、生えている場所についても取り上げ、それらを分類しています。ジャーフズ（869年死去）は動物の生につい

て「動物の書」という名の７巻の大作を遺しています。[35]

これらは一部の例に過ぎません。言及されている作品を詳しく調べれば、ムスリムたちが学問という点で人類に非常に大きな貢献をしたことが明らかとなります。

ムスリムは学問的な活動を、アッラーをよりよく知り、しもべにより奉仕することでアッラーのご満悦を獲得する為に行っていました。従って効果のない知識に従事することは避けると共に、知識を人々に害のある方向で使うことからも遠ざかっていました。当時のスルタン　ムタヴェッキルはフナイン・ビン・イスハクに、敵に飲ます為の毒を作るよう求めました。フナインは毒を作る力を持った化学者でした。しかし投獄され、あらゆる威嚇を受けたにも関わらず、それを受け入れませんでした。

35. この項目に関する豊富な文献や例について、次の作品を参照されたい。**Prof. Dr. Fuat Sezgin,** *Science et technique en Islam I-V,* Frankfurt, 2004 (*İslam'da Bilim ve Teknik I-V,* Ankara 2007) ve diğer kitapları; **Prof. Dr. Seyyid Hüseyin Nasr,** *Islamic Science, An Illustrated Study,* World of Islam Festival Pub. Co. Ltf., England, 1976 (*İslam ve İlim*, İstanbul 1989); **Dr. Sigrid Hunke,** *Allahs Sone über dem Abendland-Unser Arabischen Erbe,* Germany 1960 (*Avrupanın Üzerine Doğan İSLAM GÜNEŞİ,* İstanbul 1991); Prof. Dr. M. Hamîdullah, *İslâm'a Giriş,* s. 243-264; http://www.**1001inventions**.com; **Carra de Vaux,** *Les Penseure de l'Islam,* Paris 1923; *Avicenne,* Paris 1900; **Prof. Dr. Mehmet Bayraktar,** *İslâm'da Bilim ve Teknoloji Tarihi,* Ankara 1985; **Ahmet Gürkan,** *İslâm Kültürünün Garbı Medenileştirmesi,* İstanbul 1969.

「私の宗教は、的に対してすら善を施すことを命じています。私の職業は人々の役に立つよう奉仕すること、彼らを治療し癒すという原則に基づいています。殺すことではありません」と言ったのでした。

キャット・スティーブンスは次のように語っています。

「今日、西洋が発展させている活動のうちごくわずかのみが人類に向けられたものである。残りは、一定の層がその他の層を支配する為に用いる為に作られている。今日、科学の成果の５パーセントが人々の問題を解決しているとすれば、95パーセントは威嚇の為に用いられている」

6. 公正さを何よりも優先する

アッラーは絶対的な公正さの持ち主です。ほんのわずかな不正も存在しません。その美名のうちの一つは、絶対的な公正さの持ち主という意味になり、アル・アドゥルというものです。[36]従ってしもべにも、あらゆる点で公正さと正義を求められます。アッラーは次のように語られています。

「あなたがた信仰する者よ、証言にあたってアッラーのため公正を堅持しなさい。仮令あなた

36. Tirmizî, Deavât, 82/3507.

がた自身のため、または両親や近親のため（に不利な場合）でも、また富者でも、貧者であっても（公正であれ）」（婦人章第135節）

預言者ムハンマドは立腹している際も落ち着いている際も、公正さから離れないことを命じられ、このように振る舞う者に大きな報償を約束されました。[37]

イスラームはムスリムに、敵に対してすら公正に振る舞うことを命じています。

「あなたがた信仰する者よ、アッラーのために堅固に立つ者として、正義に基いた証人であれ。人びとを憎悪するあまり、あなたがたは（仲間にも敵にも）正義に反してはならない。正義を行いなさい。それは最も篤信に近いのである」（食卓章第8節）

スハイル・ビン・アムルは、クライシュ族の導師でした。その言葉が過度に影響力を持っていた時代に、常にイスラームに反することを語り、人々を扇動していました。この人物はバドゥルの戦いで捕虜となりました。聖ウマルは、

「アッラーの使徒よ、許可を出してください、スハイルの前歯を折り、舌が外に垂れるようにしましょう。今後、決してどこにおいてもあなたやイスラームに反することを語

37. Heysemî, I, 90; Ebû Nuaym, *Hilye,* II, 343; VI, 268-9.

ることができないように」と言いました。預言者ムハンマドは、

「彼を放しなさい、ウマルよ。私は彼の器官にそのような害を及ぼすことはできない。もしそれを行えば、預言者であっても、アッラーが同じことを私になされるだろう」（イブニ・ヒシャム2－293）

預言者ムハンマドはハイバル包囲の際に、ムスリムが相手側の動物や果実に害を及ぼしていることを聞かれ、この上なく立腹され、それを強く禁じられました。（アブー・ダーウード、ハラージュ31-33/3050）

イスラームにおける基本的な論争もしくは衝突は、抑圧者とそれを維持する側と、公正者と公正さを守る側の間にあります。クルアーンでは「悪を行う者以外に対し、敵意を持つべきではない」（雌牛章第193節）とされています。[38]人の権利を尊重する人は、ムスリムであろうとなかろうと、その人とムスリムが一つの社会で生きることが可能です。ただしムスリムが迫害を行い、人の権利を尊重していないのであれば、彼に対抗することも一つの務めです。従って社会的なレベルで私たちと他者を区別する試金石は、不正と公正です。[39]

ムスリムが公正さによってどのような段階に到達しているかを示す例が次のようなも

38. 雌牛章第192節
39. Prof. Dr. Recep Şentürk, *İnsan Hakları ve İslâm,* p. 22.

のです。ムスリムはフムスの町を支配下におきました。彼らを保護しているために、一定の税金を取っていました。その時、ビザンチン皇帝のヘラクレイオスが大軍を率いてムスリム側に進攻してきました。ムスリムは相手の力が強大であることを知り、不安を感じていました。フムスの住民が支払った税金を彼らに返し、

「私たちは今、攻撃を受けている為、あなた方を保護し、守る力がありません。あなた方はこれより自由です。望みのままに振る舞ってください」と言いました。フムスの人々は、

「誓って言いますが、あなた方の統治や公正さは、それ以前の迫害や強奪に比べて好ましいものです。あなた方の知事と共に町をヘラクレイオスから守りましょう」と答えました。ユダヤ人たちも、

「律法に誓って、私たちを倒さない限り、ヘラクレイオスの知事はフムスの町に入ることはできない」と言いました。町の扉を閉鎖し、敵に対し防衛を行いました。和平条約を結んでいた他の町のキリスト教徒やユダヤ教徒も、同じように振る舞いました。そして、

「もしローマ人や彼らに従う者たちがムスリムに勝利すれば、私たちはまた以前の迫害と強奪の時代に戻り、大きな苦労を味わ

う。ムスリムが勝てばいいのに、以前の条約のように共にあることができればいいのに」と言ったのでした。アッラーがビザンチン軍を配送され、ムスリムに勝利を恵まれると、町をムスリムに開放し、踊り子を出し、喜びを表現し、税を支払ったのでした。[40]

7. 普遍的な教えである

イスラームは全ての人々及びジンを、自らに招いています。全ての人が、民族、肌の色、性別、国が何であろうとムスリムとなることができます。人類を義務と権利に応じて扱うイスラームでは、ただ、信じる人と信じない人という二つの民族の身が認められるのです。[41]

慈悲が全ての被造物を包括するアッラーによって、人間の幸福と平安の為に遣わされたシステムが、一部の人々の為に割り当てられ、それ以外の人がその恵みから遠ざけられることは、決して論理的ではありません。この状態はアッラーの慈悲と慈愛という特性に

40. Belâzurî, *Fütûhu'l-büldân,* Beyrut 1987, p. 187.
41. 全ての人は、自らの時代の預言者のウンマである。預言者ムハンマドが預言者として送られた以降の人は皆、彼のウンマである。しかしその一部は彼が預言者であることを信じているが、一部はそれを否定しているのである。

もそぐわないものです。預言者ムハンマドは次のように語られています。

「慈悲を行う者に、慈悲深いお方であるアッラーも慈悲を示される。あなた方は地にあるものに慈しみと慈愛を示しなさい。天にある者があなた方にも慈愛を示されるように」（ティルミズィー、ビッル、16/1924）

このハディースでは特定の種族が示されていません。さらには、ただムスリムについての言及でもありません。地上で生きる全ての人々、動物、植物に慈悲をかけることが命じられているのです。

クルアーンでは、預言者ムハンマドは全ての人々をアッラーへと招く為に遣わされたということを、次のように示しています。

「言ってやるがいい。「人びとよ、わたしはアッラーの使徒として、あなたがた凡てに遣わされた者である」（高壁章第158節）

「われは只万有への慈悲として、あなたを遣わしただけである」（預言者章第107節）

預言者ムハンマドは次のように語られています。

「私以前の預言者は、ただその民の為に遣わされた。私は、全人類の為に遣わされた」（ブハーリー、タヤンムム1）

従って預言者ムハンマドはイスラームをただアラブ人のみに伝えたのではありませんでした。生前から、皇帝や王に送った使者や手紙によって、ビザンチン、イラン、エチオピア、エジプトその他の人々をイスラームに招いていました。[42]

イスラームはまた、あらゆる時代や場所を包括しています。一定の時代や地域に限定されてはいないのです。実際、今では世界各地で、あらゆる民族のムスリムを見ることができます。特に巡礼の季節にはこの人々は、アッラーの命令によってカーバの周辺に集まり、唯一であるアッラーにイバーダを行い、壮大なイスラームの一体性と兄弟愛を示すのです。

イスラームは人々の全てのニーズに応えることのできる形を持ちます。人間の精神的、肉体的、個人的、社会的な権利を守り、生命、死、神、預言者、天使、シャイターン、現世、来世、報償、懲罰、天国、地獄と言ったどの教えも納得のいく説明をできずにいた概念を明らかにしている、生き方と信仰のシステムなのです。

42. これらの手紙はその一部が原本としてイスタンブールのトプカプ宮殿博物館にある。手紙の写真や分析については Prof. Dr. M. Hamidullahの「預言者ムハンマドの6つの外交文書原本」トルコ語翻訳 Mehmet Yazgan, İstanbul 1998、İslâm Peygamberi; el-Vesâiku's-siyâsiyye等を参照。

この状況をよりよく把握する為には、次のことを思い起こせば十分でしょう。クルアーンは、迫害を受けた弱い人々によって構成された初期のイスラーム社会のニーズに応えているように、大西洋から太平洋までの統治を行い、地上で唯一かつ壮大な帝国となったイスラーム社会の全ての道徳的、法的ニーズにも応えているのです。この集団は、信仰、信条、イバーダ、社会生活、社会の法、そしてその他のニーズに関する全ての知識を、いつでもこの書物に見出すことができるのです。[43]

8. 人々を平等に扱う

イスラームはどのような民族、宗教、性別、社会、集団を区別することなく、全ての人を神の啓示の対象、同じ人間という家族の一員と見なしています。人々が同じ母、父に連なることを教え、彼らの間にあるいくつかの差異が敵対の要因ではなく、相互の良い関係の為の要因であると見なすことを奨励します。人々が異なる民族からなり、異なる社会を構成することは、彼らに与えられた恵みについての試練であり、人類が同じ理想と目的

43. M. Hamidullah, *Kur'ân-ı Kerîm Tarihi* (*Le Saint Coran*'の導入部分), p. 23.

の為に善行において競い合い、助け合う為の要素であると見なしているのです。[44]

イスラームでは、人々の中での優越は民族、色、国のような不可欠で自ら干渉することのできない運による事柄ではなく、人が意志や努力によって得ることのできるアッラーへの近しさや篤信の段階によって測られます。同じように、豊かさ、美しさ、強さ、一定の地位や立場に上がることといったことは、優位さの要因ではありません。これらはアッラーが与えられた恵みであり、感謝を最良の形で行うべきものなのです。あらゆる恵みの感謝は、それと同じ種類のものとなります。この世界で人々に与えられた恵みは、試験の際に生徒に問われる質問に似ています。生徒は決して、自分に向けられた質問を自慢することは考えません。ただ、出した答えの結果、得た点数に喜ぶのです。信者は、試練の為に与えられた力や恵みをアッラーのご満悦が得られる方向で用い、得た報償も来世で手にする為、この世界でそれを自慢し、自分の価値が高いと見なすことに何の意味もないのです。逆にこのような行為は、自らへの欺瞞となるのです。

イスラーム学者のアブー・ハーズィムは次のように語っています。

44.　食卓章第48節; 雌牛章第148節

「アッラーへと近づけることのない恵みは皆、災いである」

預言者ムハンマドは諸世界への慈悲として遣わされた一方で、ある時自らの優位性を示す必要性に迫られた時には "لَا فَخْرَ:「自慢ではない」という表現を何度も繰り返されたうえでそれを告げられたのでした。[45]

アッラーの位階において、その命令により注意深さを示す信者は、そうではない者よりもより優れているのです。[46] 民族は、ただはかない肉体についての特性です。肉体は、魂に着せられた覆いのようなものです。魂は永遠であり、それには民族もありません。なぜなら全ての魂がアッラーからもたらされたものであるからです。[47]クルアーンでは次のように語られています。

「人びとよ、われは一人の男と一人の女からあなたがたを創り、種族と部族に分けた。これはあなたがたを、互いに知り合うようにさせるためである。アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたの中最も主を畏れる者である。本当にアッラーは、全知にして凡ゆることに通暁なされる」（部屋章第13節）

45. Tirmizî, Menâkıb, 1/3616; Dârimî, Mukaddime, 8.
46. 部屋章第13節
47. アル・ヒジュル章第29節; アツ・サジダ章第9節; サード章第72節;預言者章第91節; 禁止章第12節

預言者ムハンマドは次のように語られています。

「行為は、それを遺した人の次世代を優位に立たせることはない」（ムスリム、ズィクル、38、イブニ・マジャ、ムカッディマ、17）

預言者ムハンマドは次のように語られています。

「人々よ、アッラーはあなた方に、無知なうぬぼれと父祖を自慢することを禁じられた。人々は二つの階級に分けられる。一つは、善と篤信を持ち、アッラーが価値を置かれている人々であり、もう一つは罪を犯し、悪事をなし、アッラーの位階で価値のない人々である。全ての人々はアーデムの子孫である。アッラーはアーデムを土から創造されたのである」（ティルミズィー、タフシール49/3270、アブー・ダーウード、アーダーブ110-111/5116）

別れの説教では次のように語られています。

「人々よ！注意しなさい。アッラーは唯一であり、あなた方の父（アーデム）は唯一である。注意しなさい！アラビア人はアラブ人でない者に対して、アラブ人でないものはアラブ人に対して、赤い肌の人は黒い肌の人に対して、黒い肌の人は赤い肌の人に対して、何の優位性も持たない。彼らは互いに対

し、ただ篤信によってより優れることができる」　（アフマド、5, 411）

9. 信仰と良心の自由を基本とする

アッラーは意識を持ち自由な者として創造された人間に、善悪を示されました。ただ、決して意志の自由に干渉はされませんでした。皆、自由意思によって選択を行い、選択の結果も自らで引き受けるのです。クルアーンでは次のように語られています。

「もし主の御心なら、地上の凡ての者は凡て信仰に入ったことであろう。あなたは人びとを、強いて信者にしようとするのか」（ユーヌス章第99節）

「だから誰でも望みのままに信仰させ、また（望みのままに）拒否させなさい。」（洞窟章第29節）

「もしあなたがたが信じなくても、アッラーはあなたがたを必要とされない。だがかれは、しもべたちの不信心を喜ばれはしない。しかし感謝するならば、かれは喜ばれる」（集団章第7節）

無明時代、子供ができない女性は「もし私の子が生きれば、その子をユダヤ教徒にします」と願をかけていました。この為マディーナの人々がムスリムになった時、一部の子供たちはユダヤ教徒と共にいました。ナディール族のユダヤ人たちがムスリムとの条約を破り裏切り行為を行った時、マディーナから

の追放が決定されました。生後にユダヤ教徒となった子供たちの家族は、

「私たちの子供たちがユダヤ教徒と共に去ることを認めない（彼らを無理やり奪ってムスリムにする）」と言いました。それに対しアッラーは「宗教には強制があってはならない」（雌牛章第256節）という節を下されました。[48]

イスラームはその原則を、人々に強制的に認めさせることを求めません。この為、強制はあらゆる形で避けられます。思想上の強制すら、避けられるのです。例えば、奇蹟はイスラームの基本的な布教の媒介とはなりませんでした。預言者ムハンマドに特別な出来事に基づいた奇蹟を求めることは、好まれませんでした。イスラームは人間の成長する時代にあたっていた為、クルアーンの奇蹟によって認識や理性に呼びかけを行ったのでした。論理的な法や納得のいく証拠を示す形で、人を自らへと結びつけました。この為に、物質的な強制は決して、媒介として用いられることはありませんでした。[49]

そもそも宗教的な点で強制力を用いることは、たいていの場合人を分裂へと追いやり、これも明白な教えへの否定よりもさらに危険なものです。心からではなく行われてい

48. 雌牛章第256節 Ebû Dâvûd, Cihâd, 116/2682; Vâhidî, p.85-87.
49. Prof. Dr. Seyyid Kutup, *İslâm'ın Dünya Görüşü,* p. 32-33.

るイバーダも、偽善や見せかけの為になされたものであり、強く否定されているのです。

アブー・ラーフィ—は次のように語っています。「クライシュ族は私を預言者ムハンマドへの使いとして派遣した。預言者ムハンマドを見て、私の心にイスラームへと入る希望が芽生えた。

『アッラーの使徒よ、誓って言うが、私はクライシュ族のもとには決して戻りません』と言いました。預言者ムハンマドは、

『私は条約を破らない。私のもとに来た使者を拘束することはできない。あなたは今はクライシュ族の元に戻りなさい。もし今、あなたの心にもたらされた（入信への希望が向こうでも）感じられたならば、ここに戻ってきなさい』と言われた。そこで私はマッカに向かった。使者としての任務を終えて、預言者ムハンマドの元に行き、ムスリムになった。（アブー・ダーウード、ジハード151/2758）

マッカの有力な多神教徒の一人サフワンは、征服の日に逃亡しました。預言者ムハンマドは伯父の息子であるワッハーブ・ビン・ウマイルに彼を追わせました。保障のしるしとしてご自身の外套を持たせました。預言者ムハンマドは、彼をイスラームへと招き、自分の元に来ることを求められました。望むならすぐに受け入れることもできるし、望まないのであれば2か月間、思考の為の猶予が与え

られることも告げられました。それに対しサフワンは、預言者ムハンマドのもとに外套と共にやってきました。そして人々の中で大声で叫び、

「ムハンマドよ！ワッハーブ・ビン・ウマイルは、あなたの外套と共に私のところにやってきた。そしてあなたが私を招いていること、望むならイスラームを受け入れること、望まないなら2か月の猶予を与えることを告げた」と言いました。預言者ムハンマドは、

「ラクダから下りなさい、アブー・ワッハーブよ」と言いました。

「いや、誓って言うが、問題がはっきりさせられるまでは下りない」と彼は答えました。それに対し預言者ムハンマドは、

「あなたにはさらに、4カ月を与える」と言われました。サフワンは不信心者でありながら、預言者ムハンマドと共に遠征に参加しました。フナインの遠征にも、ターイフの包囲にも参加しました。1か月後にムスリムとなりました。（ムワッタ、ニカーフ44－45）

預言者ムハンマドと会いに来た**ナジュランのキリスト教徒たちは**、自分たちのイバーダの時間が来た時、モスクで立ち上がりました。ムスリムの一部は彼らを妨害しようとしました。しかし預言者ムハンマドは、

「彼らを自由にさせなさい」と命じられました。ナジュランのキリスト教徒たちも東の方角に向けてイバーダを行いました。[50]

聖**ウマル**の時代に、アブー・ウバイダ・ビン・ジャッラフはキリスト教徒であるフムスの人々と条約を結び、彼らの生命、財産、城壁、教会、風車を保護することの対価として、町を統治下におきました。ユハンナ教会の4分の1をモスクにするという条件で、この条約の対象外としました。**ムアーウィーヤ**がカリフになると、この教会をドゥメシュクのモスクの一部とすることを望みました。しかし反発を受けた為にその考えを断念しました。**アブドゥルメリク・ビン・マルワン**も同じ目的で非ムスリムに多くのお金を支払いましたが、それは受け入れられませんでした。**ワリド・ビン・アブドゥルメリク**も、彼らに教会の対価として大金やその他の選択肢を与えたにも関わらず、彼らがそれを認めなかった為に教会を破壊してモスクに改築しました。このことに関し、カリフである**ウマル・ビン・アブドゥルアジズ**に訴えが出され、調査が行われました。そして非ムスリムたちが正しいということがわかり、その場所を持ち主に返還することが決まりました。しかし今度は、ムスリムがモスクから教会に変えられることを認めませんでした。ウマル・ビン・アブドゥルアジズは非

50. İbn-i Hişâm, II, 202-207; İbn-i Sa'd, I, 357; Beyhakî, Delâil, IV, 382-387; Halebî, *İnsânu'l-uyûn,* III, 235.

ムスリムと会見を行い、ムスリムによって征服されたグータにある全ての教会を彼らに与えることで彼らを満足させ、この問題を解決させたのでした。[51]

イギリスの歴史家フィリップ・マーシャル・ブラウンは次のように書いています。

「トルコ人は大きな勝利を収めたのにも関わらず、手に入れた全ての国の人々に、

自分たちの習慣と伝統に従って自ら統治する権利を気前よく与えた」

ナポレオン・ボナパルトは、1798年から1799年にかけて、オスマン帝国を攻撃した際、パレスティナとシリアで暮らしていたアルメニア人に反逆を起こさせることを望みました。フランスのイスタンブールでの大使であったセバスチャンは彼に次のように答えました。

「アルメニア人はここでの生活に非常に満足しており、反逆を起こさせることは不可能である」[52]

10. 容易さを原則とする

無限の慈悲の主であられるアッラーは、しもべの為に常に容易さを望まれ、イスラー

51. Doç. Dr. Bahâüddin Varol ve diğerleri, Cahiliye Toplumundan Günümüze Hz. MUHAMMED, s. 286; Prof. Dr. M. Hamîdullah, İslâm'a Giriş, p. 237.
52. 参照 http//www.atmg.org/ArmenianProblem.html.

ムをあらゆる点から容易とされました。「教えを実践する」為にこの世界から遠ざかり、常に苦しみや困難を受けること、あらゆる喜びから遠ざかることは不必要です。イスラームを受け入れることもそれを実践することも、最も無力な人にすら容易にできるほど簡単です。

クルアーンでは次のように語られています。

「アッラーはあなたがたに易きを求め、困難を求めない」（雌牛章第185節）

「かれは、あなたがたを選ばれる。この教えは、あなたがたに苦業を押しつけない」（巡礼章第78節）

「（また）アッラーは、あなたがた（の負担）を軽くするよう望まれる。人間は（生れ付き）弱いものに創られている」（婦人章第28節）

預言者ムハンマドは、イスラームの容易にするという原則の一つを、次のように教えておられます。

「アッラーは天使たちにこう命じる。『しもべが悪いことをすることを望んでいる場合、それを実行するまではそのことを記すな。それを実行すれば、彼について罪としてそれを記しなさい。もし私の満足を求めて悪事を断念すれば、それを彼について善行とし

て記しなさい。しもべが良いことを行うことを望んでいれば、それを実行しなかったとしてもそれを善行として記しなさい。もしそれを実行すれば、少なくとも10倍から700倍までの報償を記しなさい』（ブハーリー、タウヒード35、ムスリム、イマーン、203, 205）

サハーバたちは預言者ムハンマドが容易にわかりあえ、常に容易さを示す人であったことを伝えています。[53]

イスラームが容易さの教えであることを示すいくつかの例を紹介しましょう。

☑人はその力や可能性に応じて責任を負う。できないことは求められない。彼ができないこと、力が足りないことによって勘定を問われることはない。（雌牛章第285節）

☑イスラームでは段階性が基本である。酒、利子、姦通と言った広く行われていた罪は、一気に、ではなく、3段階もしくは4段階で少しずつ禁じられた。

☑礼拝を行う為には水でウドゥーをする必要がある。しかし水がない場所、あるいは水を使用した場合病気になる可能性がある場合は、土でタヤンムムをすることができる。

☑旅行中は、疲労、時間の制限と言った英知に基づき、4ラカートの義務の礼拝を2ラカートにして行う許しがある。

53. Müslim, Hacc, 137.

☑礼拝中の立位（キヤーム）は義務である。しかし立っているだけの力がない者は、その状態に応じて座った状態、寝た状態、もしくは想像で礼拝を行うことができる。

☑信者は礼拝中もしくは日々の生活において、クルアーンの中から自分にとって容易である部分を唱える。この点において、人を困難にさせる最低ラインというものはない。（ムザッミル、20）

☑イバーダを行う為の特別の場所はない。清潔であるあらゆる場所で礼拝を行うことができる。預言者ムハンマドは、次のように語っておられる。

「地上全てが、私にとって礼拝所、そして清潔な場とされた。従ってわがウンマの信者は、礼拝の時間が来ればすぐにその場で礼拝を行うように」（ブハーリー、タヤンムム、1）

☑断食を行うことは、害になるほどに病気である人、旅人にとって困難となり得る。この為、彼らはラマダーン月に断食するかどうかは自ら決めることができる。断食できなかった場合、旅から戻ってからそれらを行う。

☑巡礼の為の道において病気、戦争等の為に安心できない状況があれば、巡礼に行くことが義務であるムスリムは、その危険がなくなるまでそれを遅らせることができる。

☑アッラーは孤児の保護、誓いの保証、婚姻、婚姻時に与えられるお金、離婚、家族の生計、イバーダ、刑罰、遺産、契約、お金の貸し借り、要するにあらゆる行為において容易さを示され、信者にもそのように振る舞うことを求められている。[54]

このような例は、もっとたくさん挙げることが可能です。アッラーの大きな恵みを前に、私たちは預言者ムハンマドと同じ感情を共有し、こう言います。

「教えを、幅の広いものとしてくださったアッラーに感謝いたします」（アフマド、6, 167）

11. 楽観と希望を与える

イスラームは、人々が楽観主義であることを求めます。アッラーは「わが慈悲は全てを包括する」と仰せられています。[55]預言者ムハンマドは次のように語られています。

「アッラーが被造物を創造された時、地球の上にある書物に「わが慈悲は、わが怒りに勝る」と書かれた」（ブハーリー、タウヒード、15）

54. 雌牛章第178節, 180節, 220節-241節, 280節;婦人章第6節, 19節, 25節; 離婚章第2節, 6節, 7節
55. 高壁章第156節

この信仰は、ムスリムが希望を持つ為に十分です。一方で、許し、慈悲、忍耐、信頼、服従、状況を受け入れること、良い方向で捉えることといった良い性質がムスリムの生き方には見られます。身に起こった災いや病気が罪の償いになること、精神的なレベルを上げることも、人生の重荷を軽くする上で重要な位置を占めています。出来ることをやった後は運命に従い、アッラーからもたらされる全てのものを満足して受け入れるムスリムが、悲しむことは不可能です。彼は常に安らぎと平安の中で幸福な人生を生きるのです。

信仰を持たない者、罪を犯した者の為には、悔悟の扉がいっぱいに開かれています。一人は死のしるし、最後の審判のしるしを目にするまでは、あらゆる瞬間に信仰し、悔悟することができます。しかし死や最後の審判は人を突如捕えるものであり、時間を無駄にすることなく、一秒でも早くアッラーに向かうことが必要なのです。アッラーは次のように語られています。

「自分の魂に背いて過ちを犯したわがしもべたちに言え、「それでもアッラーの慈悲に対して絶望してはならない」アッラーは、本当に凡ての罪を赦される。かれは寛容にして慈悲深くあられる。あなたがたは懲罰が来る前に、主に悔悟して帰り、かれに服従、帰依しなさい。その（懲罰がや

って来た）後では、あなたがたは助からない」（集団章第53－54）

預言者ムハンマドは、人々が一部のことについて不運と見なすことを禁じられました。全てを良い方向で、肯定的に受け止めること、良い方向で解釈することを基本とされました。[56]

イスラームは邪推を避けること、人々を常に良い方向で解釈することを奨励します。クルアーンでは次のように語られています。

「信仰する者よ、邪推の多くを祓え。本当に邪推は、時には罪である。無用の詮索をしたりまた互いに陰口してはならない」（部屋章第12節）

必要な用心をした後は、アッラーから災いが与えられても、それに忍耐で応じ、報償をアッラーから待つのです。

ムスリムはアッラーの怒りを恐れると同時に、その慈悲についても決して絶望しません。恐れと希望の感情の間での子のバランスは「恐れと希望の均衡」と呼ばれます。死が近づくと、ムスリムがアッラーに抱いた肯定的な気持ちはより強まります。預言者ムハンマドは次のように語られています。

56. Buhârî, Tıb, 19; Müslim, Selâm, 102; Ebû Dâvûd, Tıb, 24/3919.

「皆、死ぬ時には必ず、アッラーについて良い方向で考えていなさい」（ムスリム、天国、81－82、アブー・ダーウード、ジャナーイズ、13）

物質的な観点から見ても、ムスリムは悲観主義者にはなりません。なぜならアッラーは全ての人々の糧を与えられるからです。クルアーンでは次のように語られています。

「困窮するのを恐れて、あなたがたの子女を殺してはならない。われは、あなたがたもかれらをも養うものである」（家畜章第151節）

「自分の糧を確保出来ないものが如何に多いことであろうか。アッラー（こそ）はそれらとあなたがたを養われる。かれは全聴にして全知であられる」（蜘蛛章第60節）

人は自らに糧として定められたものが何であれ、必ずそれに到達します。従ってその点で悲観主義になるべきではありません。ただ、糧の確保の為に必要なことは行うべきなのです。出来ることを全て行い、誠実に努力をした後、アッラーが与えられた糧に－量の多少について言及することなく－満足し、アッラーが喜ばれる形でそれを用いるべきなのです。

12. 社会的相互援助やダイナミズムに重きをおく

人はその創造されたあり方から、社会性のある存在です。1人で生きることができないのです。親しくなるべき他の人々を必要とします。さらに、無力に創造され、自分のニーズの全てを自分で賄う力もないのです。従って人は集団で生きるべきであり、互いに助け合い、アッラーへのしもべとしての奉仕を共に行うべきなのです。預言者ムハンマドは次のように語られています。

「アッラーの手は信者の集団と共にある。信者の集団から離れた者は、地獄への道へと逸れたことになる」（ティルミズィー、フィテン、7/2167）

「集団は慈悲であり、分裂は罰である」（アフマド、4、278）

イスラームが命じている集団礼拝、金曜礼拝、大祭の礼拝、巡礼、ザカート、施し、犠牲祭といったイバーダ、葬儀、結婚式、病人のお見舞い、親戚関係の維持、助けを必要としている人に関わりを持つことといった人間的なつながりは、常に人々に社会性を奨励します。当然、人々と共に行動することがもたらすいくつかの苦労があります。それらに忍耐することは、自己犠牲を必要とします。イスラームは社会の中で暮らし、人々の重荷

を負うムスリムに、大きな報償を約束しています。

偉大な得な親切さの持ち主であられる預言者ムハンマドは、粗野で理解のない人々に苦労させられた時には、誰をも傷つけることなく、皆に素晴らしい形で対応されていました。叔父のアッバースが、預言者ムハンマドのこの状態に同情し、

「アッラーの使徒よ！人々はあなたに苦労を与え、埃を巻き上げあなたを不快にしている。特別な張り出し窓を作ってそこから人々を離せばどうか」と言いました。諸世界への慈悲として遣わされた預言者ムハンマドは、

「いいえ、アッラーが私を彼らの間から取り去られ、アッラーにまみえる時までは私は彼らと共に居続けます。かかとを踏もうか、服を引っ張ろうが、埃を立てようが構いません」と言われました。(参照 Dârimî, Mukaddime, 14; İbn-i Ebî Şeybe, VII, 90; İbn-i Sa'd, II, 193)

預言者ムハンマドは、そのウンマにも同じことを奨励され、次のように語られています。

「人々の間に混じり、その苦労に耐えるムスリムは、彼らに混じらず、その苦労に耐

えない者よりもより尊い」（ティルミズィー、クヤーマ55/2507）

「人はその兄弟を必要としないのではない。あたかも二つの手のように、その一つは必ず、もう一つを必要とする」（Deylemî, Firdevs, III, 409/5251）

「信者は互いに出会った時には、互いを洗いあう二つの手のようである」[57]

イスラームは生計を立てる為に働くこと、結婚して子供を持つこと、施しをすること、与える手となること、時間をいい形で活用すること、来世を獲得する場である現世を最大限活用すること、正しいことを全ての人々に伝え、彼らを過ちから遠ざけること、財産、生命、誉れ、尊厳、次世代、祖国を守ることを命じ、人々を社会活動へ、そして活力ある暮らしを送ることへと導きます。ほんのわずかでも善行を行う者、ほんのわずかでも悪事を行う者に必ず対価が与えられること[58]を意識にとどめさせ、より注意深く、覚醒した生を送ることを可能とするのです。

イスラームは人の社会化を奨励する一方で、個人的なイバーダや熟考から彼らを遠ざけることも決してありません。あらゆる社会

57. Suyûtî, Câmiu'l-Ehâdîs, no: 21028; Deylemî, Firdevs, IV, 132/6411; Sülemî, *Âdâbu's-sohbe,* Mısır 1410, I, 95/128.
58. 地震章第7-8節; 家畜章第104節; 集団章第41節; フッスィラ章第46節; 跪く時章第15節

的な活動を、アッラーのご満悦の為にイバーダの意志を持って行うことを奨励しています。「人々の間で、人々と共にある」という原則を設け、「人々の中にある時すら、アッラーと共にいるという意識を持続させること」を求めます。言い換えれば、「手は仕事で稼いでいても、心は創造主とある」という原則に基づいて生きることを理想としているのです。

死を熟考すること、運命への信仰、タワックルや服従と言った点は一部の人々によって誤って説かれているように、決して人を惰性や失望に導くものではありません。逆に、信者をより注意深く、熱心で、心の安らぎと共に働くことになれさせます。死を思い起こす人は、時間の少なさを考え、より多くの、より質の良い仕事をしようとし、その時間を不必要なものの為に無駄にしません。我欲やシャイターンが引きずろうとする罪に陥ることもありません。運命を信じ、タワックルや服従を正しく理解する信者は、やるべきことをやらずにアッラーを信頼することがいかに誤ったことかを知っています。従って、その力に応じてできることを全てやった後で、結果をアッラーにゆだね、楽な気持ちになるのです。運命を信じない、タワックルや服従を認めない人は、そもそもそれ以上にできることはありません。このような人はアッラーを信頼していない為に、行ったことの結果について常に不安を抱き、結果が望んだ通りのも

のでなければ、精神的に大きな挫折を味わいます。運命を信じ、アッラーを信頼する信者は、責任を果たした後はその結果を得ることができなくても、その意思によって善行を得て、また過度に悲しむことからも守られるのです。つまり、物理的にも精神的にも益を得ているのです。

後にイスラームを選択したアメリカ人のカール・フォーブスは次のように語っています。

「私がムスリムではなく、単に社会主義者の観点から見たとしても、一つの文明、一つの信者集団がイスラームよりもよりよい基本の上に築かれることはなかったと考えるだろう」[59]

13. 人間に最も高い価値を与える

イスラームは人に、被造物の中で例外的な地位と誉れを与えています。クルアーンでは次のように語られています。

「本当にわれは、人間を最も美しい姿に創った」（無花果章第4節）

「われはアーダムの子孫を重んじて海陸にかれらを運び、また種々の良い（暮らし向きのための）ものを支給し、またわれが創造した多くの

59. Ahmet Böken - Ayhan Eryiğit, *Yeni Hayatlar,* II, 117.

優れたものの上に、かれらを優越させたのである」（夜の旅章第70節）

ある時預言者ムハンマドの前を、一体の亡骸が通過しました。預言者ムハンマドは立ち上がりました。人々は彼に

「アッラーの使徒よ、あれはユダヤ人の遺体でした」と言いました。預言者ムハンマドは、

「彼も一人の人間ではなかったのかね？」と言われたのでした。（ブハーリー、葬儀、50、ムスリム、葬儀、81）

このように預言者ムハンマドは、アッラーが大きな心遣いと共に創造された「人間」を前にして、その敬意から立ち上がったのでした。これにより、生きている人だけではなく、死者もまた敬意、尊重にふさわしい存在であることを示されたのです。**ヤーラー・ビン・ムッラ**は次のように語っています。

「預言者ムハンマドのそばで、何度も遠征に参加しました。アッラーの使徒は誰かの遺体があると、すぐにその埋葬を命じ、彼がムスリムなのか、不信心者なのかを訪ねられませんでした」（ハーキム、1、526/1374）

また預言者ムハンマドは、

「死者の骨を折ることは、生きた人の骨を折ることと同じように、罪である」と言われました。（イブニ・マジャ、葬儀、63）

亡骸に対してすらこれほど注意深く対応される人間の生命と魂はどれほど尊いことでしょうか。クルアーンでは次のように語られています。

「人を殺した者、地上で悪を働いたという理由もなく人を殺す者は、全人類を殺したのと同じである。人の生命を救う者は、全人類の生命を救ったのと同じである（と定めた）」（食卓章第32節）

従って人は、他者の生命及び自分の生命を奪うことを強く禁じています。そしてそれを行う者に、非常に重い罰を定めています。[60]

メヴラーナは次のように語っています。

「人の真の価値を語ろうとすれば、私も焼き尽くされてしまうし、この世界もそうなる。しかし残念なことに、人は自らの価値を知らない。自分を安売りしている。人は本当は、とても貴重なサテンの布なのに、自らを外套の継ぎあてにしたのだ」（マスナヴィ、3巻、1000－1001）

アッラーは罪深いしもべたちをすら保護され、彼らの陰口をたたくことを大きな罪とされました。人々を中傷すること、彼らに恥をかかせること、悪いあだ名で呼ぶこと、真似をする

60. Buhârî, Diyât, 21; Tıbb, 56; Müslim, Îmân, 175.

こと、邪推すること、欠点や秘められた、プライベートな事柄を詮索することを絶対的な表現で禁じています。[61] アッラーは、ご自身に関する権利は許されること、しかししもべの権利については許されないこと、それを権利が侵害された人の意志に委ねられることを告げておられるのです。

イスラームは非常に重きを置いている人間に、その誉れと尊厳にふさわしい権利を与えています。[62]イスラームによれば、人が存在することは、彼が基本的人権を持つにふさわしい理由として十分なのです。人間であるという特性を、人権の基本と見なすイスラーム法学者は包括的なアプローチを取り入れ、決して人々の間で宗教、民族、性別、階級、国の区別をしませんでした。[63]

61. 部屋章第11-12節
62. この項目についての詳細については参照：Kadir Mısıroğlu, *İslâm Dünya Görüşü,* İstanbul 2008, p. 200-201; Prof. Dr. Recep Şentürk, *İnsan Hakları ve İslâm,* İstanbul、2007.
63. Prof. Şentürk,同著 p. 13, 21.

第2部
信条、イバーダ、行為

A. イスラームの信仰の基本

人が信じるべき基本的項目は、人間の見解や個人的な理解ではなく、啓示に基づくものです。イスラームの信仰の基本は、クルアーンやハディースで、何の解釈の余地もないほど明白に示されています。

預言者ムハンマドは次のように語られています。

「信仰とは、アッラー、天使たち、啓典、預言者たち、審判の日、良いことも悪いことも含めて運命を信じることである」（ブハーリー、信仰，37；ムスリム、信仰，1，5；ティルミズィー、信仰，4；アブー・ダーウード、スンナ 16；アフマド I，97）

これらは次のように抽出することができるでしょう。

1. アッラーへの信仰

理性を持ち、思春期に達している全ての人の最初の務めは、創造主であるアッラーを知り、信仰し、しもべとなることです。アッラーはクルアーンで次のように語られています。

「(かれは)天と地、またその間にある凡ての有の主であられる。だからかれに仕え、かれへの奉仕のために耐え忍びなさい。あなたはかれと肩を並べ呼ぶものを(外に)知っているのか。」(マルヤム章第65節)

喪失の中で生き、イスラームを知らずにいる人々は礼拝、断食、ザカートといったイバーダやその他の法的な規定について責任を問われることはありません。しかし、アッラーを信じる責任を負うのです。なぜならアッラーへの信仰は、人の本質が要するものであるからです。全ての人は、世界のこの壮大で完璧な被造物を目にし、それらには偉大な創造主がいることを論理的に理解できるのです。正しい理性は皆、このことを証言します。

ムスリムはアッラーを次のように信仰します。

アッラーは存在し、唯一であられ、その存在に始まりも終わりもありません。被造物のどれかに似ていることにもなく、またどの被造物もそのお方には似ていません。その存

在は他の存在に依存せず、ご自身の特質により存在するのです。生むこと、生まれること、父もしくは息子となること、時間や空間の中にいることといったことから清められ、超越して存在するのです。一切の媒介を必要とせずに全てをご存じであり、全てを聞かれ、全てを見られます。絶対的で無限の知識の持ち主であられます。

☑「かれは大地に入るもの、またそれから出るものを凡て知っておられ、また天から下るもの、ならびにそこに上るもの凡てを知っておられる。天においても地においても、微塵の重さでも、かれから免れられるものはない。またそれより小さいものも大きいものも、明確な書に記されないものはない」（サバア章第2－3節）

☑各々の女性が妊娠していること、その胎内に何がいるか、子宮で何が減らされて何が増やされているのかをご存じである。全てを一定の基準に基づいて行われる。目に見えない、もしくは見える全ての世界をご存じである。言葉を隠す者、明白に語る者、あるいは夜間に隠れても、また昼間公然と出かけても、全知の主においては同じことである。アッラーは秘められたものも、秘められたものの中でも最も秘められたものも、ご存じである。（雷電章第10節、ター・ハー章第7節、物語章第69節、サジュダ章第6節、フード章第5節）

またアッラーは、絶対的で無限の力の持ち主です。そうでなければ、私たちが目にするこれらの被造物を存在させることはできず、またその存在を維持させることもできなかったでしょう。アッラーは私たちに、崇高な特性を次のように紹介しておられます。

☑天と地を無から創造される際、もしくは何かを創造することを望まれた時にはただ「在れ」と言われれば、それはすぐに存在する。（雌牛章第117節）

☑全ての人を創造すること、もしくは死後、全員を再びよみがえらせることは、アッラーにとってたった一人を蘇らせることと同様に容易である。（ルクマーン章第28節）

☑世界全ての均衡が崩れることを意味する最後の審判の日のように、非常に大きな出来事すら、アッラーの御力によっては目をあけて閉じるもしくはそれより短い時間で実行される。（蜜蜂章第77節）

アッラーは、絶対的な生命の持ち主であられ、絶対的な意志の持ち主であられます。求め、求めたことを行われます。語られるお方という特性を持たれ、声や文字を必要とせずに語られます。預言者たちの媒介によって人々に啓典を下されました。

アッラーはこの世界の唯一の、単独での創造主です。創造され、創造されたものを死

なせ、それから再び復活させられ、誠実なしもべたちの為に恵みを、悪い者の為に罰を用意されるのはアッラーなのです。アッラーは完全さを示す全ての特性を持たれ、不足を示すあらゆる特性からは遠いお方です。[64]

2. 天使たちへの信仰

アッラーによって、人間よりも先に創造され、男女の差がなく、アッラーへの服従から離れることのない優美で輝かしい存在です。アッラーの呼びかけに答え、アッラーと語ります。アッラーに反逆することはなく、何を命じられてもその通りに実行します。飲食、睡眠、疲労、倦怠感のような人間的な状態からは遠いのです。動物的欲求や我欲的欲望もありません。過ちや罪を犯すこともありません。この上なく強く、非常に高速で動くことができます。アッラーの命令と許しを得て、様々な形状を取ることができます。幽玄界、もしくはただアッラーのみがご存じである事柄については知りません。アッラーが教えられた項目を、教えられた限りで知ることができます。[65]

64. Prof. Dr. Bekir Topaloğlu, “Allah” 項., *Diyanet İslâm Ansiklopedisi,* II, 488-489; Nesefî, *Akâid,* p. 31-36.
65. 雌牛章第30-34節; 高壁章第11, 27節; フード章第69-70節; アル・ヒジュル章第28節, 51-52節;夜の旅章第61節, 92節; 洞窟章第50節; ター・ハー章第116節; サード章第71節, 73節; 星章第5節; 禁止章6節; 包み隠す章第20節

ジンは、感覚によって捉えることのできない、人のように意識と意志を持ち、神の命令に従う責任を負い、悪い者、良い者、信者、不信心者が存在する被造物です。シャイターンも、ジンの一種です。

うぬぼれの為に反逆に至ったシャイターンは、聖アーデム以来人間を正しい道から遠ざける為にできることを行ってきました。[66]アッラーはシャイターンが人類の敵であることを、多くの機会で示され、「シャイターンのあゆみについて行ってはならない」と言われています。[67]特に聖アーデムに関する出来事を指摘され、シャイターンの人類に対する敵対が最後の審判まで続くことを告げておられます。[68]クルアーンでは彼やその信奉者が、人々を自分たちを見えないような形で見ていること、正しい道の上に座り、人に前後左右から接近し、[69]悪事を飾って美しく見せていること、[70]空疎な妄想へと引きずり、偽りの約束をし、[71]アッラーの命令をつぶし禁じられたことを行

66. 蜜蜂章第63節
67. 雌牛章第168節, 208節; 家畜章第142節; 高壁章第22節; ユースフ章第5節; 夜の旅章第53節; ター・ハー章第117節; 創造者章第6節; ヤースィーン章第60節;金の装飾章第62節
68. アル・ヒジュル章第34-38節
69. 高壁章第16-17, 27節
70. 家畜章第43節; 戦利品章第48節;蜜蜂章第63節; フッスィラ章第25節; 蟻章第24節;蜘蛛章第38節
71. 婦人章第119-120節; 夜の旅章第64節; 巡礼章第52-53節;ムハンマド章第25節

うよう扇動していること、[72]人々の間に敵意を投げ入れ、互いに争わせていること、[73]疑念を与えていること、計略や罠をしかけていること[74]を示しています。

アッラーはシャイターンの父祖であるイブリースに、試練の世界にいるという理由で彼が求めた猶予を与えられました。[75]しかし彼が信仰しただアッラーを信頼するイフラースを備え、篤信を備えたしもべには何もできないこと、彼らをご自身が保護されることを明らかにされました。[76]

シャイターンの力は、ただ彼と共になる者、アッラーに何ものかを配する者にのみ足りるのです。シャイターンは信仰しない人の親友です。[77]アッラーはクルアーンで次のように語られています。

---

72. 雌牛章第169節;婦人章第 119節; マルヤム章第83節;創造者章第6節
73. 食卓章第 91節;家畜章第121節; 夜の旅章第53節; ユースフ章第100節
74. 婦人章第76節; 高壁章第200-201節; 戦利品章第11節; ユースフ章第5節; 信たち章第97節; 抗弁する女章第10節; 人々章第4-6節
75. その他のシャイターンも、イブリースのように長い時間が与えられているのかどうかに関する知識はない。しかしイブリースに与えられた長い寿命は、彼自身のものであるように思える。(A. Lütfü Kazancı, *İslam Akâidi,* p. 111)
76. アル・ヒジュル章第40-42節; 蜜蜂章第99節; 夜の旅章第65節; サード章第82-83節
77. 高壁章第27, 30節; 蜜蜂章第100節; マルヤム章第83節

「われは、悪魔たちが誰の上に下るのかあなたがたに告げようか。かれらは、凡ての嘘付きの徒の上に下る。（悪魔の話に）耳を貸す（者）の多くは嘘付きの徒である」（詩人たち章第221－223節）

クルアーンは、ジンと人間のシャイターンたちの疑念や罠からアッラーに庇護を求めることを奨励しています。[78]

ただシャイターンは、対抗できない勢力と考えられるべきではありません。アッラーがいかに試練の為として彼に猶予といくつかの力を与えられたとしても、無限の力や権限は与えられていないのです。クルアーンでは彼の罠が弱いものであること、人々に対する強制力は持たないこと、悪事へと招く以上のことはできないことが語られています。[79]

3. 啓典への信仰

アッラーは預言者たちに、信仰、イバーダ、道徳、現世と来世に関する知識や規定を含む文章を啓示されました。「最初の書冊」、預言者イブラーヒームとムーサーに与えられた書冊、律法、詩篇、そして新約聖書の本

78. 高壁章第200節; 蜜蜂章第18節; 信者たち第97-98節; フッスィラ章第36節; 人々章第1-6節
79. 婦人章第76節; イブラーヒム章第22節; アル・ヒジュル章第42節; 蜜蜂章第99節; 夜の旅章第65節

来の状態、そしてクルアーンがアッラーによって下された啓典の一部です。[80]

4. 預言者たちへの信仰

聖アーデムが最初の、預言者ムハンマドが最後の預言者です。彼らの間に、私たちに知らされた、知らされていない非常に多くの預言者が遣わされました。預言者たちの間では区別をつけません。全ての預言者が、誠実で信頼できる、この上なく利口で布教の任務を実行し、罪を行うことから身を守った人々なのです。しかし、彼らには神性はありませんでした。預言者たちには奇跡がありました。

歴史上、預言者が遣わされていない社会はありません。アッラーは恵みと慈悲の作品として、全ての人々に預言者を送られたのです。
（蜜蜂章第63節、創造者章第24節、ユーヌス章第47節）

5. 来世への信仰

アッラーは人々に非常に価値のある能力と数えきれない恵みを与えられました。これらが何の目的もないものであることは考えら

80. 雌牛章第85節; イムラーン家章第3-4節; 婦人章第163節; ター・ハー第133節; 星章第 36-37節;鉄章第26-27節; 至高章第18-19節

れません。アッラーは同時に、しもべたちにいくつかのことを求められ、その命令に従う者に報償を約束されて、反逆する者を懲罰で威嚇されています。来世は、アッラーの約束が実現され、現世で行われたことの対価が与えられ、わずかな良いこと、悪いことも明らかにされる、偉大な審判が行われる時です。

現世で一部の人々は、迫害者の支配のもとで苦しめられ、搾取され、拷問を受け、その人生で苦痛や困難さ以外の何も見ることがありません。逆に一部の人々も、この世界で幸福と快楽、恵みの中で暮らし、弱者を迫害します。この二つのグループの人生の物語が、権利が持ち主に戻され、公正さが迫害や強奪を抑える、補完的な時代を迎えることなく死によって終焉を迎えることがあり得るでしょうか？観客の前で劇を見せる劇団が、第一部を見せた後でカーテンを下ろし、色々な出来事をバラバラで混乱した、修正すべき状態で残したまま、劇が終わるということはあり得るでしょうか？このようなことがあり得るなら、その動きに完全に集中し、神経を緊張させ、劇やその作者の意図とそのもとになる思想を読み取ろうと必死になっていた観客はどのように思うでしょうか。利口な子供でも、劇がこの形で終わることが適切だとは思わないでしょう。従って、全てを完全に創造され、全てをご存じであるアッラーが、この巨大な世界の物語を、子供ですらやらないよ

うな醜さのままで終わらせるということがどうして考えられるでしょうか。[81]

私たちが生きているこの世界を最も美しい形で創造されたアッラーが、来世という異なる世界を創造されることを約束されているのであれば、誰にもそれを疑う権利はありません。なぜならアッラーはそれをできる力を持っておられることをあらゆる瞬間に私たちに証明されているのです。アブー・レジンは次のように語っています。

「ある時、『アッラーの使徒よ！アッラーは被造物をどのように復活させられるのですか」と私は尋ねました。預言者ムハンマドは『あなたは、あなたの一族が済んでいる谷を、乾季に通過したことはないのですか。それから再び、一面が緑になる春の季節にそこに寄ったことはないのですか」と言われました。私は『もちろんあります』と答えました。すると、『そう、これがアッラーが再び蘇らせるという証拠である。アッラーは死者をもこのように蘇らせられる』と言われました』（アフマド、4, 11）

だから、いつか、この世界は終わりを迎え、現世での生は終わり、来世での生が始まるのです。人々は死後、再び復活し、この世界で行ったことを問われます。信仰し、誠実

81. Prof. Dr. M. S. Ramazan el-Bûtî, *Kübra'l-yakîniyyâti'l-kevniyye,* p. 180.

な行いをした者は天国へ、否定した者は地獄へと向かいます。信仰しつつも罪を犯した者は、罪に応じて地獄で罰を受けた後で天国に向かうか、アッラーの許しを得られれば直接天国に入るのです。

6. カダル（運命）への信仰

アッラーは、しもべが行った全てのこと、他の被造物の全てに関連する事柄、将来起こるであろう事柄を前もって知られています。そして全てが、その時が来るとアッラーがご存じであった形で生じるのです。ここで一部の人が考えているように、人々への強制は存在しません。なぜならアッラーは、神性の要するところとして、しもべたちが将来行うこと、そしてその領土で生じる出来事を知るべきであるからです。そうでないとするなら、そこに不足が生じることになってしまうからです。

人々は意志を持ち、自由であり、強制を受けてはいません。アッラーは永遠の知識により過去と未来をご存じである為、起こることが前もって記されています。知るということは、それを行うということではありません。日食が起こる時間と分は、計算することができます。しかし太陽は、科学者が前もってそれを知っているために日食を起こすので

はないのです。日食はもともと起こるものであり、ただ科学者たちがそれを調べて前もって知っているのです。あることが起こることを前もって知り、それを記すこと、その時が来ればそれを創造することは別々であり、そのことをやりたいと思い、実行することもまた別です。人は自由意志により、あることをしたいと求めます。アッラーも、試練の為に彼を自由にさせておられるため、彼が求めた行動を創造されます。ただ、良い行動、正しい行動には満足され、悪い行動には満足されないのです。[82]

B. イスラームにおけるイバーダ（崇拝行為）とその英知

ここまでの部分では、アッラーの存在、特性、人を大きな気遣いと共に最も美しい形で創造されたこと、人間にこの上なく重きをおかれていること、多くの力や可能性を与えられたことを見て来ました。今後、人間がこの存在の世界で、何の役目も責任も持っていないと考えることはできるでしょうか？理性を持つ人の、この世界での状態が、動物やその他理性を持たない被造物と同じであることは考えられるでしょうか？このような人間

82. 信条に関する詳細については参照： http://www.islamicpublishing.org/KAYNAKLAR/Dokumanlar/KITAPLAR/english/ingilizce-islam-iman-ibadet.pdf

が、飲み食い、衣服、結婚、繁殖の間を回り続け、一定の期間だけ生きた後、自らを無の腕に投げ入れること、死によって飲み込まれることはどのように考えられるでしょうか。

アッラーはクルアーンで次のように語られています。

「あなたがたは、われが戯れにあなたがたを創ったとでも考えていたのか。またあなたがたは、われに帰されないと考えていたのか」（信者たち章第115節）

「ジンと人間を創ったのはわれに仕えさせるため」（撒き散らす者章第56節）

「定めの時が訪れるまで、あなたの主に仕えなさい」（アル・ヒジュラ章第99節）

イバーダは、しもべとして仕えること、服従すること、頭を下げることという意味であり、広い意味では一人の人がアッラーの教えられた基準の範疇で生きる際に行う全てのこと、言葉、考えです。

イバーダは、アッラーがしもべたちに対して持っている権利であり、与えられた恵みに対して行うべき感謝を示すことです。行われるイバーダはそもそも、その人自身に効果をもたらします。なぜからイバーダを行うことは人を物質の中でおぼれることから救い、その視野や考えをより高い目標へと向け、より広い範疇で動かすのです。

また一方でイバーダはただ、来世の為のものではありません。イバーダには精神的な効果と並び、物質的な効果もあります。なぜならイスラームは、人の活動分野のどれも軽視することはない、生活の全ての面を包括する全体的なシステムだからです。

同様にイスラームは、人の活動分野の間で適切な一体性をも設けられています。この為、神の秩序にふさわしい現世的行為がイバーダの善行を獲得させ、またイバーダも非常に多くの物質的、肉体的な効果を含んでいるのです。ここにおける英知と細やかさの一部は人間の頭脳によって理解されるとしても、その多くは把握することができないものです。そもそもイバーダにおいて本質的である者は、アッラーにイフラースと共にしもべとして仕えることであり、現世的な効果を得ることではありません。ただ奨励するものとして、イバーダの効用の一部を取り上げたいと思います。

1. 礼拝とその英知

礼拝は、タクビールによって始まり、挨拶によって終わる、一定の動作と言葉を含むイバーダです。[83]アッラーは礼拝、カーバ神殿

83. 一部の人は、ムスリムが礼拝を行う際にカーバ神殿を崇拝していると考えている。これはこの上なく誤った

の周回、クルアーンを読むことと言った一部のイバーダの前にウドゥーを行うこと、体と衣服、その周囲を清めることを命じられました。ウドゥーとグスルについて精査すれば、イスラームが精神的清潔さと主に、物質的な清潔さにもいかに重きをおいているかを見出すことができます。だからムスリムは、イルミハールや法学の本を、まず清浄に関する部分から読み始めるのですつまり、礼拝の効果の一つは、人に清潔な暮らしを送らせることです。

また一方で礼拝は、人を悪事から、醜い事柄から、怒りから守り、興味や関心が無秩序で管理されていない状態で満たされることを防ぎます。[84]日に5回繰り返される為に、アッラーを思い起こすことを妨げる自我の欲求に対しての最も効果的な薬となるのです。欲望や欲求を鎮め、あらゆる点において正しさ、方向性を持つことを奨励します。これにより信者は、アッラーのご満悦の為に礼拝を行いながら、同時に悪事や自我の欲求からも

考えである。ムスリムは決して、カーバや黒い石をどのような形であれ崇拝することはなく、サジュダすることもなく、また礼拝の際、それに向かうことはない。ムスリムが礼拝の際に向かっているのは、カーバの建物ではなく、その空間である。カーバ神殿が取り除かれ、もしくは修理の為に取り壊されたとしても、ムスリムのキブラは変わることはないのである。(Prof. Dr. M. Hamîdullah, *İslâm'a Giriş,* p. 108)

84. 蜘蛛章第45節

守られ、現世と来世の生を改良することになるのです。

ある人が預言者ムハンマドを訪ね、

「これこれの人は夜には礼拝をしていますが、朝には泥棒となっています」と言いました。預言者ムハンマドは次のように語られました。

「本当の礼拝をしていれば、この礼拝と礼拝で読んでいるクルアーンの章句が、彼をその悪事から遠ざけるだろう」（アフマド、2, 447）[85]

---

85. ムラット・ビルセルは2009年2月17日付のstar紙において、「礼拝は犯罪を防ぐ」という見出しの文章を発表している。「モスクで礼拝が行われる町での犯罪率は、行われない町のそれと比較してより低いに違いない」と考え、その点を検証したとしている。彼によると、
例えば、犯罪発生率の上位20か国（千人あたり）
1. コロンビア (0.61) **2.** 南アフリカ (0.49) **3.** ジャマイカ (0.32) **4.** ヴェネズエラ(0.31) **5.** ロシア (0.20) **6.** メキシコ (0.13) **7.** エストニア (0.107) **8.** ラトビア (0.103) **9.** リトアニア (0.102) **10.** ベラルーシ (0.098) **11.** ウクライナ (0.094) **12.** パプア・ニューギニア (0.083) **13.** キルギスタン (0.0802) **14.** タイ (0.800) **15.** モルドヴァ (0.078) **16.** ジンバブエ (0.074) **17.** Sセイシェル(0.073) **18.** ザンビア (0.070) **19.** コスタリカ (0.060) **20.** ポーランド(0.056)
キルギスタンを除くこの国々のほとんど全ては、100パーセントに近いキリスト教徒の人口を持ち、人口の75パーセントがムスリムであるキルギスタンが唯一の例外であることは目をひく事実である。そして一般的にある国で礼拝がなされていれば、犯罪統計のほとんど全てで、ムスリム社会における犯罪傾向はより低く表れている。
世界はこの真実に気づいているだろうか。当然気付いている。イスラーム諸国で殺人発生率が低いのはなぜかという真剣な研究が行われている。

礼拝は、地上の唯一の統治者がアッラーであるという真実を、人々の心に定着させ、人々がこれを常に感じられるように助けます。

日に5回の礼拝は、一日の中で時折人を、その仕事の単調さから救い、楽にします。彼らをしばらくの間、あらゆる種類の世俗的な懸念から遠ざけます。崇高な創造者に対し服従と感謝の気持ちを示すことを助けます。同時に日とは、サジュダを行う時に自らと直面し、内面世界に向き合う機会を得ます。以前は宣教師であり、後にイスラームを選んだアメリカ人のマット・セールスマンは次のように語っています。

「礼拝を行い、安らぎと平穏さを見出しています。特に金曜礼拝で。モスクにいて礼拝をしている時は、私にとって魂に安らぎを与える特別な時間なのです」[86]

ティモシー・ギアノッティ博士は次のように語っています。

(参照 : Cordova, Ana; "An Examinational Causes of Low Murder Rates in Islamic Societies": *American Society of Criminology*) あまり言及されず、声を大にされることはないにしても、その研究を熱心に行っているのである。それを礼拝と結びつける者はいないようではあるが。今後、誰かがロンドンやパリのような街で、モスクがある町の犯罪率を街の全域を比較することを思いつくかもしれない。その結果は、世界を考えさせるものとなると私は思う。 (http://www.stargazete.com/gazete/yazar/murat-birsel/namaz-sucu-engelliyor-169647.htm)

86. Ahmet Böken - Ayhan Eryiğit, *Yeni Hayatlar,* I, 49.

「サジュダを行う時には、平和をつかんでいるように感じます。自分がもっと安全であるように感じます。平安の空気の中にあるように感じます。サジュダを行う時は、遠くから自分の家に戻ったかのようです。むしろ、アッラーに到達したかのようです。言葉では説明できるのはただここまでです。礼拝は安らぎ、平和、平穏の感情です」[87]

礼拝は、魂の精神的な糧であるように、同時に肉体にとっても癒しです。礼拝が、様々な器官が動き、関節を曲げ、筋肉を緊張させ、弛緩させることを可能とし、体に活気を与えることは周知の事実です。また一方で礼拝は、ムスリムの生活におけるバランスの要素です。毎日一定の時間、一定の条件の中で実行されるこのイバーダは、人を秩序のある、規則正しい生活に慣れさせます。

ムスリムは礼拝を個人として、好きな場所で行うことができます。しかしイスラームは彼らに、一か所に集まって礼拝をすることを奨励しています。なぜなら、集団で行われる礼拝は、民族、色、言葉、立場、地位の区

87. Böken, 同著 I, 19. 後にムスリムとなった人々の人生の物語については下記の作品を参照のこと：**Prof. Dr. Ali Köse,** *Conversion to Islam: A Study of Native British Converts,* London: Keagan Paul International, 1996 (Neden İslâm'ı Seçiyorlar: Müslüman olan İngilizler üzerine psiko-sosyolojik bir inceleme, İstanbul 1997); **A. Arı – Y. Karabulut,** *Neden Müslüman Oldum,* Ankara: Diyanet İşleri Başkanlığı yay., 2007; **Defne Bayrak,** *Neden Müslüman Oldular?,* İstanbul: İnsan yayınları, 2008.

別なく、アッラーへのしもべとしての奉仕において同じ列に並び、一体化し、助け合うこと、社会的なつながりを支え、ウンマの意識を強めます。同じ考え、目標を分かち合う集団の環境で、個人の間の違いは多くの場合超えることができ、人々の心に平等、兄弟愛といった感情を定着させ、宗教的な喜びを感じさせるのです。

そもそも、日に5回の礼拝は、人々にとって非常に少なく、実行が容易であるつとめです。24時間の中で人が世俗的な仕事を放棄し、アッラーの御前に上がる時間は約24分です。この小さな犠牲の対価として人は、非常に大きな物質的、精神的な効果を得るのです。

2. 断食とその英知

断食は、地平線が白み始めた時から、日没まで、食べること、飲むこと、性的欲求から遠ざかっているという形で行われるイバーダです。毎年、イスラーム暦のラマダーン月の間中、29日もしくは30日、このイバーダが続けられます。

断食は生きる為の戦いの為に必須である、「忍耐、意志、自我の欲求から遠ざかること」と言った状態の鍛錬により、道徳的なあり方を完全性へと至らせます。自我の、

食べること、飲むこと、性欲と並ぶ無尽蔵の欲求に対して人間の誉れと尊厳を守る盾なのです。また断食はそれを行う人を、意志の強さ、我慢強さ、満足、甘受、冷静さ、忍耐といった道徳的美徳へと到達させます。欠乏や飢えを味わわせることで、私たちに与えられている恵みの価値を思い起こさせます。心を、アッラーに対する賞賛と感謝、しもべたちに対する慈悲と援助の気持ちで満たします。この特性によって断食は、社会生活における憎悪、敵意、嫉妬と言った社会を不穏にさせるマイナス要素を取り除く、最も効果的な薬です。従って断食は、ただこのウンマにではなく、以前のウンマにも義務とされていたイバーダです。アッラーは次のように語られています。

「信仰する者よ、あなたがた以前の者に定められたようにあなたがたに斎戒が定められた。恐らくあなたがたは主を畏れるであろう。（斎戒は）定められた日数である」（雌牛章第183－184節）

断食が精神的に効果を及ぼすものとなる為には、嘘、中傷、陰口、人の悪口を伝えるといった行動、憎悪、呪いのような言葉、喧嘩、あらゆる種類の悪事や罪を強く避けることが必要です。預言者ムハンマドは、断食している信者に、彼に対して示された粗暴な態度に、平穏さで応えることを奨励されまし

た。これにより、断食を行う人が悪い徳から遠ざかることになるのです。

断食は、人がより健康に、豊かであることを支えます。これは、木々においてすら見ることのできるものです。木は、冬になると葉を落として眠りにつきます。さらには、春が来て氷が解けるまで、その根に水を得ることすらできないのです。断食状態で過ぎるこの数か月の後、春が来れば、葉や花の豊かさから理解できるように、以前よりもより豊かになるのです。鉱山すら、断食を必要とします。バイクや機械は、長時間動かした後、しばらく止められます。この休息は、それらが以前の力を得ることを助けます。

医学関係者は、30日未満の断食に効果がないこと、40日以上の場合も習慣となる為、一定の期間で飲食を絶つことがもたらす効用を与えないことを示しています。近年、西洋で適用されている新しい治療法では、慢性疾患の患者が、病気の状態に応じて短期もしくは長期の断食により治癒に向かっています。[88]

断食は、頭脳と心の能力がより健やかに作用することを助けます。

次のことも指摘しておきましょう。断食の目的は、体に拷問を加えること、苦労させることではありません。預言者ムハンマドは

88. Prof. Dr. M. Hamîdullah, *İslâm'a Giriş,* p. 104.

断食する際、サフール（断食前の食事）の為に起きること、イフタール（断食明けの食事）の際には急ぐことを奨励されました。[89] つまり、断食の本来の意図は、アッラーへのしもべとしての務めを果たすこと、自我を鍛錬し、篤信に至ること、個人、社会を発展させ、アッラーが満足される安らぎのある環境を生み出すことです。

3. ザカート、サダカ、施しとその英知

ザカートは、一定額以上の財産を持つ豊かな人たちが、財産の2.5パーセントを貧者、困窮者、ザカートを集める役人、心がイスラームに傾いてきた人、自由を買おうとしている奴隷たちに、借金がある人に、アッラーの道で働く人に、道で行き詰っている人に与えることです。（悔悟章第60節）

家畜や農地からの収穫も、ザカートに入ります。それぞれの計算は別々に行います。農地からの収穫からのザカートを「オシュル」と呼びます。サダカ、施しといった言葉は、時に義務であるザカートという意味で使われたとしても、より多くの場合は義務ではない、必要としている人に行われる支援を意味します。

89. Buhârî, Savm, 45; Müslim, Sıyâm, 48; Tirmizî, Savm, 17/708.

ザカートは、豊かな人々がその資本に惑わされて増長すること、困窮している人が金持ちに対して憎悪や敵意といったマイナスの感情に包まれることを防ぎ、社会生活を維持します。個人を互いに兄弟としての気持ちや愛情で結びつけます。金持ちと貧しい人の間の距離を最低限とします。貧しい人の数を無と言えるほどに減らし、その為に生じる多くの不幸な事件を防ぎます。事実、カリフであったウマル・ビン・アブドゥルアジズは、ザカートの徴収員をアフリカ諸国に派遣しました。役人は財産を配ることなく戻ってきました。なぜなら、ザカートを受け取る人を見つけることができなかったからです。そこでカリフもこのお金で多くの奴隷を買い、解放したのでした。[90]

ザカートは異なる改装にある人々の間にかけられ、社会を統一する橋です。この為預言者ムハンマドは、「ザカートは、イスラームの橋である」と言われました。[91]

集団において困窮している人々を喜ばせるザカートが、それを与える人に与える利益はより大きなものです。実際、「清らかさ、純粋さ、増加、恵み」という意味を示すザカートは、人を一部の心の病気や悪事から清め、財産が清められ、豊かさを増すことを助けま

90. Bkz. Bûtî, *Fıkhu's-sîre,* Beyrut 1980, p. 434.
91. Beyhakî, *Şuab,* III, 20, 195; Heysemî, III, 62.

す。[92]ザカートのイバーダは、人の、所有したいと言う感情、利益を得ようとする感情をも鍛錬します。

ザカートは、資産を持つ者が与えられている神の恵みに対し、示すべき感謝の顕れです。アッラーは、感謝された場合、恵みを増やすこと、恩知らずな態度を取れば、その罰は厳しいものであることを教えられています。[93]

ザカートには、国民の資産を常に動かし、役立たせ、豊かにし、市場を活気づかせ、取引を勢い付けると言った多くの意味深い、経済的効果があります。

またザカートのおかげでアッラーの道において努力をする多くの人に支援がなされ、善行が行われるうえで先導となります。学問の徒の勉強を助けて、学問や科学の発展の基礎を作ります。

ザカートを受け取ることよりも、ザカートを与えることがより認められます。預言者ムハンマドは、

「与える手は、受け取る手よりも尊い。支援を、あなたがその生計を担っている人々から始めなさい。サダカのうち尊いものは、必要以上である財産から与えられるものであ

92. 悔悟章第103節;サバア章第39節
93. イブラーヒム章第7節

る。誰であれ、人々に何かを求めないのであれば、アッラーはその人を、誰にも頼らずに済むようにされる。誰であれ、足るを知っていれば、アッラーはその人を豊かにされる」（ブハーリー、ザカート18；ムスリム、ザカート 94-97, 106, 124）

この為、より尊い状態に上がりたいと望むムスリムは、大きなやる気を持って働き、お金を稼ぎ、与える手となるよう努力します。結果として人は怠惰であること、ぼんやりすることから救われ、働き、稼ごうという忍耐力を得るのです。

ザカートが支払われなかった場合、全ての効果は逆効果となり、個人と社会に対する大きな害が生じます。ザカートを払うという形で治療されることのないケチであるという病は人をこの世界で苦しめるように、来世でも大きな懲罰へと引きずり込むのです。

預言者ムハンマドは次のように語られています。

「人に、アッラーは財産を与えられ、その人がザカートを支払わなければ、この財産は最後の審判の日に強い毒のある蛇として目の前に現れる。頬の上に、（怒りと独の強さを示す）二つの黒い点がある。その日、この怒ったヘビは財産の持ち主の首に巻きつき、（口を閉じる形で）両頬を強く噛み、『私はあなたの（現世でとても愛していた）財産で

ある。私はあなたの宝である』という」（ブハーリー、ザカート 3；ティルミズィー、タフシール3/3012. イムラーン家章, 180）

預言者ムハンマドは、ザカートが社会において重荷のように見なされ始め、時と共に完全に軽視されるようになった時、人々の身にいくつかの災いが起こることを伝えておられます。[94]ある時には次のように語られています。

「その財産からザカートを支払うことを避ける民族は必ず、雨を得ることができなくなる。家畜がいなければ、彼らには雨は降らされない」（イブニ・マジャ、フィテン、22、ハーキム、 IV, 583/8623）

4. 巡礼とその英知

巡礼は、財産と健康という点でそれができる力があるムスリムが、一生に一度、決められた時期にマッカのカーバを訪問し、一定の動作を行うことで実行するイバーダです。巡礼では人はイバーダ、ドゥアー、ジィクルの鍛錬を受けることになります。あらゆる行為においてアッラーを思い起こし、その愛情を心に定着させます。謙虚さ、無であるという気持ち、忍耐、服従、相互支援、イフ

94. Tirmizi, Fiten, 38/2210, 2211.

ラース、時間と行動における規律、死や最後の審判への備え、植物や生物に害を与えないこと、誰かについて邪推したりしないことと言った素晴らしい徳を身につけます。なぜなら、外見上、あるシンボルを含む巡礼は、実際に様々な精神的な訓練を行わせる、色々な場所での色々な動きでできています。従って皆、そのどれかもしくは複数の面で効果を得るのです。

巡礼は人の心を生命へと方向づけます。なぜならこの上質のイバーダは、狩をしないこと、狩人に狩を示さないこと、ハエすら殺さないこと、緑の葉すら折らないこと、アッラーの創造物を痛めつけないことといった、慈悲、慈愛、愛情の顕現で満たされているのです。

巡礼に行くムスリムは同じ時間と場所において集まり、心の一体性のなかにあります。祖国、民族、色、衣装のような概念はそこから取り除かれ、その代わりにイスラームの兄弟愛が生じます。そこでは雇用者も被雇用者も、金持ちも貧しい人も、学者も無知な人も、皇帝も庶民も一堂に会し、同じ服を着て同じ広場の同じ列にいます。ムスリムはそこで、互いの悩みや問題を聞き、遠い兄弟たちのメッセージを送ります。

ここまで述べてきたものの他にもイバーダは存在し、それぞれに多くの英知や効果が存在します。

イバーダの英知や効果は、ここで述べたものだけではありません。イバーダには、私たちが理解していない無数の秘密があります。その一部は次第に明らかになってきましたが、その残りの大多数は来世で明らかになるでしょう。

疑いもなく、ムスリムはイバーダを行う際、このような現世的で単純な効果について考えることはありません。彼らはイバーダを、アッラーの崇高なご満悦の為に行います。ただし、ここで言及した効果は、アッラーのしもべたちへのもてなしであり、恵みなのです。これらを知ること、考えることは、人間に格別の喜びを興奮を与えます。[95]

❀

ここまで簡単に言及してきたイバーダを見てみるなら、イスラームが人生全体と密接していることがわかります。イスラームはある１日、もしくは一定の時間に封じ込めるこ

95. イバーダの徳については、参照：. Osman Nûri Topbaş, *İslâm Îmân İbadet,* p. 192-418 (http://www.islamicpublishing.org/KAYNAKLAR/Dokumanlar/KITAPLAR/english/ingilizce-islam-iman-ibadet.pdf); Prof. Dr. Ömer Çelik, Dr. Mustafa Öztürk, Dr. Murat Kaya, *Üsve-i Hasene,* İstanbul 2003, I, 110-221 (www.usveihasene.com); Dr. Murat Kaya, *Efendimiz'den ﷺ Hayat Ölçüleri,* İstanbul 2008, p. 62-307.

とのできる教えではありません。人生を、誕生から死まで、さらには死後まで、あらゆる側面と共に内包します。ティモシー・ギアノッティ博士は次のように語っています。

「私はイスラームを選んだ時、次のことに気づいていた。この教えは地上のあらゆる場所をイバーダの場とすることを目標としている。つまり、日々の忙しさを片隅によけ、アッラーを思い起こす為には、修道院に行く必要はないのである。例えば、礼拝はいつでも、誰にとっても、アッラーを思い起こす為の最も容易で最も現実的な道です。(Ahmet Böken - Ayhan Eryiğit, Yeni Hayatlar, I, 15-16)

C.イスラームにおける禁止事項とその害

アッラーはクルアーンで、良いもの、清潔なものを活用することをしもべたちに合法とされ、それらを禁じようとする者を叱責されています。それから、ご自身が人間の役に立つものを禁じられることはなく、有害であるもののみを禁じられたことを示され、次のように語られています。

「言ってやるがいい。「本当にわたしの主が禁じられたことは、あからさまな、また隠れた淫らな行いや罪、真理や道義に外れた迫害、またアッラーが何の権威をも授けられないものを崇拝す

ること。またアッラーに就いて、あなたがたが知らないことを語ることである。」（高壁章第33節）

罪とハラーム（禁じられたもの）は、人を肉体的、精神的に滅亡へと導く毒の源です。しかしシャイターンと自我は、それらを飾り、人々に甘美で素敵なものであると示すのです。それに騙された人々は、最後にはその精神世界を乱してしまいます。しかしハラール（合法）であるものはより多く、そしてより有益なのです。なぜなら、あるものがハラームであることに関する強力な宗教的証拠がなければ、それはハラールなのです。従ってハラームであり、禁じられたものは例外的であり、少数です。同時にイスラームは、近似された事柄について、合法な範囲での代替策や、より良く、より清いものを示してもいます。しかしなぜか人は、ハラールであるものを放棄し、わずかな数であるハラームに夢中になるのです。

やむを得ない事情、予想外の条件、強制、命に係わる危険がある場合、一部の禁止事項は一時的に、必要なだけの量で不履行が許されます。[96]しかしやむを得ない事情やニーズの判断や評価においては根拠のない個人的な考えではなく、法的、客観的尺度が基本とされることは疑いもないことでしょう。

96. 参照 雌牛章第173節; 食卓章第3, 60節; 家畜章第145節; 蜜蜂章第115節

イスラームが定めている禁止事項の目的は、個人や社会として人をあらゆる種類の逸脱や誤りから守ること、やすらぎの中で生きること、アッラーの位階に清らかな額で昇ることを確実とすることです。従ってイスラームの禁止事項は、それが慈悲の教えであることの自然なニーズであり、その結果であるのです。

一方でイスラームの宗教的信条は、道徳的、法的な原則を互いに関連付け、適切な一体性と均衡の中で共に提示しています。

それが示す信条的、道徳的原則は、時には法的な措置によって支えられています。

イスラームが定めているハラームには、私たちが知っている、もしくは知らない多くの英知と理由があります。この禁止事項に従うことは、まず何よりも、しもべの、アッラーの御前での重要な試練に応えることです。一方で、宗教的禁止事項に従うことは、しもべに現世的、来世的な多くの効果をもたらします。アッラーの、人間へのこの点での慈悲、慈愛の例として、いくつかのハラームとその害について触れてみましょう。

1. 利子

対価なく財産を手にするという基本に基づく利子は、一見、人々への援助や容易さの

ように見えたとしても、現実には困難な状況にある人々の策の無さを悪用すること以外に益はありません。従って、しもべの権利の大きな侵害となるのです。宗教的、道徳的感情を消しさり、経済の内部をむしばむ悪性新生物なのです。金持ちはさらに力をつけ、貧者がさらに困窮する理由となります。これにより、社会の階層においても深い亀裂がはいります。しかし、有名な経済研究者たちの言葉を借りるなら、経済的に最もいい状態である社会とは、インフレや利子の率が0である社会なのです。

一方で、利子は人工的な価格の上昇をもたらし、利他主義、相互支援、相互扶助、愛情、慈悲、いたわりといった道徳的感情を弱め、自己中心主義、利益主義を高め、お金を稼ぎたいという欲をあおるといった多くの害があります。

利子は人を、働いて稼ぐこと、生産に従事することから遠ざけます。利子に慣れた人々は、農業、工業、貿易といった基本的な稼ぎの道を放棄します。お金でお金を稼ぐという行為が残り、これは生産を減少させる有害な状況なのです。

利子は大きな葛藤や絶え間のない憎悪をもたらします。行為の中で、敵意や憎悪をもたらすという点で利子ほどのものはありませ

ん。利子の最も悪い面は、人がそれに夢中になり、どうにも救われなくなることです。

利子のおかげで疲れることなくお金を稼ぐことは、人の気に入るものではあっても、この状態は個人や社会の為にはならないのです。さらには長期的には社会の労働－資本の関係を乱し、最後には利子を稼ぐ人にとってもよくない方向に進むのです。

クルアーンでは、アッラーと預言者ムハンマドは、利子に関わる人との戦いを宣告することが告げられています。[97]別の章句では次のように語られています。

「利息を貪る者は、悪魔にとりつかれて倒れたものがするような起き方しか出来ないであろう」（雌牛章第275節）

預言者ムハンマドは、利益のうち最も災い深いものは、利子によって獲得された財産であると告げておられます。[98]預言者ムハンマドは、ウンマをこの大きな罪から遠ざける為に、利子を取る人、取らせる人、利子の処理を行う担当者やこの種の契約の承認に呪いの

97. 雌牛章第278-279節　預言者ムハンマドは、アッラーが戦いを宣言されるもう一つの項目についても言及されている。それは、アッラーの友と敵対することである。 (Buhârî, Rikâk, 38)これ以外の反抗や罪に対してはこれほど厳しく威嚇はされていない。

98. İbn-i Ebî Şeybe, VII, 106/34552; Vâkıdî, III, 1016; ; İbn-i Kesîr, *Bidâye,* V, 13-14.

言葉を放たれ、罪という観点からは皆が同等であることを告げられています。[99]

預言者ムハンマドが利子を支える者皆を呪われたことは、イスラーム社会において利子はその立場が認められないこと、誰もそれに接触してはいけないことを最も明白な形で説き、あらゆる悪や害の扉を閉じる為でした。

利子は全ての教えが禁じている罪です。なぜならその害は明らかであるからです。クルアーンではこれがユダヤ教徒に対しても禁じられていることが語られています。[100]

今日、利子を伴わない経済は不可能である、と考えることは過ちです。利子を伴わない経済はもちろん、可能なのです。実際、これに成功している社会も存在します。イスラームは利子を厳しく禁じ、その代わりに共同経営という手段で財産を動かし、増やすことを奨励しています。なぜならこの手段は皆に効果をもたらすからです。一方で、その力に応じてアッラーの為に人にお金を貸すことも奨励され、困難な状態である人に貸されたお金がサダカよりもより尊いとされています。また一方で、ザカートとサダカをも命じ、社会に経済的な安定と均衡を与えているのです。

99. Müslim, Müsâkât, 105-106. Ayrıca bkz. Buhârî, Büyû', 24, 25, 113; Ebû Dâvûd, Büyû, 4/3333; Tirmizî, Büyû', 2/1206; İbn-i Mâce, Ticârât, 58.
100. 婦人章第160-161節

2. 酒と麻薬

アルコール飲料と麻薬は、人の本質に完全にそぐわない、有害な物質です。本来、人は穏やかで、覚醒しているはずです。我を失った状態、無気力、怠慢と言った状態であることは認められません。覚醒している状態を放棄することの結果はたいてい、異常な状態に陥ることとなります。だから酒と麻薬をごく普通のものとして取り入れている人は、異常な状態に陥ることを避けられないのです。

酒は個人、社会双方にとって大きな害の要因です。飲酒は知性の力に害を与えます。しかし現世と来世でのあらゆることは、知性によって実現するのです。知性を失うと人は、思ってもみなかったような過ちを犯します。エチルアルコールの中に火花が散るとすぐに炎があがるように、アルコールに依存している脳や心の中に悪事の炎を燃やさせることも、同じくらい容易なことなのです。

飲酒、賭博、運試しのように人間に肉体的、精神的な酩酊状態を与えるものは、人間の永遠の敵であるシャイターンの手にある最も効果的な武器です。シャイターンは、飲酒や賭博という手段で人々の間に敵意、憎悪を差し込み、彼らを互いに争わせます。人々をアッラーのズィクル、礼拝、イバーダから遠ざけ、来世を劣悪な状態にします。賭博で巻けた側は、勝つという希望で何度も何度も賭

博をしようとし、個人的、社会的な不穏さがそこに生じます。占いをするということでアッラー以外の誰も知ることのできない幽玄界について知らせをもたらし、不運な人々をだまし、最も尊い恵みの一つである知性を無効という状態にします。要するにこれらの悪い習慣は、人の現世と来世双方を駄目にしてしまいます。だから、二つの世界で困窮した状態となることから救われる道は、アッラーが禁じられた罪を放棄することなのです。（食卓章第90－91節）

ロシア人のラチンスキー教授は、次のような教訓を含んだ言葉を語っています。

「シャイターンは瓶の中で待つ。そしてアルコール依存症である人の手にあるもの全てを奪う。さらに、彼の最後のシャツ、懐にしている子供の為の最後の一口の食糧すら奪う。その他、瓶の中のシャイターンは、自らへの奴隷とした人間や家族の健康、名誉、良心、喜び、至福、やすらぎ、幸福をも奪う。人々の労働意欲が奪われるように、利益を得ることもできなくなる。アルコール、酒の生産の為にどれほどの労力が無駄にされているかを考えてほしい。これほど多くの種類の酒が造られるために、どれほどの食べ物、飲み物、そして労力が無駄にされているかをよく計算してみてほしい。もし、人々がアルコールの沼に不注意にも投げ込んだ何十万キロ

ものパン、プラム、イチジク、ブドウが集められれば、決して世界では飢えなどなく、また食料価格の上昇もなかっただろう。人々だけではなく、家畜ですら、おなか一杯に食べることのできる各種の食糧があったことだろう。

瓶の中のシャイターンの予算が正確にはどれほどのものか、わからない。シャイターンに従う者は、利用した酒の税を、支払うべき時に支払う。しかしその同じ人は、他の人々に払うべき借金を支払わない。シャイターンは自らの取り分を常に、不足なく確保する。もしこの人々に支払うべきお金がなかったとしても、盗むか、殺すか、自分や家族の誉れ、貞潔さを売るなどすらして、何としてでもシャイターンへの税を必ず払うのである。

アルコールのせいで何千もの、尊く選ばれた人々がその人生を駄目にしてきた。この人々は手にしていた価値を全て失った。酒、アルコールは何十万もの偉大な人々の健康を損なってきた。沼の上にしっかりした、大きな建物を建てることができないように、アルコールや酩酊状態のある民族の中で持続的な秩序を保ち、やすらいだ暮らしを確立することも不可能である。従って改善活動においてまずは全ての人々をこの恐ろしい状態から目

覚めさせ、覚醒させることから始めるべきである」[101]

世界保健機構の30か国を対象とした最新の調査報告書によるなら、殺人事件の85パーセント（そのうちの60～70パーセントは家庭内で起こっています）、暴行の50パーセント、暴力事件の50パーセント、配偶者への暴力の70パーセント、仕事に行かない者の60パーセント、精神病の40～50パーセントはアルコールが理由となっています。アルコール依存症患者から生まれた子供たちの知的な問題の確率は90パーセント近いです。依存症の女性が障害のある子供を持つリスクは35パーセントに上ります。なぜならアルコールは、子宮での成長や産後の発達を妨げ、子供に知能の遅れ、低身長、行動の異常などをもたらします。依存症の人々の子供たちは、常に衝突や暴力のある家庭環境で暮らす為、精神的な苦痛や行動の異常が増えるリスクが非常に高いのです。従ってこの子供たちの多くは、学校や生活で成功することができないのです。[102]

英国政府の公式レポートによれば、アルコール消費の為に発生する喧嘩、障害、病気の費用その他の状況により、イギリス経済に

101. Grigory Petrov, *İdeal Öğretmen,* İstanbul 2005, ｐ. 48-52.
102. Musa Tosun, “İçki” 項., *Diyanet İslâm Ansiklopedisi,* XXI, 463.

与えている負担は毎年200億スターリン（300億ドル）程度になります。[103]

預言者ムハンマドは、次のように語られています。

「決して酒を飲んではいけない。なぜならそれは全ての悪や災いの鍵である」（イブン・マジャ、アシュリバ、1）

「量が多い場合に人を酩酊させるものは、それがわずかである場合も、ハラームである」（アブー・ダーウード、アシュリバ、5/3681、ティルミズィー、アシュリバ 3/1865）

この為、「酔っぱらわない程度に飲むなら問題はない」という人々に騙されてはいけません。基準は非常に明白です。何かが、その量が多い場合に酩酊させるのであれば、それが少量であったとしてもハラームなのです。イスラームは罪へと向かう道を完全に閉ざし、悪事を最良の形で防ぐことを求めます。生活の実態にそぐわない論理的な解決策を延べることはないのです。禁止事項は、抑止力を持つ為に大きな英知を持ち、それらを守らない者にも最も適切な罰が与えられます。この状況は、イスラームが人々にいかに重きをおいているか、人々を無限の慈悲や慈愛で包んでいるかを示します。

103. *The Guardian,* Saturday March 27 2004, “Sobering thoughts about a claim”, Sean COUGHAN.

3. 姦通

姦通は、以前から人の知性、道徳、法律上の秩序や、全ての啓示宗教が完全に誤った、醜悪なことであると見なしている行為です。姦通は血筋の混乱、家庭の崩壊、親族、隣人、友人といった結びつきを壊し、社会の精神的、道徳的価値が根本的に揺らぐ原因となります。人を、肉体的な快楽のとりことし、尊厳や誉れを踏みにじります。

売春は、女性の取引の広まり、女性が生計の手段として利用されること、女性を扱うブローカーの出現をもたらします。女性として、母親としての誉れや尊厳が踏みにじられます。

また一方で、姦通は健康にとっても非常に多くの害を持ちます。姦通の沼に落ちた人には、梅毒、淋病のような伝染する多くの病気が見られます。今日、医学的に治療法が見つけられていない致死的な病、エイズは、多くの場合姦通にとって広まります。

しもべを深く愛されるアッラーは、彼らがこのような醜い状態に陥ることを決して望まれません。その為、姦通するどころか、そばに寄ることすら禁止されているのです。クルアーンでは次のように語られています。

「また公けでも隠れていても、醜い事に近付いてはならない」（家畜章第151節）

「私通(の危険)に近付いてはならない。それは醜行である。憎むべき道である」(夜の旅章第32節)

つまり、姦通の基盤を形成するような道や機会に近づかないことが必要なのです。預言者ムハンマドは、不要なまなざしが心にとっていかに有害であるかを次のように語られています。

「ハラームを見ることは、イブリースの毒の矢の一つである。誰であれ、アッラーへの畏怖の為にそれを放棄すれば、アッラーは彼に、心でその優美さを感じられる信仰を与えられる」(ハーキム、IV, 349/7875、ヘイセミ、VIII, 63)

この為イスラームは、まず男性と女性に、イスラームが定めている形で体を覆うこと、互いを扇動するような行動を避けること、他人である男性と女性が二人だけでいないこと、集団においてオープンすぎる服装であったり、猥褻であったりすることを防ぐといった第1段階における予防措置を取っています。人々を扇動するような言葉、まなざし、緊密な関係が、姦通の為の準備となる行為として批判されていることも、その為です。イスラームはそれだけではなく、家族や地域に、子供たちをしつけ、結婚年齢をやむを得ない理由がないのに遅らせないこと、結婚を

容易にすること、社会において宗教的、道徳的価値を維持するといった役割を与えます。

ここから理解されるように、イスラームの目的は罪に対して罰を与えることではなく、社会で犯罪が起こることを防ぎ、人々が安全と安らぎの中で生きることを可能とすることなのです。実際イスラームでは、歴史を通して、姦通に対する罰は非常にまれに見られるものです。

一方でアッラーは、罪人に現世的な災いを与えることで彼らに警告され、大きな被害や永遠の懲罰から守ることを望まれます。姦通を行う者にもいくつかの災いを与えられます。預言者ムハンマドはこのことを、次のように語られています。

「ある民族の中で姦通や売春が生じ、結果としてその民族がこの罪を公然と行うようになると、必ずそこにペスト病や、過去の民族には見られなかった他の病が広まる」（イブニ・マジャ、フィテン22、ハーキム、IV，583/8623）

この世界でこれほど有害である姦通は、来世では人を恥辱にまみれさせ、恐ろしい罰へと引きずり込むのです。預言者ムハンマドは次のように語られています。

「ある夜、夢で、二人（ジブラーイールとミカーイール）が来て、私を起こし、『さあ、行きましょう』といった。私は彼らと共

に言った。窯のようなもののところに来た。そこは、何を言っているのかわからない叫び、悲鳴が互いに混じり合っていた中にはたくさんの裸の男女がいることがわかった。彼らの下から炎が上がるたびに彼らは叫び、悲鳴を上げていた。天使たちに、彼らが誰であるのかを尋ねた。

『姦通と行った男性、女性です』と彼らは応えた」（ブハーリー、タービル48、ジャナーイズ、93、ティルミズィー、ルヤー、10・2295）

ホモセクシュアリー、レズビアンといったこの上なく醜い行為も、姦通と同じように大きな罪と見なされています。これらがいかに醜悪で有害であるかは、正しい理性を持つ人なら理解するでしょう。

ここで挙げた罪の他、イスラームは、人を殺すこと、魔法を使うこと、姦通という中傷を行うこと、両親に従わないこと、孤児の財産を横領すること、敵と戦う時に前線から逃亡すること、嘘をつくこと、迫害すること、裏切ること、本人がいないところでその人が気に入らない形で話すこと（陰口）、中傷すること、窃盗を行うことといった、人間に多くの観点から有害である大きな罪をも、厳しく禁じています。[104]

104. Buhârî, Şehâdât, 10; Vasâyâ, 23; Müslim, Birr, 55, 56; Ebû Dâvûd, Edeb, 35/4875; Ahmed, III, 154, 135. 詳細については参照： Dr. Murat Kaya, *Efendimiz'den Hayat Ölçüleri,* İstanbul 2007, ｐ. 308-458.

D. イスラームにおける環境、清潔さ、水

1. 環境

アッラーは私たちの周囲にある全てを人の為に役立てられることを伝えられています。その感謝を正しく行う為に、環境に対して信託、責任という意識で接することが必要です。周辺環境が大事にされないこと、破壊、浪費されることは、その害が最後は私たちに戻ってくる、恩知らずな行為なのです。アッラーは次のように語られています。

「人間の手が稼いだことのために、陸に海に荒廃がもう現われている。これは(アッラーが)、かれらの行ったことの一部を味わわせかれらを(悪から)戻らせるためである」（ビザンチン章第41節）

アッラーはそれ以前に、「かれは天を高く掲げ、秤を設けられた。あなたがたが秤を不正に用いないためである」（慈悲あまねくお方章第7－8節）[105]と命じられていました。しかし人々はそれを聞かず、その害を自らが受けているのです。

ムスリムは心のやすらぎや美しさを自然にも反映させ、人々に、動物に、植物に、さらには無生物にたいしても、良く振る舞います。どの存在であれ傷つけないよう、注意します。預言者ムハンマドは、そのそばを、遺体が運ばれていった時、

105. 慈悲あまねくお方章第7-8節

「彼は楽になった、もしくは、自らから救われた」と言われました。サハーバたちは、

「アッラーの使徒よ、彼は楽になった、もしくは、自らから救われたという表現から意図されることは何でしょうか」と尋ねました。アッラーの使徒は、

「信者であるしもべは死んだ時、この世界の疲労や苦しみから楽になり、アッラーの慈悲に至る。罪を犯し、悪い人が死んだ時には、人々、町、木々、動物がその災いから救われ、楽になる」と言われました。（ブハーリー、リカーク、42、ナサーイ、ジャナーイズ、48、アフマド、V，296，302，304）

つまり、無生物と考えている被造物にすら、意識はあるのです。この証拠は、次の伝承です。

アブドゥラー・ビン・メスードは次のように語っています。

「ある山が、別の山に呼びかけ、『今日、あなたに、アッラーを祈念する人が寄りましたか』と尋ねる。もし、『はい、寄りました」と答えれば、それにとても喜ぶ』

この出来事をイブニ・マスードから伝承したアヴン・ビン・アブドゥラーは、次のように加えています。

「山は、悪い言葉だけ聞いて、良い言葉を聞かないだろうか？彼らも、尊い、素晴らしい言葉をもっと良い、大きな意欲を持って聞く。

クルアーンでは、山が悪い言葉を聞いていることを、次のように伝えている。

「またかれらは言う。「慈悲深き御方は子を設けられる。」確かにあなたがたは、酷いことを言うものである。天は裂けようとし、地は割れて切々になり、山々は崩れ落ちよう。それはかれらが、慈悲深き御方に対し、（ありもしない）子の名を（執り成すものとして）唱えたためである。子を設けられることは、慈悲深き御方にはありえない。天と地において、慈悲深き御方のしもべとして、罷り出ない者は唯の１人もないのである」（マリヤム章第88－93節）」

だから人は、あらゆる場所で、あらゆる場合に、不快にさせるような言葉や態度を真剣に避けるべきです。暮らしている都市、町、村の畑、水、空気、景色を汚すこと、ごみや汚いものを捨てることは人間としての誉れや尊厳にふさわしくない行為です。私たち自身、そして他者について考えないことです。しかしムスリムは、汚した場所に他者が不快感を抱くこと、自然の美しさが損なわれることを考えます。食べられる種やヘーゼルナッツやピーナッツの殻、瓶、缶、紙、包装紙など、町を汚すものを通りや裏通り、ピク

ニックの場所などに投げないこと、人々、さらには動物を不快にする行為を避けることが、信者であり、完全さに到達する為の条件であると認めています。なぜなら預言者ムハンマドは、人々に苦痛を与え、通行時に妨げになる枝、とげを取り除くことが、信仰の一端であるとされ、[106]人々に苦痛を与える者をアッラーが愛されないことを伝えられています。

ムアズ・ビン・アナスは次のように語っています。

「私はアッラーの使徒と共に遠征に出た。兵士たちが宿泊場所を窮屈とし、道の妨げとなっていた。そこで預言者ムハンマドは使者を送り、兵士たちに次のような呼びかけを行わせられた。

『誰であれ、どこかの場を窮屈にし、道で邪魔となるのなら（あるいは、信者に苦痛を与えるのなら）その人の聖戦はない』」（アブー・ダーウード、ジハード、88/2629；アフマド，III，441）

預言者ムハンマドはここで、不要に場所や道を窮屈にすること、どのような形であれアッラーのしもべたちに苦痛を与えることがいかに大きな過ちであるかを示され、このような振る舞いが善行を失わせることを示され

106. Müslim, Îmân, 58.

ています。この観点から、適当に道にごみを投げること、痰をはくこと、駐車すること、人々の通行を困難にするものを置くことといった各種の苦痛を与える行為は、避けるべきなのです。預言者ムハンマドは別のハディースでも次のように語っておられます。

「道で礼拝をすること、そこに血を流すことを避けなさい。なぜならそこは、ヘビや獰猛な動物が通る場所である。道の途中でウドゥーを無効にすることも避けなさい。なぜならこの種の行為は人の呪いを招く下品なものである」（アフマド、III，305；381）

「人に呪われることになる、3つの行為を避けなさい。泉で、道の真ん中で、そして人が陰に入って涼んでいるところでウドゥーを無効にしてはいけない」（アブー・ダーウード、タハーラ、14/26；イブニ・マジャ、タハーラ、21）

預言者ムハンマドのこの素晴らしいしつけからは、ただ人間ではなく、自然界の全体を見て、大きな均衡が守られていること、周辺の環境や野生の生命すら、深い細やかさ、注意深さで守られていることが読み取れます。

ムスリムは、人々以外に動物にも不快さを与えず、さらにはアッラーの被造物としてそれらに奉仕をしてきました。有名なフランスの著作家モンターニュは、「ムスリムであるトルコ人が、動物の為にワクフ（宗教寄進財

団）や病院」を建てたと表現しています。17世紀に、オスマン朝の国を旅行したフランス人の弁護士グエルは、ダマスカスで病気になった猫や犬の治療の為の病院があると言及しています。この種のワクフについて、シバイ教授も次のような情報を示しています。

「古いワクフの伝統では、病気の動物の治療や放牧の為の場所があった。「緑の草原」（現在、ダマスカスの町のスタジアムとして使用されている場所）では、労働力を失い、持ち主からエサや世話を与えられなくなった哀れな動物たちの放牧の為にワクフに寄進されていた場所だった。この動物たちは死ぬまでそこで放牧されていた。ダマスカスのワクフの中には、猫が食べ、眠り、歩き回ることのできる場所もあった。何百もの猫が、毎日の餌の苦労をすることなく、ここで過ごしていた」

生命にこれほどの価値を与えるイスラームは、自然と共に木や緑の環境にも非常に重きをおいています。預言者ムハンマドは、次のように語られています。

「最後の審判が起ころうとしていても、あなた方の誰かの手に苗木があれば、世界が終わる前にそれを植えられるのなら、すぐに植えなさい」（アフマド、 III，191，183）

サハーバのうち、有力者の一人であるアブー・ダルダはダマスカスで木を植えていました。そばにある人が近づき、

「あなたは預言者さまの親友であるのに、植樹に従事しているのですか」と言い、その状態に対しての驚きを示しました。アブー・ダルダはその人に、次のように答えました。

「待ちなさい、私についてそんなに簡単に判断を下してはいけない。私は預言者ムハンマドがこうおっしゃるのを聞いたのだ。『誰かが木を植え、その木の果実で人もしくはアッラーが創造された物のうちいずれかの存在がそれを食べるなら、その木を植えた人にとってサダカとなる』」（アフマド、VI，444）

また預言者ムハンマドは、次のように語られています。

「誰であれ、シドラの木を、その必要もないのに切り倒すなら、アッラーはその頭を地獄へと届かせる」（アブー・ダーウード、アーダーブ、158-159/5239）

「その観察者である天使が、翼によって守っていない植物など、地上にはない。この状態は、植物が収穫されられるまで続く。誰であれ、この植物を踏みつぶせば、その天使が彼を呪う」（Ali el-Müttakî，Kenz，III，905/9122）

預言者ムハンマドは、マッカと並び、マディーナとターイフ地区も禁じられた地域をされ、そこで木を切ること、植物の覆いを壊すこと、猟をすることを禁じられました。[107]そして次のように語られています。

「アッラーの使徒の木立がそこにある木々は棒で打たれない。切られることもない。しかしやむを得ない場合に動物のエサの為にするため、軽く、そっと揺らし、葉を落とすことはできる」（アブー・ダーウード、巡礼、95-96/2039）

また、ハーリセ族の牧草地について、

「誰であれ、ここで木を切るなら、必ずその代りに木を植えなさい」と言われています。[108]

アブー・ドゥシュム・アル－ジュヘニーはその祖父から、次のように伝承しています。

「預言者ムハンマドは、動物たちに食べさせる為に、手にしていた棒で木の枝を打ち、その葉を落そうとしている遊牧民を目にされた。そばにいる者に、

107. Ebû Dâvûd, Menasık, 96; M. Hamidullah, *İslam Peygamberi,* İstanbul 2003, I, 500; a.mlf., *el-Vesâik,* Beyrut 1969, s. 236-238, 240; Ali Rıza Temel, “İslam’a Göre İnsan Çevre İlişkisi”, *İnsan ve Çevre,* s. 77.
108. Belazurî, *Fütûhu’l-büldân,* Beyrut 1987, s. 17; İbrahim Canan, *İslam ve Çevre Sağlığı,* İstanbul 1987, s. 59-60.

『あの遊牧民を私のところに連れて来なさい。ただ、優しく振る舞いなさい、彼を怖がらせてはいけない』と言われた。遊牧民が連れて来られると、

『遊牧民よ、優しく、そっと揺らして葉を落としなさい。打ち、枝を折りながらではいけない』と言われた。私は遊牧民の頭の上に落ちていた葉を、いまだにこの目で見ているかのようだ」(İbnü’l-Esîr, Üsdü’l-Ğâbe, Beyrut 1417, VI, 378)

このように預言者ムハンマドは、あらゆる機会に環境を守ること、美化することを勧められ、あらゆる被造物に対し敬意を持ち、徳を備えた集団を育成されたのです。

最初のカリフであるアブー・バクルは、遠征に出た時に準備した軍に行った次の呼びかけは、その証言の一つです。

「裏切り行為を行ってはいけない、戦利品において背信行為を行ってはいけない。迫害を行ってはいけない。耳や鼻を削ぐような拷問をしてはいけない。子供たち、老人、女性を殺してはいけない。ナツメヤシの木を根こそぎにしてはいけない。燃やしてもいけない。実のついている木を切ってはいけない。羊、牛、ラクダを（あなた方が食べるもの以外）殺してはいけない。修道院にこもって崇

拝行為を行っている人々がいれば、彼らの妨げをしてはいけない」[109]

ムスリムのこの細やかさを目にしたコムテ デ・ボンヌヴァルは驚き、

「オスマンの国では、暑さで乾燥しないように、実をつけない木にすら、毎日水やりをする為の職員の賃金をワクフ化するほど行き過ぎている（！）トルコ人すら、目にすることができる」と書いています。

2. 清潔さ

イスラームは、物質的、精神的なあらゆる種類の清潔さを奨励し、これらをどのように行うかを教えています。クルアーンでは、

「アッラーは、悔悟して不断に(かれに)帰る者を愛でられ、また純潔の者を愛される」（雌牛章第222節）とされています。

預言者ムハンマドは、

「アッラーは清らかであられる。清らかさを愛される」と言われています。（ティルミズィー、アーダーブ、41/2799）

預言者ムハンマドは、生涯を通して清潔さのあらゆるものに非常に注意を払っていた

109. Beyhakî, *es-Sünenü'l-kübrâ,* IX, 85; Ali el-Müttakî, *Kenz,* no: 30268; İbnü'l-Esîr, *el-Kâmil,* Beyrut 1987, II, 200.

ことが知られています。例えば、モスクや客として招かれた場所に行く時、集団の前に出る時、清潔で立派な服を着ること、良い香りをつけること、タマネギ、ニンニクのような他者を不快にする可能性のあるものを食べないことにこの上なく注意を払われました。

イスラームは、タハーラ（清浄さ）、ナザーファ（清め）、そして細やかさの上に築かれた秩序をもたらしました。預言者ムハンマドは、「清潔さは信仰の半分である」と言われました。[110]ハディースや法に関する書物のほとんどすべては、清潔さの項目から始まります。

イスラームにおいては基本的な原則として、体や場所の清浄が行われない状態では、いくつかのイバーダが有効とは見なされません。その関わりで、例えばトイレでの作法に大きな重きがおかれ、ムスリムは服を汚物で汚すことなく、適切な形で排泄行為を行うよう命じられています。預言者ムハンマドは、

「墓場での罰の多くは、汚物をあるべき形で避けなかったことから生じている」[111]と言われ、ウンマがこの点で注意深く振る舞うことを求められました。

イスラームは、日に少なくとも5回、手、口、鼻、頭、耳、首、足といった、汚れや最

110. Müslim, Tahâret 1.
111. İbn-i Mâce, Tahâret, ٢٦.

近にいつでも接触する器官を洗うこと、清潔にすること（ウドゥー）を命じています。預言者ムハンマドは、

「天国の鍵は礼拝であり、礼拝の鍵は清潔さである」と言われています。[112]これによってイスラームは、全ての人が必ず行うべき清浄を、イバーダという特性で包み、人が清浄を行う際に同時にイバーダを行ったことになることを確保しています。

預言者ムハンマドが重きをおいて集中しておられたもう一つの点が、口の清潔さです。その為、預言者ムハンマドは様々な時間、特にウドゥーを行う直前にミスワークを用いることを奨励されました。[113]ムスリムが食前、食後に手を洗い、食事を清潔さによって恵み豊かなものとすることを求められました。[114]

また一方で、人間の本質の要するところとして割礼を行うこと、陰毛を剃ること、爪を切ること、わきの下を清潔にすること、髭を短くすることも、預言者ムハンマドが教えられた清潔さと道徳の基本です。[115]

預言者ムハンマドは、その服の清潔さに非常に注意を払われたように、配置や秩序に

112. Ahmed, III, 340.
113. Buhârî, Cuma, 8; Temennî, 9; Savm, 27; Müslim, Tahâret, 42.
114. 参照：. Tirmizî, Et‘ime, 39/1846.
115. Buhârî, Libâs, 63-64.

も同じくらい注意を払っておられました。そのことを証言する人々の一人であるアブー・クルサファは次のように語っています。

「私と母、伯母は預言者ムハンマドに誓いを行う為にそのおそばに言った。預言者ムハンマドのそばから離れた時、母と伯母は、

『わが子よ、このお方のような人を見たことはありません！顔が彼よりも美しく、服がより清潔で、言葉がより優しい人を私たちは知りません。神聖なあのお口から光が放たれるようでした』

(Heysemî, VIII, 279-280)

預言者ムハンマドがモスクにいる時に、そのそばに髪やひげがもつれあったような人が現われました。預言者ムハンマドはその手で、彼に髪やひげを治すように示されました。[116]

預言者ムハンマドは、服に不快になるような匂いがあることを好まれませんでした。ある時、着た服に汗や羊毛の匂いを感じ、それを脱がれました。このことを私たちに教える聖アーイシャは、預言者ムハンマドが芳香を好まれたことを伝えています。[117]

伝承によると、

「アッラーの使徒は、夜、その良い香りで認識された」（ダーリミー、ムカッディマ、10）

116. *Muvatta',* Şaar, 7; Beyhakî, *Şuab,* V, 225.
117. Ebû Dâvûd, Libâs, 19/4074.

サハーバは、自分の仕事を自分で行う人々でした。彼らは、金曜礼拝の時間まで仕事場で働き、金曜礼拝の時間が近づくと仕事をやめて礼拝に来ていました。その為、彼らの体からはかなり匂いがしていました。それに対し預言者ムハンマドは、

「あなた方が金曜日に入浴することができれば」と言われました。（ブハーリー， 金曜礼拝16，魔術`15；ムスリム、金曜礼拝 6）

ムスリムは、祖国のあらゆる街角で各種の食事場や水道、泉を建設しました。清潔さが不十分とはならないよう、村々に至るまで、あらゆる場所に公衆浴場が造られました。ムスリムの家は非常に清潔です。靴のままで室内に入ることはありません。あらゆる場所が、礼拝を行うことができるほどにきれいなのです。家の中で動物を飼うこともありません。さらには、家には鳥ですら入れません。有力な学者であるサハーバの**アブドゥッラー・ビン・マスード**やその他のイスラームの偉人たちは、家を毎日掃除することを命じていました。この為、家々にはわらの切れ端すらありませんでした。（イブニ・アビ・シャイバ V，264/25921-2）

M. ドゥ・テヴノは、ムスリム社会の清潔さ、清浄について次のように語っています。

「トルコ人は健康に生き、余り病気にならない。私たちの国にある腎疾患や多くの危

険な病気が彼らにはない。その名すら彼らは知らない。トルコ人のこの完全な健康の理由の一つはしばしば体を洗うことと、飲食の際の節度である。彼らはかなり少なく食べる。食べているものも、キリスト教徒のように色々と混じり合ったものではない」[118]

預言者ムハンマドは、人々が行き来する道、陰で休んでいる場所、木陰、壁際、人々が休む為に座っている場所を汚すことを絶対的に禁じられました。[119] **アブー・ムーサー・アル‐アシャリー**は、バスラに知事としてきた時に次のように語っています。

「私をあなたがたのもとに、ウマル・ビン・ハッタブが派遣しました。あなた方に、クルアーンとスンナを教え、そしてあなた方の道の掃除をしましょう」（ダーリミー、ムカッディマ 46/566, イブニ・アビ・シャイバ V, 264/25923）

預言者ムハンマドは家畜の世話や清潔さについても奨励を行われ、特に羊やヤギの汚れやほこりを清めるよう求められました。（ヘイセミ IV, 66-67）

イスラームは、イバーダの場の清潔さに特別な重要性をおいています。**ジャービル**は次のように語っています。

118. M. De Thevenot, *Relation d'un Vogaye Fait au Levant*, Paris, 1665, p. 58.
119. Ebû Dâvûd, Tahâret, 14/26; İbn-i Mâce, Tahâret, 21; Ahmed, I, 299; III, 305; 381; Hâkim, I, 273/594.

「ある時、預言者ムハンマドはモスクに、私たちを訪問された。その手に、イブヌ・ターブとして知られるナツメヤシの木の一本の枝があった。モスクで、キブラの方に唾が吐かれていることを目にされ、それを手にした枝で拭かれた。それから私たちに向かい、『私にサフランをください』と言われた。若者が立ち上がって全力で家に走り、サフランの香水を持ってきた。預言者ムハンマドはそれを枝の先に塗られた。そしてそれで、唾の痕跡を消された。モスクにこの香りをつけることは、ここに由来する」（ムスリム，ズフド，74；メサージド，52；ベイハキ、キュブラ，I，255）

3. 水

周辺環境の美化や清浄の実現の為に最も必要な媒介が、水です。さらには、生命の維持は水にかかっているのです。なぜなら水は生命であり、全ての生命体の基本は水であるからです。

クルアーンでは、

「アッラーは全ての生物を水から創造された」（御光章第45節、預言者章第30節）とされています。

アッラーはしもべが受益できるように、水に非常に特別な特性を与えられました。その一部は次のようなものです。

1）水に最も近い化合物である硫化水素は、水よりも2倍重いにもかかわらず、室温で気化します。さらに、悪臭と有毒性を持つ気体になります。つまりアッラーは水を、人間の為に特別に用意されたのです。

2）水が最も密度が濃い状態とは、他の化合物とは逆に固体、すなわち氷ではなく、４℃の液体である時です。この状態で海、湖、川では水は底から上ではなく、表面から下へと凍っていきます。これも、水の中で生きる生物が水の表面にできた氷の層により、凍り付いてしまうことから守られるということを可能にするのです。

3）水の氷点及び沸点も、有機生命体にとって最も適した温度になっています。

4）水の極性によって、多くの有機もしくは無機の物質を容易に融解させることができる特性があります。[120]

クルアーンは「水」にしばしば言及します。雨がどのように形成されるか、雲が雨に変わるプロセス、雨が細かな基準で地上に下され、それによって死んだ大地が蘇ること、地下水、水の循環、そして汚染された水の浄

120. Doç. Dr. Şâkir Kocabaş, *Kur'ân'da Yaratılış,* p . 157.

化について言及されています。[121]これらが人にとっていかに大きな恵みであるかに注意をひき、雨に「慈悲」という名を与えます。[122]

水の価値を最良の形で認識しているムスリムは、自分たちに水を与えてくれた人に対し、「水のように聖なる存在となってください」とドゥアーします。この為にも、水の奉仕を重要視します。特にカーバ神殿の近くで巡礼者たちに水やシャーベットを提供することを、大きな誉れであり重要な任務であると見なします。預言者ムハンマドの叔父アッバースは、ターイフにブドウ庭園を持っていました。イスラーム以前もイスラーム以降も、そこから干しブドウを運び、ザムザムの水の中に加え、巡礼者に提供していました。彼以降も息子や孫たちがそれを続けていました。[123]

ある時預言者ムハンマドは、マスジド・ハラームで水やシャーベットが提供される大きな通りに来られ、水を求めました。アッバースは息子に、

「あなたの母のところに行き、そこにある飲み物をアッラーの使徒の為に持ってきなさい」と言いました。預言者ムハンマドは、

121. 御光章第4節; 金の装飾章第11節; 集団章第21節; 出来事章第68-70節; 引き離すもの章第31節; 識別章第48節
122. 高壁章第57節; 相談章第28節
123. İbn-i Hişâm, IV, ٣٢; İbn-i Sa'd, II, 137; Vâkıdî, II, 838.

「いや、皆が飲んでいる飲み物を私に下さい」と言いました。アッバースは

「アッラーの使徒よ、ここの水には、時々人の手が触れるのです」と言いました。

預言者ムハンマドは、

「いいから、人々の飲んでいるこの飲み物をください」と言われました。そしてアッバースの差し出した水を飲んだ後、預言者ムハンマドはザムザムの井戸のそばに来られました。アッバースの家族はその井戸から水をくみ、巡礼者に提供していました。預言者ムハンマドは、

「アブドゥルムッタリブの息子たちよ、さがりなさい！誠実な仕事がここで行われている」と言われました。それから預言者ムハンマドは、

「人々が（私が行ったことを真似る為に）どっとやってきて、あなた方の邪魔になるようなことがないのなら、私もラクダからおりて井戸のロープをここにかけ、あなた方のように水を汲んでいただろう」と言われ、その手で神聖な肩を指し示されました。（ブハーリー、巡礼、75）

預言者ムハンマドは人々に水を提供することの徳について、次のように語られています。

「最後の審判の日、地獄に行くことになった人が天国に行くことになった人に出会い『誰それよ、覚えているか、あなたは水を求めていた。私もあなたに一口の水を与えた』という。（私もその形でとりなしを求める）。信者もその人のとりなしを行う。また一人が、天国に行くことになった人のもとに来て、いう。

『覚えているか、あなたに一度、ウドゥーの為の水を与えたのだ』と言い、（とりなしを求める。彼も思い出す）彼の為にとりなしを行う。また地獄に行くことになった人が天国に行くことになった人に、

『誰それよ、私をこれこれの仕事に派遣した日のことを覚えているか。私はその日、あなたの為に行ったのだ』という。天国に行く人も、彼の為にとりなしを行う」（イブニ・マジャ、アーダーブ、8）

預言者ムハンマドは、飲む水が清潔で甘美であることに注意を払われ、水が甘美である井戸を選ばれました。[124]そして水を汚すことを禁じられました。[125]

同様にイスラームは、ウドゥーをする為の水が清潔であることを条件とします。味、色、匂いが変化している水を飲むこと、使うことを望みません。

124. İbn-i Hacer, *İsâbe,* III, 615.
125. Buhârî, Vudû', 68.

水がこれほど重要であるのであれば、それに対して良く振る舞うことが必要となります。日本の学者であるエモト・マサル博士は、氷の結晶について研究を行い、これらが整って美しい六角形で生じること、この結晶が人の手が触れていない自然な水源の水においては人を魅了するほどの整った、美しい形をしていることに気が付きました。二つの異なる容器にこの水を入れて研究をおこないました。愛情、慈悲、祈り、恩といった表現をささやきかけた一つめの容器の水の結晶は本来の壮麗さを維持し、罵りを含む言葉や「シャイターン」のような悪い意味を持つ言葉をささやきかけた水の結晶はバラバラになること、全ての美的な特性を失い、形を亡くすことが明らかになりました。同じ実験で水は、素晴らしく心地の良い音楽と、不快にする醜いリズムに対し、異なる反応を示しました。これに類似する実験が、ゆでた米や花に対しても行われ、良く振る舞われたものはその美しさと新鮮さを維持し、逆の方は腐ったり、枯れてしまったりしたのでした。

江本博士は、「良い方向で考えること、水にも良い態度で接することの、人の体に対する影響とは何でしょうか」という質問に、次のように応えています。

「これは私の7年半の研究です。この期間で、ガンや類似する病気にかかっている人に、良

い、美しい、慈悲深い言葉をかけられたこの水を飲ませ、病気の治療にプラスの影響があることを確認しました」[126]

この観点から全ての人、動物、植物、環境、自然、要するに世界全てを愛すること、全てに対して良く振る舞うことが必要となるのです。

ここで言及されるべきもう一つの項目は、自然、環境、そして水が浪費されないという点です。アッラーは次のように語られています。

「そして食べたり飲んだりしなさい。だが度を越してはならない」（高壁章第31節）

「浪費者は本当に悪魔の兄弟である。悪魔は主に対し恩を忘れる」（夜の旅章第27節）

「浪費してはならない。本当にかれは、浪費の徒を御愛でになられない」（家畜章第141節）

預言者ムハンマドは次のように語られています。

「浪費やうぬぼれに逸脱することなく食べなさい、飲みなさい、服を身につけなさい、サダカを払いなさい」（ブハーリー、リバス、1、イブニ・マジャ、リバス、23）

---

126. İpek Durkal, "Allah'ın 99 Adı İle Oluşan Kristalleri Gösterecek", *SABAH GAZATESİ GÜNAYDIN EKİ,* 28.03.2009; http://arsiv.sabah.com.tr/2009/03/28/gny/haber,E64927875AE84F09B4896D9955C9BE15.html

特に水は、どのような形であれ浪費するべきではありません。預言者ムハンマドは、サハーバのサアドのもとに寄られました。サアドは礼拝の為にウドゥーをしていました。水を大目に使っていました。預言者ムハンマドは、

「この浪費は何かね？」と言われました。サアドは、

「ウドゥーの為であれば浪費になりますか」と尋ねました。

預言者ムハンマドは、

「その通りだ、流れる川でウドゥーをしていたとしても同じである」と答えられました。（イブニ・マジャ、タハーラ、48）

アッラーにイバーダを行う為にウドゥーをする時にすら、水を浪費しないことが求められているのなら、その他の状況での浪費は決して認められないものであることは明らかなのです。

第3部
クルアーン

1. 啓示と記録

クルアーンは、最後に下された啓典です。アッラーはそれをまとめてではなく、多くの英知により、少しずつ下されました。この状態は人々に多くの効果と、大きな容易さをもたらしました。

預言者ムハンマドは、啓示が下されるごとに章句を忘れない為に急いでジブリールと一緒にそれを唱えようとされました。それに対し、次の節が啓示されました。

「あなた（預言者ムハンマド）に対する啓示が完了しない前に、クルアーンを急いではならない。寧ろ（祈って）言いなさい。「主よ、わたしの知識を深めて下さい。」」（ター・ハー章第114節）

「この（クルアーンを催促するために）あなたの舌を急がしく動かしてはならない。それを集め、それを読ませるのは、われの仕事である。それでわれがそれを読んだ時、その読誦に従え」（復活章第16－18節）

それ以降、ジブリールが来た時には、預言者ムハンマドは黙られ、ジブリールが啓示の全てを伝え終えてから、もたらされた啓示を完全に暗唱され、読誦されました。この状態は、クルアーンが奇蹟であることを示す証拠の一つです。

預言者ムハンマドには、たくさんの啓示の書記がいました。その数は65人に達していました。クルアーンの一部が下されると、書記のうち都合が合う者を呼び、啓示を書き取らせました。[127]書く作業がすむと、書記たちに書いたものを読ませられました。そして不足があればそれを修正させられました。その後、書記たちが出て、啓示を人々に示しました。[128]それから預言者ムハンマドも、まず男性に、それから女性のサハーバたちに読まれました。[129]ムスリムたちは下された啓示を暗記し、一部もそれを書き取りながら、保護しました。

少しずつ下された章や説が、クルアーンのどこに収録されるのかという点は、アッラーによって示されました。ジブリールがこれらを預言者ムハンマドに教え、預言者ムハンマドも書記たちに書き取らせていました。[130]

127. Prof. Dr. M. M. el-A'zami, *Kur'ân Tarihi,* p. 106-107.
128. Bkz. Buhârî, Fedâilü'l-Kur'ân, 4; Tirmizî, Menâkıb, 74/3954; Ahmed, V, 184; Heysemî, I, 152
129. İbn-i İshâk, Sîret, p. 128.
130. Buhârî, Tefsîr, 2/45; Ebû Dâvûd, Salât, 120-121/786; Tirmizi, Tefsir, 9/3086; Ahmed, IV, 218; Ali el-Müttakî, II, 16/2960. Âyetlerin tertîbi ile ilgili bkz. Mehmet Fâik Yılmaz, *Âyetler ve Sûreler Arasındaki Münasebet,* Ankara 2005, p. 100-102.

忘れるべきでない点は、最初に啓示された章句は、内容として、人間が知識を得て学ぶことの媒介である「筆」や「書かれた文章」に懸けられており、書かれた知識、という意味である「キターブ（本）」という言葉に何度も言及されていました。[131]預言者ムハンマドが、クルアーンの言葉を書かれたものとして固定し、保護されようとした努力や細やかさを支えた要素の一つがこれなのです。

クルアーンを書き取ることは、サハーバの間で広く行われました。皆、この仕事をしっかりと引き受けていました。書くことができない人は、多くの場合モスクに行き、筆記用具を用意して、書いてくれる人を探しました。[132]この為預言者ムハンマドは、混乱を生じさせないよう、最初期の頃に、クルアーンとハディースを同じ場所に書くことを禁じられました。[133]

つまり章句は、イスラームの最初期の時代、さらにはムスリムがクライシュ族の迫害を受け、新たに芽生えた社会であった時です

131. 凝血章第1-5節; 筆章第1節; 雌牛章第2節; 金の装飾章第2節; 煙霧章第2節

132. 参照. Beyhakî, *es-Sünenü'l-kübrâ,* VI, 6.

133. Prof. Dr. M. M. el-A'zami, *Kur'ân Tarihi,* p . 107-108. 預言者ムハンマドは、クルアーンの啓示と自らの言葉であるハディースを互いに区別することに非常に注意を払われ、「これはアッラーからもたらされた啓示である」「これは私自身の考えである」と説明されていた。時にはサハーバたちが「この考えはあなたのものか、それともアッラーからの啓示か」と尋ねていた。(参照：M. Hamidullah, *Kur'ân-ı Kerîm Tarihi,* s. 15-18)

ら、記録されていました。「眉をひそめて」章第11－16節では、クルアーンの最初期において存在していた多くの手書きの版について言及されています。イブニ・アッバースもマッカで啓示された章句がすぐにその場で記録されたことを語っています。[134]実際、最初期の頃、聖ウマルは、クルアーンが書かれた紙を読んで信仰を持ちました。[135]ラーフィ・ビン・マーリクはアカバの誓いに参加した時、預言者ムハンマドはそれまでに啓示された全ての章、節で構成されたクルアーンの文書を彼に差し出しています。ラーフィはマディーナに戻った時、自分の町に建設させ、イスラーム社会の最初のモスクとして知られるモスクに集まったムスリムたちに、この章や節を読誦しています。ユースフ章は、最初にラーフィがマディーナにもたらしたものです。[136]

啓示されたクルアーンの章句は、最初の日以来、義務やナーフィラ（義務ではない）礼拝、特に長く行われるタハージュドの礼拝で、声を出して、もしくは出さないで日夜読まれていました。サハーバの間では、読み書きやクルアーンを学び、暗唱する活動が大きな形で始まっていました。実際、預言者ムハ

134. İbn-i Dureys, *Fedâilü'l-Kur'ân,* p. 33.
135. İbn-i Hişâm, I, 369-371.
136. Bkz. İbn- Hacer, *İsâbe,* no: 2546 [Râfî' bin Mâlik mad.]; İbn-i Kesîr, el-Bidâye, III, 152; İbnü'l-Esîr, *Üsdü'l-Ğâbe,* II, 157; Kettânî, Terâtib, Beyrut, ts., I, 44; A'zami,同著, p. 106; Hamidullah, 同著 p. 44.

ンマドの奨励や努力の結果、多くの人がクルアーンを最初から最後まで暗記し、またそれを書いていました。この素晴らしい努力は、現在まで続けられているのです。

ラマダーン月に預言者ムハンマドとジブリールはクルアーンを互いに読み合わせました。最後の年にはそれを2度、行いました。[137] イブニ・マスードは次のように語っています。

「預言者ムハンマドとジブリールが互いにクルアーンを読み合わせることを終えた時、私も預言者ムハンマドに対して読みました。そして預言者ムハンマドは私の読み方がこの上なく素晴らしいと言われました」（タベリー、1，28、アフマド、 I，405）

ジブリールと行われた最後のムカーバラの後、預言者ムハンマドは、ザイド・ビン・サービトと、ウバイ・ビン・カアブが互いにクルアーンを読み合わせました。さらに預言者ムハンマドは、ウバイに対して2度読まれました。[138]このムカーバラの習慣も、現在まで続き、今でもその活力を保っているのです。預言者ムハンマドは自らに下された節や章を時折金曜礼拝で読まれていました。一部のサハーバは、節をこのフトバで聞いて覚えていたと語っています。（ムスリム ジュムア 49-52）

137. Buhârî, Bed'ü'l-halk, 6; Fedâilü'l-Kur'ân, 7; Savm, 7.
138. Mukaddimetân, nşr. A. Jeffery, p. 74, 227; Tâhir el-Cezâirî, et-Tibyân, p. 26.

預言者ムハンマドの生き方を見るなら、彼がクルアーンをあらゆる機会に読まれたことがわかります。人々にイスラームを解く時、サハーバに説話をする時にクルアーンを読まれました。何かの問題について改善する時には、その項目に関連のある節を読まれました。夜のイバーダでクルアーンを読まれました。毎日規則正しい形でクルアーンの7分の1を読むという習慣もありました。[139]サハーバたちもそのようにしていました。マディーナに来たサキーフ族の一団にいた**アウス・ビン・フザイファ**は次のように語っています。

「預言者ムハンマドは、ある晩、イシャーの礼拝の後、長い間私たちのそばに来られませんでした。『アッラーの使徒よ！私たちのそばに来られるのになぜ遅れたのですか？』と尋ねました。預言者ムハンマドは、『毎日クルアーンから一部を読むことを自分のつとめとしているのです。それを行わずにここに来ることは望まなかったのです』と言われました。朝になると私たちは、サハーバたちに『あなた方はクルアーンをどのように分けて読んでいるのですか』と尋ねました。彼らは『私たちは章を、最初の3つを第1部、それに続く5つを第2部、それから順番通り7，9，11、そして11の章をまとめてそれぞれの部分にしています。それから、カーフ章以降の

139. 参照Müslim, Müsâfirîn, 142; Ahmed, IV, 9; İbn-i Mâce, Salât, 178; İbn-i Hişâm, I, ٣٨١.

短い章を一つの部分にして、クルアーンを（7日で）読んでいます』と答えました」（アブマド、4，9、イブニ・マジャ、サラート、178）

また預言者ムハンマドは、

「誰であれ、夜、クルアーンの部分やその中の一部を読むことなく眠れば、それを朝の礼拝と昼の礼拝の間で完了させなさい。その場合、夜に読んだかのように、同じ善行を得ることになる」と言われました。（ムスリム、ムサーフィリーン、142）

キンデ族の代表者たちがヒジュラ歴10年に60人もしくは80人やってきて、モスクにいた預言者ムハンマドのそばにやってきました。預言者ムハンマドは、

「アッラーは私を、正しい教えの預言者として遣わされ、私にさらに啓典を下された。それには、逸脱というものは前からも後ろからも近づけない」と言われました。キンデ族の代表者たちが、

「私たちにもそれを少し聞かせて貰えますか」と言いました。預言者ムハンマドは、整列者章を読み始められたのでした。

「整然と列をなす者たちにおいて。駆り立て追う者において。また訓戒（のクルアーン）を読み聞かせる者において、誓う。本当にあなたがたの神は、唯一の主である。天と地、そしてその間に

ある凡てのものの主、また日の出を司どる主である」（整列者章第1－5節）

預言者ムハンマドは、この章句を読まれ、沈黙されました。全く身動きされずにいました。目に涙があふれ、その涙が髭の方に流れ始めました。キンデ族の人々は、

「我々はあなたが泣いているところを見ています。あなたを遣わされたお方を恐れて泣いているのですか」と尋ねました。預言者ムハンマドは、

「私を恐れさせ、泣かせるのは、アッラーが私を、剣の先のような細く鋭い正しい道に遣わされたということなのです。そこからわずかでも傾いてしまえば、私は滅亡するでしょう」と言われた後、

「かれがもし望むならば、あなたに啓示したものを取り上げることも出来る。その時それに就いて、われに逆らってあなたを弁護する者を見い出さないであろう」[140]（夜の旅章第86節）という節を読まれました。それに対し、キンデ族の代表者たちはムスリムになったのでした。（参照 İbn-i Hişam, IV, 254; Ebû Nuaym, Delâil, I, 237-238; Halebî, III, 260）

アブー・タルハーはある時、預言者ムハンマドのそばにやってきて、彼が立ったまま「庇の仲間たち」にクルアーンを教えられてい

140. 夜の旅章第86節.

るのを目にしました。預言者ムハンマドは、空腹の為折れそうになる腰をまっすぐにする為に、おなかに石を結び付けていました。そう、預言者ムハンマドとサハーバのやるべきことはアッラーの書物を理解すること、学ぶこと、そして彼らの望みや意欲も、クルアーンを何度も読むこと、聞くことだったのです。（アブー・ヌアイム、ヒルヤ、1, 342）

預言者ムハンマドはサハーバに、時折ご自身にクルアーンを読むよう求め、失礼になるとしてそれを遠慮する人には、

「私はクルアーンを他者から聞くことも好む」と言われました。（ブハーリー、タフシール、4/9；ムスリム，ムサーフィリーン 247）

サハーバの中には、クルアーンを毎晩最初から最後まで読む人々もいました。[141]**オスマン・ビン・アブドゥルラフマン**は次のように語っています。

「ある日、『今晩は、【イブラーヒームの場】で礼拝をして過ごそう』と私はニーヤしました。イシャーの礼拝の後、私はその場所で礼拝を行いました。私が礼拝をしている時、誰かが私の肩に手を置きました。礼拝の最後の挨拶をしてから見ると、それは聖ウスマーンでした。聖ウスマーンはファーティハ

141. Tirmizî, Kırâât, 11/2946; Heysemî, IX, 94; İbn Sa'd, III, 76; Ebû Nuaym, Hilye, I, 57; Ahmed, ez-Zühd, s. 127; Ali el-Müttakî, XIII, 31/36168-70.

章から始め、クルアーンを最後まで読み、礼拝を終えました。挨拶をし、靴を持って去っていきました」（アブー・ヌアイム、ヒルヤ、1，56）

2. 保護されること、製本されたこと

預言者ムハンマドが亡くなり、啓示が完了した時には、非常に多くの人がクルアーンを暗記しており、礼拝でそれを読誦していました。しかし預言者ムハンマドの最期の時まで啓示は続いた為、クルアーンの章が書かれた各ページが、表紙の間でまとめられて本という形になる、ということはされていませんでした。**聖アブー・バクルはザイド・ビン・サービト**を長にして、一団を構成し、書き記されたクルアーンのページを一冊の本としてまとめました。この一団には非常に濃密で、この上なく信頼のおける仕事のやり方がありました。例えば、その一つは次のようなものでした。**聖ビラール**はマディーナの通りを歩き回り、人々に宣告を行いました。クルアーンの章句が記された書類を持っている人は皆、預言者ムハンマドが正書法で書かせられた手書きの初版であることを証言する二人の人と共に、モスクにそれらを持って来なければならないとされたのです。この一団は、人々が暗記しているクルアーンと、二人の証人と共に持ってこられた書かれたものと比較し、クル

アーンを最初から最後まで全て書き取りました。この一団は、人々が手にしているクルアーンのページを集めてはいたものの、そもそもクルアーンを全て暗唱もしていました。このやり方により、確実に作業を行い、クルアーンについての何の疑いの可能性もないことを明らかにしたのです。

聖ウスマーンは、その後、またザイド・ビン・サービトを長とする一団により、クルアーンの版を増やしました。別の見解によれば、聖ウスマーンは、ザイド・ビン・サービトを長とする12人の一団に、クルアーンを改めて編集させました。これをアブー・バクルの時代に集められたムスハフ（正典）と比較し、その間に全く差異がないことを確認しました。これも、クルアーンが完全にアッラーの保護のもとにあること、その二つの時代においてもクルアーンをまとめる際に用いられた手法、手段が確実なものであることを示しています。[142]

一団によって増やされたムスハフは、一定の中心地に送られました。[143]このクルアーン

142. Prof. Dr. M. M. el-A‘zami, *Kur’an Tarihi,* s. 131-135.
143. このクルアーンのムスハフの中で、もしくはこの一部の中で、今日まで伝わっているものがある。例えば、タシュケント、イスタンブールトプカプ宮殿及びイスタンブール・トルコ・イスラーム作品博物館での版は、聖ウスマーンが作成させた、もしくはそれらから複写されたものである。(Zâhid el-Kevserî, *Makâlât,* s. 12-13; Salâhaddin el-Müneccid, *Dirâsât fî târîhi’l-hattı’l-Arabî,* p. 50-55) 聖ウスマーンのものである、皮革の上に刺繍

のムスハフと共に、それを人々に正しく、読み方の規則に従って読ませ、教える学者であるサハーバたちをも派遣しました。こうしてクルアーンは、預言者ムハンマドの口から出たままの形で、一文字一文字、同じ形で他の人々に教えられ、この点において大きな細やかさが示されました。人が自分で、書かれたものからクルアーンを学ぶことを許さず、必ずその書かれたものと共に専門の師の口から学ぶことを求めていました。実際この点で、クルアーンの一文字一文字がどのように読まれるかということを教えるタジュウィードという名の学問分野すら、形成されたのでした。これはただ、一人の教師について練習ことで学ぶことができるものです。この、「クルアーンを正しい読み方をする人から学ぶ」という伝統は、最初の日から現在まで、同じように実行されてきています。

ウバイドゥッラー・ビン・アブドゥラーは、聖ウスマーンの時代に増やされたムスハフのう

が施されたその価値がはかり知れないクルアーンの28ページからなる部分が、オスマン朝の皇帝アブドゥルマジドの孫、そしてインドのハイデラバード・ニザームのベレケット・シャーによってコンヤ・メヴラーナ博物館に寄贈されている。メヴラーナ博物館館長エルドアン・エロールは、聖ウスマーンのものであるクルアーンの部分の一つがトプカプ宮殿で展示されていること、聖遺品とされていること、残りの部分はロシアやインドにあることが知られていることを語っている。(www.Haber7.com, [27 Kasım 2006, 10:14]) 他の例については参照： Prof. Dr. M. Hamidullah, *Kur'ân-ı Kerîm Tarihi,* s. 87; A'zami, *a.g.e,* s. 114, 138, 153-157, 179.

ち、マディーナのムスハフが預言者モスクで保護されたこと、毎朝集団で読まれていたことを語っています。[144]

聖ウスマーンはムスハフを集めること、つまり唯一のムスハフを集めることを完成させると、人々にムスハフを書き記すように命じました。つまり、個人的に使う為に、ムスハフを書写することを奨励しました。[145]なぜならそれ以前には人々はクルアーンの全体を書いてはおらず、ただ一部の章や節を記録していたのみだったからです。啓示が終了し、全ての章句が力強い一団によって表紙の間にまとめられ、何千ものハーフィズ（クルアーンを全て暗唱している人）の証人を得た後で、もはや人々は容易に、完成形としてのクルアーンを複写することができるようになったのです。

事実、聖アーイシャは解放奴隷の**アブー・ユーヌス**に、自分の為のムスハフを書くように求め、彼もそれを書いています。（ムスリム， メサージド 207；アブー・ダーウード、 サラート 5/410、ムヴァッタ、サラートゥル・ジャマァ 25）

聖ウマルの解放奴隷である**アムル・ビン・ラフィー**も、預言者ムハンマドの妻たちが生きていた時代に、ムスハフを書きました。さらに

144. İbn-i Şebbe, Târîhu'l-Medîne, s. 7; İbn-i Kuteybe, Tevîlü müşkili'l-Kur'ân, s. 51.
145. İbn-i Şebbe, 同著 p . 1002.

ハフサのためにも、一冊のムスハフを書いています。(Muvatta’, Salâtü’l-Cemâa, 26; Heysemî, VI, 320; VII, 154)

クルアーンが最も小さな過ちからも守られるよう、その他の予防策も取られていました。ハッジャージュは、アーシム・ビン・アル-ジャフダリ、ナジイェ・ビン・ルムフ、アリ・ビン・アスマを、人々が読み、複製を作っている個人ムスハフを調べ、そこに過ちがある者を破るよう、任命しました。彼らは同時に、このようなムスハフの持ち主に、不注意さのために60ディルヘムの罰金刑を与えました。[146]

この種の公的な一団は常に存在していました。例えば、トルコでは「ムスハフ及び宗教的作品の調査団」という名の、科学的、公的な組織が存在していました。その主な任務は、クルアーンでの書き間違いの出現を許さないことでした。この為、あらゆる世紀で何千ものハーフズが暗記し、何百万もの印刷された、書かれたムスハフが存在しているクルアーンが、仮に一文字であろうと変えられている可能性はないのです。一部のムスハフに印刷上のミスがあったとしても、それは即座に改善されていることに疑いの余地はないのです。[147]

146. İbn-i Kuteybe, 同著 p . 51.
147. もう一つの点が以下のようなものである。クルアーン固有の字体、書体が存在する。この字体を「オスマー

イスラームでは伝統的に、クルアーンの師となる為には、きちんと育成された師もしくは複数の師のもとで証書を得ることが必要でした。この手段により、学び手がクルアーンを必要な形で学べたかどうか、また手にしているクルアーンのムスハフが正当で、価値のある者かどうかを確認していました。このやり方は現在まで実践されています。クルアーンを学んだあと、師は弟子に証書を与えます。ここには彼自身の師やその師の名が系譜の形で、預言者ムハンマドに至るまで、記されていました。そしてその弟子も、師によって教わった形でクルアーンを完全に、真正な形で学んだことが評価されました。[148]

ニ体」もしくは「イスティラーヒ体」と呼ぶ。多くの学者の見解によれば、この字体は預言者ムハンマドの教えや示唆に基づくものである。いくつかの語が法則に基づかない形で書かれていることは神意に基づくものである。一つの点に、細やかな意図があるのである。（ここで、アラビア語の文法の規則が後にクルアーンから抽出され、明らかにされたことも忘れるべきではない）さらにはこの分野で、クルアーンの文体についての学問」という学術分野すら形成されている。この学問も、クルアーンの読誦に関する分野と同様、イスラームに特有のクルアーンに関する学問の一つである。この学問を通して、ムスハフに特有の字体とそれと比較される文体との間にどのような相違点があるのか、そしてその相違点の神意が示されている。この学問の対象はウスマーンが書かせたムスハフの文字である。この学問の意図や効果は非常に崇高なものであり、教えること、学ぶことはファルド・キファーヤである。(Ömer Nasûhi Bilmen, Büyük Tefsir Tarihi, İstanbul 1973, I, 27)

148. Prof. Dr. M. Hamidullah, Kur'ân-ı Kerîm Tarihi, p. 87, 53-56.

このようにクルアーンは、書かれ、読まれると共に、師のそばで口から口へと学ばれ、暗唱されるという形で今日まで最も強固な手段で保護されてきたのです。[149]つまりクルアーンの保護の為に、書くこと、暗記することに加えて三つめの手段が実施されてきたのです。十分に訓練を積み、証書を得ている師の元で学ぶ、ということです。

3. サハーバたちのクルアーンを学び、教える活動

ムスリムは歴史を通して、クルアーンの教育に大きな重要性をおいてきました。なぜなら預言者ムハンマドは、人々が一堂に会してクルアーンを学び、理解することを奨励されていたからです。[150]

預言者ムハンマドは、クルアーンをよく知る者に、あらゆる場所で価値をおき、その人たちを常に優先しました。イマーム、

149. この点でイスラーム学者が使った手法、メソッドがいかに確実なものであったかを知る為には、下記の作品が参考になり得る。**Prof. Dr. M. M. el-A'zami,** *The History of the Qur'anic Text from Revelation to Compilation: A Comparative Study with the Old and New Testaments,* Leicester: UK Islamic Academy, 2003 (*Kur'an Tarihi: Eski ve Yeni Ahit ile Karşılaştırmalı bir Araştırma,* İstanbul 2006); **Prof. Dr. M. Hamidullah,** *Kur'ân-ı Kerîm Tarihi,* İstanbul 2000 (*Le Saint Coran*'ın giriş kısmı).
150. Fâtır, 29; Sâd, 29; Tâhâ, 124-126; Buhârî, Fedâilü'l-Kur'ân, 21; Müslim, Zikir, 38; İbn-i Mâce, Mukaddime, 17.

知事、司令官のような公務に関する支配的な立場の人を任命する際、もしくは殉教者を埋葬する時、誰を前に置くべきかと質問されると、常にクルアーンをよりよく知る人を選択されていました。[151]タブークの戦いに出る時、ナッジャール族の旗をウマーレ・ビン・ハムザに与えられました。その後、ザイド・ビン・サービトを目にされ、旗をウマーレから受け取って彼に与えられました。ウマーレは、

「アッラーの使徒よ、私に立腹されたのですか」と尋ね、預言者ムハンマドは、

「いや、決して怒ったりはしていない。しかしあなた方も、クルアーンを優先しなさい。ザイドはあなたよりも多く、クルアーンを暗唱している。鼻がそがれた黒人奴隷であったとしても、クルアーンをより多く暗唱した人は、他者よりも優先される」と言われました。アウス族、ハズラジュ族にも、その旗をクルアーンをより多く暗唱している人に持たせることを命じられました。(Vâkıdî, III, 1003)

預言者ムハンマドは別れの巡礼の際に、

「人々よ！知識があなた方から取り去られ、消し去られる前に、それから得るべきも

151. Müslim, Mesâcid, 290, Müsâfirîn, 269; Tirmizî, Fedâilü'l-Kur'ân, 2/2876; Nesâî, Cenâiz, 86, 87, 90, 91; Ahmed, IV, 218; Heysemî, VII, 161; İbn-i Hişâm, IV, 185; İbn-i Sa'd, V, 508.

のを得なさい」と言われました。遊牧民が次のように尋ねました。

「アッラーの使徒よ！知識がどのように私たちから取り去られるのですか？私たちの手にはムスハフの版があります。これを全て学びました。妻たち、女性たち、召使にも教えました」（アフマド，V，266；ヘイセミ I，200. ティルミズィー，知識 5/2653）

伝承のこの部分は私たちに、サハーバたちのクルアーンを書き留め、学び、教える努力がどれほどのものであるかを示します。これは、次の言葉でも支えられています。

「サハーバの一人は、家に入ると、妻がすぐにこの二つの問いを投げかけた。1．今日はクルアーンのいくつの節が下されたか。2．アッラーの使徒のハディースをどれほど覚えたか」（Abdülhamîd Keşk，Fî rihâbi't-tefsîr，I，26）

「ひさしの仲間たち」への教師として任命されたウバーダ・ビン・サーミトは人々にクルアーンと文字を教えたことを語っています。彼やその他のサハーバは、外部から来る人々を家で客とし、彼らをもてなし、クルアーンを教えていました。[152]

152. 参照Ebû Dâvûd, Büyû, 36/3416; İbn-i Mâce, Ticârât, 8; Ahmed, V, 315, 324; İbnü'l-Esîr, *Üsdü'l-Ğâbe,* III, 160.

ウバイ・ビン・カアブはマディーナに来る一団に、クルアーンやイスラーム法を教えていました。

預言者ムハンマドは、ハーリド・ビン・ワーリドをある遠征に派遣しました。ハーリドはそこから預言者ムハンマドに送った手紙で、ベニ・ハリス族をイスラームに招いたこと、彼らも戦うことなくイスラームを受け入れたことを知らせた後、次のように書いています。

「私は彼らの中で暮らし、彼らにアッラーが命じられたことを教え、禁じられたことを禁じています。アッラーの使徒からの手紙が来るまでは、彼らにイスラームの基本と預言者のスンナを教えています」(Prof. Dr. Muhammed Hamîdullah, el-Vesâiku'ｓ-siyâsiyye, s. 131)

預言者ムハンマドは、自らを訪問し新しく入信する一団の人々に、マディーナで一定期間滞在し、クルアーンと教えの基本を学ぶこと、自らの実行を見てイスラームを学ぶことを求められました。例えばアブドゥルカイスの一団が来た時、アンサールに彼らを客とすること、もてなしをすることを求められました。その間に必要な宗教的知識を教え、礼拝に必要な章を暗記することを求められました。朝、やってきた時にはその状態や、アンサールの関わりに満足しているかどうかを尋ねられました。彼らも満足していると答えていました。それから預言者ムハンマドは、一

団の人々が教えをより容易に学べるよう、サハーバの家に、一人ずつもしくは二人ずつ、分散させました。この方法はより効果的でした。サハーバの努力と、アブドゥルカイスの人々の学習意欲にこの上なく満足された預言者ムハンマドは、彼らと一人一人関わりを持たれ、彼らが暗記したアッターヒヤートゥの句やファーティハ章、その他の章、そして彼らが学んだスンナを自ら点検されていました。

このように預言者ムハンマドは、ご自身のもとに来る一団に非常に緊密に接しておられました。彼らが戻る時には、ここで学んだことを祖国で教えるよう、求められました。[153]同じ関わりを、単独でやってくる人々にも示されました。実際、ウマイル・ビン・ワフブがマディーナに来てムスリムになった時、預言者ムハンマドはサハーバに、

「あなた方の兄弟に、教えを十分に教えなさい。彼にクルアーンを読み、教えなさい」と命じられています。(イブニ・ヒシャム, II, 306-309; Vワーキディー I, 125-128; ヘイセミ VIII, 284-286)

日夜、継続的にモスクに滞在している「ひさしの仲間たち」は、一方では知識を学び、一方では常に働いて弟子や教師を育成していました。

153. Nesâî, Ezân, 8; Ebû Dâvûd, Ramazan, 9.

預言者ムハンマドやカリフたちは、イスラーム世界の様々な中心地に、非常に多くの学者であるサハーバを教師として派遣しました。彼らは人々に、クルアーンとスンナを教えました。[154]例えばムスアブ・ビン・ウマイルは、マディーナへ教師として派遣された時、人々にイスラームを教え、あらゆる機会にクルアーンを読んでいました。[155]ダマスカスに派遣されたアブー・ダルダは、そこで長い期間暮らし、著名な学びの場を形成しました。その監督下にある生徒の数は1600を超えていました。生徒を10のグループに分け、それぞれに自らが教えた教師のうちの一人を任命し、その進歩を確認していました。この基礎レベルを終えた者は、直接彼から授業を受けていました。このようにして、より先に進んでいる生徒たちは、アブー・ダルダと共に学び、かつ、下のレベルの生徒達に教えるという特別な地位を得ました。[156]同じ方法は他のサハーバによって他の場所でも用いられていました。[157]

聖ウマルは、イェズィト・ビン・アブドゥラーを、中心部から遠い地域で暮らす遊牧民たちにクルアーンを教える為に派遣しました。アブー・スフヤンも、遊牧民の各部族に行き、学

154. Dârimî, *Sünen,* I, 135 (thk. Dahman); İbn-i Sa'd, VI, 3.
155. İbn-i Hişâm, II, 43-46; Ebu Nuaym, *Delâilü'n-nübüvve,* I, 307; Heysemî, VI, 41; Zehebî, *Siyer,* I, 182.
156. Zehebî, Siyeru a'lâmi'n-nübelâ, II, 344-346.
157. Belazuri, *Ensâb,* I, 110; Hâkim, I, 220.

習段階を確認する監督として任命しました。彼はさらに、マディーナで子供たちにクルアーンを教える為、3人のサハーバを任命し、それぞれに月額15ディルヘムの給料を与えていました。大人を含む皆に、容易なものから少なくとも5つの章を教えるよう命じました。[158]

ある時聖アリーは、クーファのモスクから声が上がっているのを聞き、何が起こったのかを尋ねました。

人々は、

「何人かがクルアーンを読んで、学んでいます」と答えました。アリーは

「何と幸福な人々であろうか。彼らは、アッラーの使徒の観点において人々の中で最も愛される存在であった」と言いました。（ヘイセミ、VII, 162）

サハーバを見た世代（タービーン）であるアブー・ナドゥラは次のように語っています。「預言者ムハンマドの友たちが一堂に会した時には、知識（ハディース）を確認し合い、クルアーンの一章を読んでいた」[159]

ムジャーヒドは、イブニ・アビ・レイハが、クルアーンのみで構成されている、人々がそ

158. Prof. Dr. M. M. el-A'zami, Kur'an Tarihi, p. 127.
159. Hatîb el-Bağdâdî, *el-Fakîh ve'l-mütefakkih,* Beyrut 1395, II, 126.

れを読む為に集まる図書館を造ったことを記しています。[160]

イブニ・メスードの次の言葉は、この項目において非常に教訓深いものです。

「ご自身以外に神が存在しないアッラーに誓って言うが、どこで啓示されたのかが明らかでないアッラーからの啓典は一章たりとも存在しない。また、誰について啓示されたのかが明らかではない啓典も一章たりとも存在しない。誰かが私以上にアッラーの啓典をよりよく知っている、と聞けば、ラクダでそこに行くことが可能ですらあれば、私は迷うことなくそこへ向かう」[161]（ブハーリー、フェダーイル・クルアーン、8）

160. İbn-i Sa'd, IV, 253; İbn-i Ebî Dâvûd, Mesâhif, p. 151.
161. ムスリムがクルアーンを最も正しい形で学び、暗記したという点で示した細やかさに似たものが、預言者ムハンマドのハディースの為にも発揮された。これを示すいくつかの例は次のようなものである。
アブー・アイユーブ・アル・アンサーリは、自分が知っているハディースについて不安に陥った。当時、預言者ムハンマドの話を聞いた者のうち、ただウクバ・ビン・アーミルが生存していた。アブー・アイユーブはラクダに乗って、マディーナから出発し、多くの砂漠を超えてエジプトに来た。ウクバと出会った時には、すぐに最初にそのハディースについて尋ねた。ウクバもそのハディースを伝えた。アブー・アイユーブは「わかりました」と言い、すぐにラクダに乗って戻って行った。(Hâkim, Mârifetü ulûmi'l-Hadîs, s. 7-8; İbn-i Abdi'l-Berr, İlim, p. 123)
　ジャービル・ビン・アブドゥラーはアブドゥラー・ビン・ウナイスにたった一つのハディースについて尋ねる為にちょうど一か月歩いて行った。ある時にはマディーナからダマスカスへ、別の時にはエジプト

次の点も重要です。サハーバは、クルアーンの教育を大きな誉れを持って実行していました。アブドゥラー・ビン・メスードは、ある人にクルアーンの一節を読ませ（教え）、

「この節は、その上に太陽が昇る全てのもの、あるいは地上にある全てのものよりもなお尊い」と言いました。そしてクルアーンのあらゆる節についてこれを繰り返しました。（ヘイセミ VII, 166）

へ行った。(参照：. Buhârî, İlim, 19; Hâkim, *Mârifet,* s. 8-9; İbn-i Abdi'l-Berr, *İlim,* s. 127)

タービーンの有力者の一人アブル・アーリエは次のように語っている。「私たちはバサラにいる時、アッラーの使徒のサハーバから来たいくつかの伝承を聞いていた。私たちの心はそれに満足しなかった。すぐに家畜に乗り、マディーナに行き、ハディースをサハーバ自身から聞いた」 (Dârimî, Mukaddime, 47/570; Hatib el-Bağdadî, *el-Kifâye fî ilmi'r-rivâye,* Beyrut 1988, s, 402-403)

サイド・ビン・ムサイヤブは次のように語っている。「たった一つのハディースを学ぶために、日夜長い旅をしていた」 (İbn-i Kesîr, *el-Bidâye,* IX, 106)

ウマル・ビン・アブドゥルアジズは、マディーナの知事アブー・バクル・ビン・ハムザに次のように書いている。「アッラーの使徒のハディースを全て書いてください。私は知識が失われること、学者たちが去ることを恐れている。アッラーの使徒のハディース以外のものは認めてはいけない。学者たちは学問を広め、その為に（人々に開かれた場で）輪を作るように。知らない者もそこから学ぶことができるように。なぜなら知識は、秘められなければ、なくならない」(Buhârî, İlim, 34)

4. クルアーンが奇蹟であること

アッラーはしもべたちを導きへと至らせる為に、彼らに知性、意志、思考能力と言ったいくつかの優れた特性を与えられました。これに加え、彼らの中で特別な、生まれながらに誠実な人々を預言者として任命されました。預言者たちはその訴えが正しいこと、言葉が正しいことを証明する為に奇蹟を示しました。それぞれの預言者が、その時代のニーズに応じて多くの奇蹟を示しました。預言者イーサーの時代に最も認められていた学問は医学であり、最も尊敬される人とは医師でした。その為イーサーに、医者をも無力な存在とするような奇蹟が与えられました。目が見えない人を見えるようにすること、死者を蘇らせることなのです。預言者ムーサーの時代には、魔術が進んでおり、彼にも魔術師を黙らせるような奇蹟が与えられました。預言者ムハンマドの時代には、雄弁さ、言葉遣い、文学が非常に注目されていました。この為に彼に、クルアーンの奇蹟が与えられたのでした。[162]

人を他の被造物から区別する主な特徴は知性と言葉であり、最後の、最も完成された書物であるクルアーンの奇蹟性も、より知的な面、雄弁さの面で抜きんでています。預言

162. 蜘蛛章第50-51節; Buhârî, İ'tisam 1, Fedâilü'l-Kur'ân 1; Müslim, Îmân, 279.

者ムハンマドには、最後の審判の日まで続くクルアーンの奇蹟と並び、他の預言者たちと同様、時代や土地に結びつく多くの奇蹟があります。この奇跡に関しては何冊もの書物が書かれています。[163]最後の章でもこの一部について言及しています。

5. 奇蹟的な側面

クルアーンは、その順序、言葉遣い、雄弁さ、人々の心への影響、法を定めるという特性、幽玄界についての言及と言った多くの面で、人々がそれに似た言葉を語ることを不可能としています。[164]

多神教徒たちがクルアーンを信じなかった為、アッラーは彼らに、彼らが望む全ての被造物を助けとして呼び、クルアーンに似ている一冊の書物を、それが成功できなければ10の章、それから1つの章、[165]最後には完全に似ていなくても部分的にクルアーンに似ている言葉を語ってみるよう、求められました。

---

163. 例については参照：Beyhakî, *Delâilü'n-Nübüvve* (7 cild), Beyrut: Daru'l-Kütübi'l-İlmiyye, 1985; Ebû Nuaym el-İsfahânî, *Delâilü'n-Nübüvve* (2 cild), Halep: el-Mektebetü'l-Arabiyye, 1970-1972; Suyûtî, *Olağanüstü Yönleriyle Peygamberimiz: el-Hasaisü'l-Kübra* (3 cild), terc. Naim Erdoğan, İstanbul: İz Yayınları, 2003.
164. Prof. Dr. M. S. R. el-Bûtî, Min ravâi'ı'l-Kur'ân, p. 125.
165. 物語章第49節; 夜の旅章第88節; 山章第34節; フード章第13節; ユーヌス章第37-38節

「もしあなたがたが、わがしもべ（ムハンマド）に下した啓示を疑うならば、それに類する１章〔スーラ〕でも作ってみなさい。もしあなたがたが正しければ、アッラー以外のあなたがたの証人を呼んでみなさい。もしあなたがたが出来ないならば、いや、出来るはずもないのだが、それならば、人間と石を燃料とする地獄の業火を恐れなさい。それは不信心者のために用意されている」（雌牛章第23－24節）

最後の節の、وَلَنْ تَفْعَلُوا「いや、出来るはずもないのだが」という警告は非常に確信を込めて絶対的な形で表現されており、このような判断は、ただその知や力が無限であり、完全で何の不足もないお方、つまりアッラーによってなされることができるのです。実際、アッラー以外の誰も、人間の観点から知ることのできない、つまり明らかでなく、閉ざされている未来についてこれほど絶対的な判断をすること、絶対的な表現を用いることはできないのです。

否定する人々は、彼らの無力さを宣言するこの神の言葉を聞き、この言葉は彼らの中でその位置を占め、彼らの怒りを非常に強めることとなりました。しかし彼らは何もできなかったのでした。この節は彼らの無力さについて自在に言及し、弱さを明白なものとし、彼らの舌をまさに封印したのです。[166]

166. M. S. Râfiʻî, *İʻcâzü'l-Kur'ân,* Beyrut 2003, p. 142.

多神教徒たちはクルアーンの挑戦に対し応えることができず、その代わりにそれを嘘であると言ったり、煽ったり、侮辱したり、中傷したりという形で攻撃するようになりました。「クルアーンに耳を傾けてはなりません。そしてその(読誦)中にしゃべりまくりなさい。そうすればあなたがたは圧倒出来ます。」[167]（フッスィラ章第26節）と言い、どれほど否定したとしても、神の力の前には完全に敗北していることを示していました。この無力さは今日まで続くものです。

a. 雄弁性、言葉遣い、順序

クルアーンは詩でもなければ散文でもありません。逆に、詩や散文の良さを一つに集めた、例のない形を持っています。詩にも旋律にもない美しさがあります。それを何度も読み、聞く時には、単調さを感じることはなく、常に変化し、新たにされる音色に、人の感情はそれぞれが得るべきものを得るのです。[168]

クルアーンは、その言葉が持っているムテダーリフ（同じ意味になる）言葉のうち、導きが最も細やかで、描写力が最も優れ、言

167. Fussılet, 26.
168. Prof. Dr. M. A. Drâz, en-Nebeü'l-Azîm, Dâru'l-kalem, ts., p . 102.

葉の明確さが最も強いものを選びます。[169]イブニ・アティイェは次のように語っています。

「クルアーンは素晴らしい書物であり、そこから一つの言葉が取り出され、それから全てのアラブ人が奮闘したとしても、それ以上に最適な言葉を見つけることは不可能である」[170]

クルアーンは、既存の各種文学から異なり、どれ独自の様式を持っていると同時に、この各種の文学を最も完全な形で内包しています。物語、忠言、歴史、法、論争、議論、来世、天国、地獄といった項目、恐れを与える、もしくは吉報を伝える節、意味の強さによりそれぞれの形式の一体性の中で雄弁さ、言葉の明確さを最も高いレベルで維持し、表現します。

クルアーンは人々の心に影響を与えます。人々がクルアーンを聞くことを妨げようとする冷酷な多神教徒のうち、アブー・スフヤン、アブー・ジャフル、及びアフナス・ビン・シャリクはお互いのことを知らないままこっそりと、家で礼拝中にクルアーンを読む預言者ムハンマドを聞きに来ていました。互いに偶然出会い、お互いをけなしていました。この出来事は３晩続き、ついには互いに、

169. Bûtî, Ravâi', p. 140.
170. İbn-i Atiyye, *el-Muharraru'l-vecîz fî tefsiri'l-Kitâbi'l-Azîz,* Beyrut 1413, I, 52.

「誰にも気づかれないようにしよう。人々が私たちのこの状態を知れば、この上なく恥をかくことになる。今後誰にも、この点について私たちの言うことを効かせられなくなる」と言い、行ったことを批判し、二度とこのようなことをしないと契約を結んだのでした。[171]

ある遊牧民は、アッラーの、

فَاصْدَعْ بِمَا تُؤْمَرُ وَاَعْرِضْ عَنِ الْمُشْرِكِينَ

「だからあなたが命じられたことを宣揚しなさい。そして多神教徒から遠ざかれ」[172]（アル・ヒジュル章第９４節）という節を、ある人が読むのを聞き、すぐにサジュダを行いました。この行動の理由を問われると、

「ひとえに、その言葉使い故にサジュダを行ったのだ」と言いました。[173]

この節で彼に影響を与えた点は、「アッラーの通知を最も完全な形で説き明かし、正邪を明白に区別し、それをわかりやすく表現し、その道において勇敢に振る舞うという意味を含む「ファスダ」という言葉と、[174]これほどに短いのにも関わらず、多くの意味を含

171. İbn-i Hişâm, I, 337-338; Taberî, *Târih,* II, 218-219, İbn-i Esîr, *Kâmil,* II, 63-64, İbn-i Seyyid, I, 99; Zehebî, *Târîhu'l-İslâm,* s. 160-161; İbn-i Kesîr, *el-Bidâye,* III, 47; Halebî, I, 462.
172. アル・ヒジュル章第94節.
173. Ahmed Cevdet Paşa, *Kısas-ı Enbiyâ,* İstanbul 1976, I, 82.
174. Zemahşerî, *Esâsü'l-belâğa,* Dâru'l-Fikr, 1409/1989, p. 351, "صدع" maddesi.

む「ビーマ　トゥメル」（あなたに命じられた、言われた全てのこと）という語でした。

また別の遊牧民は、

فَلَمَّا اسْتَيْئَسُوا مِنْهُ خَلَصُوا نَجِيًّا

「そこでかれらは、かれ（の引き取り）に望みがないことを知り、密に協議した」[175]（ユースフ章第80節）という章句を聞きました。そして、

「誓って言うがしもべがこのような言葉を語るだけの力は持たない」と言い、驚嘆と感嘆を明らかにしました。[176]

当時の遊牧民は、雄弁さや言葉遣いの点では頂点に位置した人々であったのです。

クルアーンは同時に、様々な時代、場所で生き、知識的なレベルが非常に異なっているあらゆる人々に、そのレベルに応じた呼びかけを行います。異なる認識を可能とする一つの節を、最初の世代はどの状況に応じて、その後の世代も彼ら自身の状況に応じて、その後の世代も彼らが到達した知識のレベルに応じて、理解します。この点について偉大なアラブ人の文学者ムスタファ・サードゥク・アッ・ラーフィは次のように語っています。

175. ユースフ章第80節
176. İbn-i Aşûr, I, 107; Ahmed Cevdet Paşa, Kısas-ı Enbiyâ, I, 82.

「クルアーンの奇蹟の一つは、いつでも、知られていないいくつかの真実を、常に知られている言葉の中に隠していること、それらを、その時がくれば明らかにして示すことである」(Vahyü' l-Kalem, Kuveyt ts., II, 66)

b. 幽玄界について知らせをもたらすこと

クルアーンは、知られざることについて知らせをもたらします。これらの知らせも、それが明白な奇蹟であることを示します。過去の歴史的な出来事から、将来起こるであろう事柄まで、多くの知識的、科学的な問題に触れるなら、この1400年来、どの発見もそれを否定していないのです。しかし、現代においてすら世界でもっとも有名な百科事典は、時々追加の巻を出し、自らを修正し、新たにする必要に迫られているのです。

当時、アードとサムードの民の滅亡、ノアの方舟について一部の情報の断片が、ただ伝説という形で存在していました。しかしクルアーンは、これらを今日の歴史の知識や歴史思想が認めているような形で、人々に示しているのです。クルアーンは未来に関しても知らせをもたらしています。そのうちのいくつかを紹介しましょう。

ローマ人と拝火教徒の間に戦争が起こり、拝火教徒が勝利しました。これを利用しようとした多神教徒はムスリムに、

「神の啓典のおかげであなた方が優れていると思っていたのだろう。拝火教徒は啓典の民であるローマ人に勝利を収めたのだ」と言い、彼らの信仰や忍耐を傷つけようとしました。それに対しアッラーは、多神教徒に悲しみを、信者に喜びを与える次の啓示を下されました。

「アリフ・ラーム・ミーム。ビザンチンの民は打ち負かされた。近接する地において（打ち負かされた）。だがかれらは、（この）敗北の後直ぐに勝つであろう。数年の中に（勝利を得よう）。前の場合も後の場合も、凡てはアッラーに属する。その日、ムスリムたちは喜ぶであろう。アッラーの勝利を（喜ぶであろう）。かれは御望みの者を助けられる。かれは偉力ならびなく慈悲深き御方であられる」（ビザンチン章第1－5節）

当時、ローマ人たちは非常に弱体化しており、誰もその敗北の後で再び勝利するとは考えていませんでした。しかしクルアーンは、強調と共に次のように語っています。

「（これは）アッラーの約束である。アッラーはその約束を違えられない。だが人びとの多くは理解しない」（ビザンチン章第6節）

結果として、崇高なアッラーは約束を守られました。歴史家たちの一致した意見によると、9年よりも短い時間の後に、ローマ人はペルシア人に勝利したのです。その日ムスリムたちもベディルの遠征で多神教徒に勝利し、喜んだのでした。[177]

紅海の渦の中でおぼれようとしている時に、他に手段がないとして信仰の輪につかまろうとしたフィルアウンにアッラーは、

「（するとかれに仰せられよう。）「何と、今（信仰するのか）。ちょっと前まであなたは反抗していた。結局あなたは犯罪者の仲間であった。だが今日は、われは後の者への印とするため、あなたの体を救うであろう。だが人びとの多くはわが印を疎かにする。」（ユーヌス章第91－92節）

近年行われた研究により、フィルアウンの死体は発見されています。現在この死体は、サジュダをした状態で、髪や皮膚も残ったままで、ロンドンの大英博物館の第94室で展示されています。

ベディルの戦いで敵軍を敗北させること、[178]ムスリムがハラームモスクに安全に入ることができるようになること、ムスリムが勝利してマッカを征服すること、[179]人々が集

177. 参照 Tirmizî, Tefsîr, 30/3191-3194; Ahmed, I, 276; Kurtubî, XIV, 3.
178. 月章第45節
179. 勝利章第16, 27節

団でイスラームに入ること、[180]イスラームの教えがその他の全ての教えよりも勝るようになること、[181]クルアーンと競うことはできないということ、[182]クルアーンの言葉が保護されること[183]といった多くの出来事を前もって知らせていることも、クルアーンの未来についての知らせの一部です。預言者ムハンマドが、ご自身にとって知らないことの範疇に入るこの種の知らせを、啓示によることなく前もって知らせることは不可能なのです。

c. 学問の発展の為に光を灯すこと

クルアーンにおいて、学問の発展、発見に光を灯す多くの節が存在しています。これらも、クルアーンが奇蹟的な形で将来について知らせをもたらした例なのです。クルアーンの本来の目的はタウヒードを人々の心に定着させ、人々の導きの為の道しるべとなることです。実際、言及している全ての項目は、この本来の目的への導入となっています。同時に、自然科学の範疇に入る項目において、人々への忠言として与えている知識も、完全

180. 人々章第2節
181. 悔悟章第33節; 勝利章第28節; 戦列章第9節
182. 雌牛章第23-24.
183. アル・ヒジュル章第10節　例については参照：Yûsuf el-Hâc Ahmed, Mevsûatü'l-i'câzi'l-ilmî fi'l-Kur'âni'l-Kerîm ve's-sünneti'l-mutahhara, Dımeşk, 2003, p. 20-24.

に真実に適ったものです。そのうちのいくつかの例をあげましょう。

人の生殖と胎児の形成についてクルアーンは近代科学が最近になって発見できたいくつかのオリジナルの事実を示しています。これらは特に、巡礼章の第5節、そして信者たち章の第11－13節で詳細に語られています。キース・L・ムーア教授は、胎児の分野において書いた作品で、人の胎内でのプロセスを説き明かした後、この知識をクルアーンの言葉と対比し、科学がクルアーンと合致していること、さらにはクルアーンがその与えている例や描写において、医学知識よりも進んでいることを明らかにしています。研究の結果キースは、クルアーンと預言者ムハンマドについて大きな驚嘆を抱き、クルアーンの1400年前のこの奇蹟を、大きな信頼と共に評価しています。クルアーンから学んだ知識を、「我々が生まれる前に」という名の書物の第2版に加えています。

「これらの知識がクルアーンに存在するということについて、どのように説明されますか」と質問されると、

「クルアーンは、アッラーによって下された啓示以外の何ものでもありません」と答えています。(Gary Miller, The Amazing Qur'an, s. 34-39)

近年、宇宙が膨張していること、銀河が互いからものすごい速度で遠ざかっていること

とが発見されました。最初から最後まで、宇宙がある無限の力の技の中にあることを示すこの法則によれば、巨大な銀河はその間の距離に比例する形で、互いから遠ざかっています。例えば、私たちから1000万年光年離れたところにある銀河は、秒速250キロの速さで遠ざかり、100億光年の距離にある銀河の速度は秒速25万キロになります。[184]このことについてクルアーンは次のように示しています。

「われは偉力をもって天を打ち建て、果しない広がりにした」（撒き散らす者章第47節）

崇高なるアッラーは、天でその寿命が尽き、爆発した星のかけらである隕石から地球を守っておられます。木星と、その大きな引力によって土星は、地球の為に危険となり得る多くの物質を通過させない、番人のようです。時にこの二つの惑星を超えて地球に近づいてくる隕石があります。その場合、それらに対する別のガードである月が登場します。大気がないために月に落ちる隕石は全て、その表面に衝突します。この衝突により、月で生じたクレーターは、小さな望遠鏡でも見ることができます。月の妨げをも超えた隕石は、もしとても大きなものでなければ、大気圏に突入した時に燃え始めます。私たちが「流れ星」と呼んでいるこの現象の結果、隕石が地表に到達する前に中間圏で最も小さな微

184. Prof. Dr. Osman Çakmak, *Bir Çekirdekti Kâinat,* p. 28.

粒子となって散ってしまいます。それからこの微粒子のそれぞれは、雨の粒の核となります。[185]大気は地球を、宇宙からもたらされる有害な熱からも守ります。クルアーンはこの真実を次のように示しています。

「更にわれは、天を屋根とし守護した。それでもかれらは、これらの印から背き去る」（預言者章第32節）

このようにクルアーンは、一方で人々の行為、態度を改善し、また一方では宇宙の神秘に注意をひき、それを書物のように読むこと、そこにある神秘を研究し、明らかにすることを求めているのです。

クルアーンでは14世紀前に次のように語られています。

「またわれは豊沃にする風を送り、天から雨を降らせて、それをあなたがたに飲ませる」（アル・ヒジュル章第22節）

この章句が下された何世紀も後に、風が植物と雲を接種させることが発見されています。

慈悲あまねくお方章第19節及び20節では、

「かれは２つの海を一緒に合流させられる。（だが）両者の間には、（アッラーの配慮によって）障壁があり一方が他方を制圧することはな

185.　Çakmak　同著　p. 94, 127.

い」とされています。識別章第53節と、蟻章第61節でも、同様の表現があります。

これらの節で告げられている真実は、私たちの世紀になって理解された、クルアーンの奇蹟です。最新の発見により、地中海と大西洋が出会っているジブラルタル海峡で、あたかも水が互いに混じり合うことを防ぐ未知のしかけ、目に見えない覆いがあることが確認されています。これによって二つの海の水は互いに混じらず、それぞれが本来の性質を維持しているのです。キャプテン・クストーはその後、海どうしが出会っている場所の全てで、同じ水の覆いが存在することを確認しています。

A・ブラウンは、海に関するこの、そして類似する章句を比較しました。軟水と硬水の双方から、真珠や珊瑚ができること、二つの海が互いに混ざっていないこと、帆のある船が風で進むことなどを描写している章句について熟考したこのイギリス人は、インド沿岸の町の一つに至った時、そこに住むムスリムに、

「あなた方の預言者ムハンマドは、海を旅したことがありますか」と尋ねました。

「いいえ、私たちが知っている限りでは、彼は海を旅したことはありません」と彼は応えました。この答えを得てこのイギリス人の航海士は、クルアーンが啓示以外の手

段で預言者ムハンマドにもたらされたことはあり得ないとの結論に達しました。クルアーンにおけるタウヒードや法に関する章句について熟考し、律法や新約聖書の言葉よりもより正しく、意味深いものだと見なし、自らムスリムとなりました。その後、エジプトに行き、学者たちに会いました。[186]

数学の教授であるガリー・ミラーは次のように語っています。

「預言者ムハンマドが預言者となる以前、原子について知られた一つの理論があった。この理論はギリシアの哲学者デモクリトスによって示されたものであった。この哲学者の後に続く者たちも物質が、目に見えない小さな、分割することのできない、原子と名付けられる存在によって構成されていることを示していた。現代、新しい科学が、物質の最も小さな部分である微粒子が、それが属する物質と同じ特性を持つこと、同じ形で分けられ、分割させられることを発見している。この知識は、過去の世紀における発展の結果、手に入れられた新しい真実といえる。しかし非常に興味深いことは、この知識がクルアーンで14世紀前にアッラーが次のような形で告げておられるということである。

『天地の微塵の重さも、あなたの主から免れられない。またそれよりも小さいものでも、大き

186. Reşit Rızâ, Tefsîru'l-Kur'âni'l-Hakîm, XI, 341-342.

いものでも（凡て）はっきりと書物の中に（記されて）ないものはないのである』（ユーヌス章第61節）

この節では、原子よりもなお小さな存在について言及されている。何の疑いもなく、このようなことは当時、どの著作家によっても、どのアラブ人によっても書くことはできなかった。なぜなら当時、一番小さなものと知られていたものは原子であったからだ。之もクルアーンが、実際に時に超越されることがないことの証拠を形成している」[187] (Defne Bayrak, Neden Müslüman Oldular?, p. 144-145)

d. 奇跡的な法令

クルアーンの奇蹟的な側面の一つが、法を定めるという分野での比類のない完全さと崇高さです。クルアーンにおける法を定めるという点での奇蹟は、含んでいる規定があら

187. クルアーンと学術に関する詳細については参照：**Dr. Maurice Bucaille,** *La Bible le Coran et la science: les ecritures saintes examinees a la lumiere des connaissances modernes,* Paris: Seghers, 1980 (*The Bible, the Qur'an and science,* 訳. Alastair D. Pannell, Karaçi, t.y.); **Afzalurrahman**, *Quranic Sciences*, London 1981; **Prof. Dr. Ömer Çelik,** *Tek Kaynak İki Irmak: Kur'ân'dan Teknolojik Yansımalar,* İstanbul 2009; **Osman Nûri Topbaş,** *Rahmet Esintileri* (Genişletilmiş yeni baskı), İstanbul 2008; İmaduddin Halil, "The Qur'an and Modern Science: Observations on Methodology", *The American Journal of Islamic Social Sciences*, 1991, Vol. 8, No. 1, s. 1-13; **Prof. Dr. Vahidüddin Han,** *İslâm Meydan Okuyor,* İstanbul 1996.

ゆる時代のニーズに応えること、良心を持つ人によって批判される不足点を含まないこと、他の法によって解決が困難である問題が容易に解消されていること、それが設けている法規が大きな英知を含んでいること、この壮大な法令が他のものに比べると非常に短期間で頂点に達していることといった点において示されています。

知識、文明、文化から何も得ていない民族の中で、文盲で読み書きのできない、法学教育を受けてもいない一人の預言者を通して、突然完全な法令が出現したのです。この法令は、民法、個人に関する法、国家間の法、戦争や平和の規定等を、最も素晴らしく強固な形で示しています。クルアーンは最後の審判の日まで訪れる全ての世紀を対象とした、このような法システムをもたらすと同時に、この法を非常に短期間で形成したのです。解釈学者カーシミーは、クルアーンのこの奇跡的な側面について次のように表現しています。

「アッラーはアラブ人のウンマを、段階的に23年かけて躾けられ、育てられた。この段階での発展は、通常の条件において他の集団では、社会学者たちを媒介として数世紀でようやく実行され得る」(Mehâsinü’ t-Te’ vîl, Kahire ts., II, 219)

ここまで言及してきた点は、クルアーンの奇蹟的な側面のごくわずかにすぎないのです。

6. 西洋人のクルアーンに関する感情

多くの人が、イスラームに入る前にそのウンマと共にクルアーンを読むこと、もしくは聞くことによって影響を受けるプロセスに入っているのを目にします。ムスリムになってから、ケリーマという名をもらった西洋の学者は次のように語っています。

「クルアーンは、それをもたらした預言者ムハンマドをも導き、時には彼に警告を与えている。預言者ムハンマドが自らクルアーンを書いたとすれば、そのようなことは起こっただろうか」[188]

数学教授であるガリー・ミラーはある時ムスリムをキリスト教に招いている時に、彼らに対し優位に立ち、過ちを見出す為に、クルアーンを読みたくなりました。14世紀前に書かれ、砂漠やそのようなものに言及している、古い書物であると予想していました。しかしクルアーンで彼が見出した知識は、彼を驚かせるものでした。さらにこの本で、世界のどの本にも書かれていないことが存在することを発見しました。クルアーンでは、預言

188. A. Arı - Y. Karabulut, Neden Müslüman Oldum, p. 184.

者ムハンマドの身に起こったこと、妻聖ハティージャの、娘たち、息子たちの死と言ったことが書いてあると予想していました。しかしクルアーンにはそのようなこともありませんでした。逆にクルアーンでは、「マリヤム章」という名の、聖マリヤムが誉れを与えられている、また類似するものがキリスト教の新約聖書にも存在しない章がありました。預言者ムハンマドを深く愛していたその妻聖アーイシャもしくは娘ファーティマの名がついた章はありませんでした。さらにクルアーンでは、預言者イーサーの名が25回、預言者ムハンマドの名がたったの４回登場していることを知り、驚きはさらに深まりました。そしてついにムスリムとなったのでした。[189]

アメリカ人のサーリクは、次のような注意をひく表現を用いています。

「クルアーンを読むと、私の生き方の過ちを見ることができる。読んだ時は、それが人間の言葉ではないことを理解する。なぜならどの人も、クルアーンほどに私のことを知ることはできない」[190]

ペンシルバニアのコワルスキーは次のように語っています。

「クルアーンは人の精神を読み取る。何かが気になっていた時には、クルアーンです

189. Defne Bayrak, Neden Müslüman Oldular? p. 138.
190. Böken, 同著I, 157.

ぐにその答えを見出すことができる。多くの人が、クルアーンが人の精神を読み取るという点で私と同意見であると考える」[191]

ダグラス・ウイリアムズは次のように語っています。

「私はクルアーンを読むごとに、大きな安らぎを見出す。時には夜遅くまで起きて、夜の３時までクルアーンを読んでいる。クルアーンにある節の深い意味は、私に大きな安らぎを与え、文化レベルを高める。人生のどの部分でも、このようなレベルで生きたことは思い出せない」[192]

191. Böken, 同著, I, 56.
192. Böken, 同著, II, 16.

第４部

慈悲の預言者
ムハンマド・ムスタファ

１．子供時代、若者時代

預言者ムハンマドは西暦５７１年４月２０日にあたる、ラビー・ウル・アッワル月の第１２日、月曜日の朝の日の出の少し前にマッカでこの世界に誉れを与えられました。その神聖な血統は、聖イスマイルの息子カイザルの血筋のうち最も誉れ高いアドゥナンにまで至ります。[193]預言者ムハンマドはクライシュ族の中で、母方も父方も最も清らなで誉れ高い一家に属していました。

おそらく父のアブドゥラーは、ダマスカスに貿易の為に行き、帰途、マディーナで病気になり、預言者ムハンマドが生まれる２か月前に亡くなりました。預言者ムハンマドは、気候条件がよりよい地域で育ち、より健康でいる為、そしてアラビア語をより的確に話す

193. Buhârî, Menâkıbu'l-Ensâr, 28; İbn-i Hişâm, I, 1-3; İbn-i Sa'd, I, 55-56.

ことができるように、4歳まで乳母のハリーマのそばで育ちました。6歳になった時に母聖アミーナは、召使であるウンム・アイマンをも同行させ、預言者ムハンマドを父アブドゥラーの墓を訪問する為にマディーナへと連れていきました。その帰途にアミーナは病気になり、エブワ村で亡くなりました。彼女は底に埋葬されました。預言者ムハンマドはこの形で、母親をも失い、マッカに戻りました。その後、祖父のもとに引き取られました。しかし8歳の時には、祖父アブドゥルムッタリブも亡くなりました。その後は叔父のアブー・ターリブが引き取り、献身的に彼を庇護したのでした。

預言者ムハンマドの孤児としての子供時代、及び若者時代は、偉大な道徳的清らかさと崇高さのうちに過ぎました。一時期、羊飼いをしていました。後に貿易に従事しました。[194]その誠実さと取引における公正さにより皆に知られていました。そして敬意、尊敬を得て、「アル・アミン」、最も信頼できる人という呼び名を得ていました。

信頼性はあたかも彼の第2の名前のようでした。25歳になった時には、マッカでただ「アル・アミン」の名での身よばれていました。[195]多神教徒たちは自らの仲間ではな

194. Buhârî, İcâre, 2; Ebû Dâvud, Edeb, 17, 82; Hâkim, III, 200.
195. İbn-i Sa‘d, I, 121, 156.

く、「ムハンマドゥル・アミン」と呼んでいた預言者ムハンマドを信頼し、貴重なものは彼に預けていました。カーバ神殿の修復の際、「黒い石」を元の場所に戻すという事柄について意見が衝突した時、皆、預言者ムハンマドの判断に文句を言わずに従い、彼も天才的な解決策によって大きな戦いを防いだのでした。[196]

預言者ムハンマドは、預言者となる前も、その人間性により、一族の中で最も優れ、血統という点で最も誉れ高く、道徳の点から最も素晴らしい人でした。隣人についてこの上なく尊重し、穏やかさや誠実さで最も優れ、人々に悪事を働いたり苦しめたりすることから最も遠いのは彼でした。誰かのことを非難したり、貶めたり、誰かともめたりすることは見られませんでした。[197]

預言者ムハンマドは、２５歳になるとマッカの誉れある女性である聖ハティージャが、その誠実さに驚き、結婚を提案しました。ハティージャは預言者ムハンマドよりも１５歳年上で、子供もいる未亡人でした。預言者ムハンマドは彼女と、人々への模範になるような、この上なく整えられ、安らぎに満ちた家庭を築きました。結婚生活の、若者時代、成熟時代にあたる最初の２４年は、ただハティージャとのみ過ごしました。その後の

196. İbn-i Hişâm, I, 209-214; Abdürrezzâk, V, 319.
197. İbn-i Hişâm, I, 191; İbn-i Sa'd, I, 121.

５年の一部は一人で、残りは未亡人であるサウダと過ごしました。その後の結婚は、完全にイスラームの、人間性の、そして政治的な目的によるものでした。悪い意図を持つ人々が主張しているように、この結婚の理由が性欲であれば、預言者ムハンマドはその生涯の最も若く健康な時代に、自分よりも１５歳年上の、未亡人であり子供もいる女性と共に過ごすことはなかったでしょう。[198]

２．預言者としての時代

ついに40歳になった時、アッラーは、

「読め、創造なされる御方、あなたの主の御名において」[199]（凝血章第1節）という命令により、預言者としての任務を彼に与えられました。預言者ムハンマドは、その呼びかけを初めて行った時期には、サファーの丘の高い岩の上に上り、クライシュ族に呼びかけて、

「クライシュの集団よ！私があなたに、この山のふもともしくはその谷に敵の騎馬が

198. 預言者ムハンマドが複数の女性と結婚したことの英知については参照：Osman Nûri Topbaş, Hazret-i Muhammed Mustafa (s.a.v), I, 130-140 (http://hazretimuhammedmekkedevri.darulerkam.altinoluk.com/); Prof. Dr. Ömer Çelik, Dr. Mustafa Öztürk, Dr. Murat Kaya, *Üsve-i Hasene,* II, 392-405 (www.usveihasene.com); Dr. Murat Kaya, *Ebedî Yol Haritası İSLÂM,* İstanbul 2009, ｐ. 469-481.

199. 凝血章第1-2節

いる、すぐにあなた方を攻撃し、財産を奪うだろうと言えば、私を信じますか」と尋ねました。皆、考えることもなく、

「はい、信じます。なぜなら今まであなたは常に正しかったからです。嘘をついたところを見たことがありません」と言いました。

そこで預言者ムハンマドは自らがアッラーによって遣わされた、警告を与える預言者であることを宣言しました。その言葉を信じ、アッラーが望まれる形の人生を送る者が来世ではこの上なく素晴らしい報償を得ること、否定する者は厳しい懲罰を受けること、従ってこの世界にいる間にその永遠の世界の為に十分に備えることが必要であることを興奮のうちに語りました。しかし人々を誤った信条から救うことはとても困難なことでした。[200]

預言者ムハンマドは、その日以来、部族の迫害や妨害にも拘らず、真実へと招くことを一瞬たりとも断念しませんでした。家々をまわり、巡礼の場や市場を訪問し、あらゆる機会に人々を導きへと招きました。嫌になったり、うんざりしたりすることはなく、最も無慈悲な形で敵対してくる者に対してすら、同じ真実を何度も説きました。人々に、

200. Bkz. Buhârî, Tefsîr, 26/2; Ahmed, I, 159, 111.

「私が行っていることについては、あなた方に何の対価も求めない」[201]と言われ、ただアッラーのご満悦の為に布教を行っていることを告げておられました。頑固な不信心者たちは、彼に奇跡を求め続けていました。アッラーは次のように語られました。

「言ってやるがいい。「主に讃えあれ、わたしは使徒として(遣わされた)一人の人間に過ぎないではないか。」導きがかれらに下された時、人びとの信心を妨げたのは、かれらが、「アッラーは(わたしたちと同じ)一人の人間を、使徒として遣わされたのか。」と言った(こと)に外ならない。言ってやるがいい。「もし地上を悠々と往き来しているのが天使なら、われはきっと一天使を使徒として、天からかれらに遣わしたことであろう。」」(夜の旅章第93－95節)

預言者ムハンマドは、文盲でした。当時の人の多くがそうであったように、読み書きをご存じではなかったのです。従って彼が説かれたことは、本や人々から学んだことを書き留めたものである可能性はないのです。文盲である人が、40歳を過ぎて突然、最も高いレベルで雄弁さや素晴らしい言葉遣いで、驚異的な知識を伝えはじめることは、ただアッラーの啓示によって可能となる者です。これを、当時の敵であった人々は皆知り、受け入

201. サード章第86節

れてもいました。アッラーはクルアーンで、次のように語られています。

「あなたはそれ(が下る)以前は、どんな啓典も読まなかった。またあなたの右手でそれを書き写しもしなかった。そうであったから、虚偽に従う者は疑いを抱いたであろう」(蜘蛛章第48節)

多神教徒は、預言者ムハンマドの道徳を認めており、彼が決して嘘を言わないことを心から信じていました。ただ、不正に手にしたいくつかの世俗的な利益や我欲の喜びを放棄することを望んでいなかったのです。実際預言者ムハンマドはある時、無慈悲な敵であるアブー・ジャフルとその友のところに寄りました。彼らは、

「ムハンマドよ。誓って言うが、私はあなたが嘘をついたとは言っていない。あなたは私たちのそばで常に正しいことを話し、信頼できる人である。私たちはただ、あなたがもたらした言葉を嘘であるとしているのだ」と言いました。(Vâhidî, Esbâbü Nüzûl, s. 219; Tirmizî, Tefsîr, 6/3064)

多神教徒たちは、預言者ムハンマドがダアワを断念するよう、とても努力をしました。預言者ムハンマドが深く愛していた伯父を仲介に入れたりもしていました。預言者ムハンマドを訪ね、彼を皇帝にしたり、彼らの中でお金を集めて一番の金持ちにしたり、最も美しい娘たちと結婚させたり、といった気をひくような提案を行いました。そして「あ

なたが何を望むのであれ、それを行う用意はある」と言いました。預言者ムハンマドは、非常に明白に、はっきりとした形で次のように答えられました。

「私はあなた方から何も求めていません。財産も、資本も、玉座も、長となることも。私のただ一つの望みは、あなた方が偶像崇杯をやめ、唯一であるアッラーのみにイバーダを行うことです」(İbn-i Kesîr, el-Bidâye, III, 99-100)

預言者ムハンマドに何の妥協もさせなれなかった多神教徒たちは、脅迫行為にでるようになりました。ムスリムに対する迫害、拷問は次第に激しくなっていきました。ムスリムの一部は、その時期に、公正さが支配していたエチオピアに移住しました。

3．ボイコットとターイフへの旅

多神教徒たちは、ムスリムや彼らを守るハシム家の一族とのあらゆる取引、婚姻のような文明的行為、そしてすべての人間的なつながりを絶ちました。これを契約書に書き留め、カーバ神殿の壁に掲示しました。このボイコットや禁輸措置は、３年の間その激しさを保ったままで続けられました。ムスリムは飢えと困窮に直面しました。飢えの為に木の皮や葉を食べていました。子供たちの泣き声

がとても遠くから聞こえていました。サアド・ビン・アビ・ワッカスは次のように語っています。

「ボイコットの時期に、ある晩空腹の為外に出た。足が、湿った何かを踏んだ。私はそれをすぐに口に入れた。それが何であったかはいまだに知らない」(Süheylî, er-Ravdu'l-Unuf, Beyrut 2000, III, 216)

結果的にボイコットは終了しましたが、ちょうどその時期に、預言者ムハンマドの叔父アブー・ターリブと妻聖ハティージャが亡くなったのでした。敵の攻撃は恐ろしい段階に達していました。預言者ムハンマドの力に影響を及ぼし始めていました。預言者ムハンマドは、ザイド・ビン・ハーリサを連れ、マッカから160キロの地点にあるターイフの町に行かれました。親戚たちもいるこの町に、10日間滞在されました。彼らは最初はからかい、それから侮辱を始めました。それから、奴隷たちを預言者ムハンマドが通る道の両側に並べ、侮辱しながら投石を行わせました。あちこちが血まみれになったこの慈悲の源である預言者は、直面したこのひどい行いに対しても呪いの言葉をかけることはないばかりか、その任務に不足があることを恐れ、次のように懇願されました。

「アッラーよ！私の力が弱められること、策が尽きること、人々に侮辱され、軽蔑

されることからあなたに庇護を求めます。慈悲深い中でも最も慈悲深いお方よ。もし私に対してお怒りでないのなら、私が直面している苦痛や災難を気に留めることはありません。アッラーよ、あなたは私の民に導きをお与えください。彼らは知らないのです。アッラーよ、あなたが満足してくださるまで、あなたに許しを希います」（イブニ・ヒシャム， II，29-30；ヘイセミ VI，35）

預言者ムハンマドの唯一の目的はアッラーに満足していただくことであり、アッラーが与えられた任務を最も素晴らしい形で実行することでした。この為に、直面した最も重い拷問や苦痛すら、その目には見えない存在となっていたのでした。

預言者ムハンマドは、ターイフからの帰途について次のように語られています。

「私は戻り、深い悲しみの中で歩いていました。カルヌス・サアリブ地区につくまで、自分を取り戻すことができませんでした。そこで頭を上げて周囲を見ると、雲が私に影を作っているのを見ました。注意深く見ると、その雲の中にジブラーイールがいることに気が付きました。私に、

『アッラーは、あなたの民があなたになんと言ったのか、あなたを保護することをどのように拒んだのかを聞いておられる。彼らにあなたが望むことを行う為に、山々の天使

を派遣された』と言いました。そして山々の天使は私に声をかけ、挨拶をしました。それから、

『ムハンマドよ！あなたの部族があなたに何と言ったか、アッラーは聞かれている。私は山々の天使である。あなたが何を命じようと、それを行う為にアッラーがあなたに私を遣わされた。何をすることを望んでいるか。もし望むなら、この二つの山を彼らの上に崩そう』と言いました。そこで私は

『いいえ、私はただ、アッラーが彼らの子孫から、アッラーにイバーダを行い、アッラーに何ものをも配することのない人々を出現させてくださることを望みます』と言いました」（ブハーリー、ベディウルハルク 7；ムスリム、ジハード，111）

当時、マディーナから来た一団の人々が入信しました。彼らはマディーナでイスラームを説き始めました。預言者ムハンマドに、いい教師を求めました。ムスアブ・ビン・ウマイルが任命されました。彼の努力の結果、短期間のうちにイスラームに入信していない家庭がないほどになりました。ついにムスリムは、預言者ムハンマドをマディーナに招き、彼を守ることを約束したのでした。

4. ヒジュラとマディーナ時代

多神教徒の拷問が忍耐できないものとなり、預言者ムハンマドは、サハーバたちにこっそりとヒジュラを行うように言いました。それを学んだ多神教徒たちは、一人になっていた預言者ムハンマドを暗殺しようとしました。それぞれの一族から若者が一人参加して、同時に攻撃する予定になっていました。それにより、預言者ムハンマドの近親者が権利を主張した際に全部族を相手にすることになったのです。その時、アッラーは預言者ムハンマドにも、ヒジュラを行うことを命じられました。預言者ムハンマドは、聖アリーを呼び、預かっているものを持ち主に変える為に、彼を代理人として残しました。なぜならマッカでは、大切な品物を持っていて、その誠実さや信頼性を知っている為に預言者ムハンマドにそれを預けていない人は皆無であったからです。

その夜、多神教徒たちは、家の周囲を取り囲んでいました。しかしアッラーへの信頼と服従が無限である預言者ムハンマドには、何の不安も恐れもあせりも見られませんでした。手のひら一杯の土を取り、多神教徒たちにかけ、ヤー・スィーン章の最初の章を読みながら、彼らの間を通り抜けました。誰も彼を見ることはありませんでした、

このようにして預言者ムハンマドは、マッカでの13年の布教の努力の後、マディーナにヒジュラを行ったのです。マディーナのムスリムであるアンサールと、マッカから移住したムハージルを互いに兄弟として宣告しました。アンサールは、ムハージルの兄弟たちに財産を示し、「これが私の財産だ。半分はあなたのものだ」と言ったのでした。それに対し、その心が満たされた宝庫となっていたムハージルたちは、

「財産があなたにとって神聖なものでありますように。私に市場の場所を示してくれればそれで十分だ」と言えるだけの成熟差を示したのです。（ブハーリー、ブユ、1）

預言者ムハンマドは、当時マディーナで暮らしていたムハージルたち、アンサールたち、そしてユダヤ教徒たちを互いに、そして新しいイスラーム国家に対する責任を定める法律を用意されました。「マディーナ文書」と呼ばれるこの文書は、世界史において初めての、文書にされた憲法です。[202]

多神教徒がムスリムに示したはっきりとした悪意と、隣人のユダヤ教徒がしばしば条約を破って約束を守らなかったことにより、いくつかの戦争が行われました。諸世界の慈悲として遣わされた預言者ムハンマドは軍事

202. Prof. Dr. M. Hamîdullah, The First Written Constitution in the World, Lahore 1975.

作戦でも非常に慈悲深い政策を取り、短期間で全てのアラビア半島を支配下におさめた一方で、どちらにおいてもあまり血が流されることはありませんでした。全ての問題はまず、平和的手段で解決することを選択されたのです。

預言者ムハンマドは、自ら29の戦いに参加されました。そのうちの19においては、実際には戦闘は生じておらず、相手側と条約を結んだのみだったのです。13の戦いにおいては実際の戦闘を行わざるを得ない状態になり、その合計でムスリムは140人が殉死しました。敵側では335人が死亡しています。[203]

イスラームにおける戦いの真の目的は、人を殺すこと、戦利品を獲ること、地上を破壊すること、個人的な利益を得ること、物質的な利益を得ること、もしくは報復することではありません。その逆で、人々を導きに至らせ、あらゆる不正を取り除くことなのです。

203. Bkz. Prof. Dr. M. Hamîdullah, *Hz. Peygamber'in Savaşları,* İstanbul 1991; Dr. Elşad Mahmudov, *Sebep ve Sonuçları İtibâriyle Hazret-i Peygamber'in Savaşları,* 2005, M.Ü.S.B.E.　未出版の博士論文

5. 比類なき道徳の例

慈悲、慈愛

預言者ムハンマドは、全人類の為の無限の慈悲、慈愛に満たされていました。アッラーは次のように語られています。

「今、使徒があなたがたにあなたがたの間から、やって来た。かれは、あなたがたの悩みごとに心を痛め、あなたがたのため、とても心配している。信者に対し優しく、また情深い」（悔悟章第128節）

いかに信者への慈悲がより強いとはいえ、クルアーンは彼が是人類に対し慈悲深いということを証言しています。クルアーンは同時に、そのウンマも、全人類、さらには敵に対しても憐みを抱いていることを説いています。

「それ、あなたがた（ムスリム）はかれらを愛しているが、かれらはあなたがたを愛してはいない。あなたがたはどの啓典も信じる。だがかれらはあなたがたと会うと、「わたしたちは信じる。」と言う。しかしかれらだけの時は、あなたがたに憤激して指先を噛む。言ってやるがいい。「憤死しなさい。アッラーはあなたがたが胸の中に抱くことを知っておられる。」（アリ・イムラーン家章第119節）[204]

204. Muhammed A. Draz, İslâm Hakkında Bazı Görüşler, p . 94.

預言者ムハンマドは、ただ人間だけではなく、動物や植物にも無限の慈悲を持っているお方でした。多神教徒たちが裏切りを行い、条約を破り、もしくは戦争を選択した時、預言者ムハンマドは1万人の大規模な軍と共にマッカに出発しました。アルジュ地区から出発し、タルーブの方に向かう時、その道に子犬たちのそばに寝そべり、彼らに乳を与えている犬がいました。すぐにサハーバのジュアイル・ビン・スラーカーをそばに呼び、その犬のそばで見張りとしました。母犬と子犬たちがイスラーム軍によって恐れを感じることがないよう、注意をさせたのです。

預言者ムハンマドは、ある時アンサールの一人の庭園に寄りました。そこにいたラクダが、預言者ムハンマドを見て泣き始め、その目から涙を流しました。預言者ムハンマドはラクダのそばに行き、耳の後ろを優しくなでました。ラクダは落ち着きました。そこで預言者ムハンマドは、

「このラクダは誰のものか」と尋ねられました。マディーナの若者が近づき、

「このラクダは私のものです、アッラーの使徒よ」と言いました。預言者ムハンマドは、

「あなたに恵まれたこの動物について、アッラーを恐れないのかね？彼はあなたが自分を空腹のままにしていること、非常に疲労

させていることを訴えている」と言われました。(アブー・ダーウード, ジハード 44/2549)

おなかと背中がくっついてしまったようなラクダのそばを通る時も、

「話ができないこの動物たちについて、アッラーを恐れなさい。人間として乗り、人間としてほふり、食べなさい」と命じられました。アブー・ダーウード, ジハード 44/2548)

サワダ•ビン•ラビーは、次のような素晴らしい細やかさと慈悲の例を伝えています。

「預言者ムハンマドのご家族のおそばに行き、あるものを求めました。私に数頭の(3頭から10頭まで)ラクダを与えるよう言われました。それから次のように奨励されました。

「家に戻ったら、家族の人々に言いなさい。動物の世話を十分にし、エサも十分に与えなさい。そして彼らに爪を切るように言いなさい。動物の乳を搾る時に乳房を傷つけ、けがをさせないように」(アフマド III, 484; ヘイセミ V, 168, 259, VIII, 196)

ある時預言者ムハンマドは、羊の乳を搾っている人に会いました。彼に、

「動物の乳を搾る時には、その子の為にも乳を残しなさい」と言われました。(ヘイセミ VIII, 196)

アブー・ダルダはある日、ラクダにあまりにも多くの荷を負わせている人々に出会いました。ラクダはあまりの荷の重さに立ち上がることができずにいました。アブー・ダルダはすぐにラクダの上のあまりにも多い部分をおろし、動物を立たせてから、その持ち主に次のように言いました。

「もしアッラーが、動物たちに対するこのひどい行為ゆえにあなた方が犯した罪を許されるなら、あなたに大きな許しを与えられたことになる。私は預言者ムハンマドがこう語るのを聞いた。

『アッラーは言葉を持たない動物たちに良く振る舞うことを命じられる。肥沃な土地を通過する時は、動物たちがどこで草を食べるのを許しなさい。乾いた土地を通過する時は、そこを急いで通り抜けなさい。このような場所で長い時間滞在して、動物たちに苦しみや害を与えてはいけない』」(İbn-i Hacer, el-Metâlibü'l-Âliye, II, 226/1978)

許されること

預言者ムハンマドは、罰を与える力がある一方で、ご自身に多くの悪事をなした人々を許され、言葉やしぐさで彼らの罪を非難することもありませんでした。なぜなら預言者ムハンマドはムスリムであれ不信心者であ

れ、誰かに悪いことが起こることを求めないお方であるからです。皆に対して、立派な礼儀、徳によって振る舞われました。血を流すことなくマッカを征服した時、21年間あらゆる敵対行為を行てきた人々が、その前で集められ、判決を待っていました。彼らに、

「クライシュの人々よ。今私があなた方についてどうすると考えていますか」と聞かれました。クライシュの人々は、

「私たちはあなたが良いことをすると期待して、『良いことをするだろう』と答えます。あなたは気前の良い善良な兄弟であり、気前の良い善良な甥です」と言いました。それに対し預言者ムハンマドは、

「私は、聖ユースフがその兄弟に言ったように、『今日あなたがたを、(取り立てて)咎めることはありません。アッラーはあなたがたを御赦しになるでしょう。かれは慈悲深き御方の中でも最も優れた慈悲深き御方であられます』[205]と言います。さあ、行きなさい。あなた方はもはや自由です」と言われました。(イブニ・ヒシャム, IV, 32; ワーキルディII, 835; イブニ・サアド, II, 142-143)

そしてその日は、「慈悲の日」と名付けられました。[206]

205. ユースフ章第92節
206. Vâkıdî, III, 352; Ali el-Müttakî, *Kenz,* no: 30173.

その日、ウフドの戦いで叔父のハムザを殺した**ワフシー**と、その内臓にかみついた**ヒンディ**をも許されたのでした。[207]娘の聖ザイナブをラクダから落とすという形でその死の要因となった**ハッバル・ビン・アスワド**すら、この大きな許しから益を得たのでした。預言者ムハンマドは、この上ない細やかさを示され、ハッバールを許すだけではなく、同時に彼を侮辱すること、過去の行いの為に彼を非難することも禁じられました。(Vâkıdî, II, 857-858)

マッカが征服された時、アブー・ジャフルの息子**イクリマ**が逃亡しました。預言者ムハンマドは、彼が以前に行った全ての悪事を脇に寄せ、彼に許しを与え、自分のもとによばれました。その妻が彼を追いかけ、預言者ムハンマドの招きを伝え、彼にマッカに戻るよう、説得しました。マッカに近づいた時、預言者ムハンマドは大きな奇跡と驚くべき細やかさを示され、サハーバに次のように言われました。

「イクリマ・ビン・アブー・ジャフルが、信者かつ移住者としてあなたがたのそばに来る。もはや、彼の父を侮辱してはいけない。どれだけの悪人であったとしても、死者を侮辱することは、生きている近親者を悲しませるだけであり、死者には届かないのだ」(ハーキム, III, 269/5055; ワーキルディ, II, 851)

207. Buhârî, Meğâzî, 23; Müslim, Akdıye, 9.

預言者ムハンマドは、イクリマがやってきたのを目にされ、喜びのあまり立ち上がり、三度、

「ようこそ、騎兵の移住者よ、よく来てくれた」と言われました。イクリマは、

「誓って言いますが、アッラーの使徒よ、イスラームと敵対する為に費やしたものの、少なくとも1倍を、アッラーの道において費やしましょう」と言いました。（ハーキム III, 271/5059；ワーキルディ II, 851-853；ティルミズィー, イスティザン 34/2735）

預言者ムハンマドは彼のようなさらに多くの人々を許されています。

謙虚さ

預言者ムハンマドは、この上なく謙虚な方でした。人々の目において最も強力であると見られたマッカ征服の日、彼の御前に来て、話す際に恐怖のあまり震えている人に、最も力がなかった時代の例を示され、落ち着くようにこう言われたのでした。

「落ち着きなさい、兄弟よ。私は皇帝や支配者ではない。クライシュ族の、日干し肉を食べる女の息子です」（イブニ・マジャ, エティメ, 30；ハーキム III, 50/4366）

人々がご自身について、過度に振る舞うことを許されませんでした。

「私を、『アッラーのしもべ、そして使徒』と呼びなさい」と命じられていました。（ブハーリー、預言者、48）

彼は、預言者であることを認める文章の最初で、特に、そして何度も「アッラーのしもべ」という言葉を加え、ウンマを、過去の民族のように人を神格化するという危険から守りました。また、この言葉に関して、

「あなた方は私を、私の権利である位階よりもなお高めてはいけない。なぜならアッラーは、私を使徒とされるまえにしもべとされたのだ」と言われました。（ヘイセミ、 IX, 21）

サハーバたちが伝えるところによると預言者ムハンマドは、病人を訪問し、葬儀に参加し、しもべたちの招きに応え、ロバに乗られました。動物の背に人を乗せ、食事は床において食べました。粗いウールの服を切られ、座って羊の乳を搾られ、客にも対応され、彼らに奉仕し、もてなしをされました。未亡人、貧困者、行き詰った人などの用事の為に彼と共に歩くことをためらわれることはなく、尊大に振る舞われることもありませんでした。[208]

208. 参照. Tirmizî, Cenâiz, 32/1017; İbn-i Mâce, Zühd, 16; Nesâî, Cuma, 31; Hâkim, I, 129/205; II, 506/3734; IV, 132/7128; Heysemî, IX, 20.

素朴さ

預言者ムハンマドは、この上なく素朴で謙虚な暮らしを送っていました。聖アーイシャは次のように伝えています。「アッラーの使徒に、一杯の飲み物が運ばれてきた。中には牛乳と蜜が入っていた。アッラーの使徒はこう言われた。

『一つの飲み物の中に、二つの恵み、一つのコップの中に二つのもの。私にはこれは必要がない。しかしこれがハラームであるとは考えていない。しかし最後の審判の日、アッラーはこの世界での余計なものについて問われることを恐れている。アッラーの為に謙虚さを示しているのだ。誰であれ、アッラーの為に謙虚さを示せば、アッラーはその人を高められる。誰であれ、うぬぼれを抱くのであれば、アッラーはその人を低められる。誰であれ、倹約していれば、アッラーはその人を豊かにされる。誰であれ、死者を何度も思い出すなら、アッラーはその人を愛される』(ヘイセミ X, 325)

シファー・ビンティ・アブドゥラーは次のように語っています。

「ある時、私はアッラーの使徒のおそばにいた。彼に何かを求め、そして自分の状態について苦情を言った。彼は、自分のもとには何もないと言われ、私に謝られた。私は『何もくれなかった』と独り言を言った。その

時、昼の礼拝の時間になった。そこから私の娘の家に行った。婿のシュダフビル・ビン・ハサナが家にいたので、彼に話をした。そして彼に、

『礼拝の時間が来たのに、まだここにいるのか？』と尋ねた。彼は

『おばさん、私に恥をかかせないでください。私には2枚の服があって、1枚をアッラーの使徒にお貸ししているのです』と言った。私は事情を理解して、

『母や父をあなたに捧げましょう。私は、自分が望んだものをくれなかったと言って彼に怒っていた。しかし彼は、何と言う状態であったのか』と言った」（ハーキム IV, 58/6892）

聖アーイシャは次のように語っています。

「アッラーの使徒は決して、朝食から残った食事を夕食に、夕食から残った食事を朝食に取っておかれることはなかった。一つの服を、2枚持っておられることもなかった。2枚のシャツ、2枚の外套、2枚の上着、2足の靴のどれも、なかった。家にいる時は、何もしていないことは決してなかった。貧者の靴を修理していたり、身寄りのない人の服を塗ったりしていた。

清潔さ、親切さ

服を整えることを命じ、身なりのみすぼらしさを良いものと見なされない預言者ムハンマドは、髪やひげが乱れていることもよしとはされませんでした。ご自身はこの上なく清潔で美しい人でした。**アブー・フライラ**は次のように語っています。

「アッラーの使徒よりも美しい人を見たことがない。あたかも、その神聖なお顔で太陽を太陽が流れるようであった」（アフマド, II, 380, 350）

預言者ムハンマドは、人々が使う醜悪で品のない言葉を決して口にされず、次のように言われていました。

「最後の審判の日、信者であるしもべの秤において、良い徳以上に重いものはない。アッラーは醜い侮辱を行い、醜い言葉を口にする人を憎悪される」（ティルミズィー、ビッル 62/2002）

誰かから彼自身に、好まない言葉が至った時には、

「誰それには何があったのか、このようなことを言うとは」とは言われず、「一部の人々には何があったのか、このような言葉を語っているとは」という形で品を示されました。（アブー・ダーウード，アーダーブ，5/4788）

女性に価値を置かれること

預言者ムハンマドの命令により、女性に対する法が定められました。女性は、社会における純潔さと徳の象徴となりました。母という立場が、誉れあるものとされました。預言者ムハンマドの、「天国は（誠実な）母の足の下にある」[209]というハディースにより、女性は本来持っている権利を得ることができました。預言者ムハンマドは生涯を通して、どの女性にも手をあげられたことはなく、誰かを殴られたこともありませんでした。[210]なぜならアッラーは「出来るだけ仲良く、かの女らと暮しなさい。あなたがたが、かの女らを嫌っても（忍耐しなさい）」（婦人章第19節）と命じられていたからです。

気前の良さ

預言者ムハンマドはこの上なく気前の良いお方でした。クライシュ族の多神教徒の有力者であるサフワン・ビン・ウマイヤは、ムスリムではないのにも関わらず、フナインとターイフの遠征で、預言者ムハンマドのそばにいました。ジーラーネで集められた戦利品を見て歩く時、サフワンがそこにある戦利品の一部を驚嘆のうちに来ているのを目にされた預言者ムハンマドは

209. Nesâî, Cihâd, 6; Ahmed bin Hanbel, III, 429; Süyûtî, I, 125.
210. İbn-i Mâce, Nikâh, ٥١.

「かなり気に入ったのですか」と尋ねました。「はい」という答えを得て、

「全てを持って行きなさい、あなたのものにしよう」と言われました。サフワンは驚きを抑えることができず、

「預言者の心以外のどの心も、これほどに気前よく離れない」と言い、信仰告白を行い、ムスリムとなりました。自分の部族に戻った時にも、

「わが民よ！（走って）ムスリムになりなさい。なぜならムハンマドは貧しさや必要性の恐れを感じることなく、大きな施しを行っている」(参照Müslim, Fedâil, 57-58; Ahmed, III, 107-108; Vâkıdî, II, 854-855)

要するに、彼の徳の素晴らしさは説明すればきりがないほどなのです。偉大な学者のイブニ・ハジムは次のように語っています。

「来世の幸福、現世での統治、安らぎのある暮らし、あらゆる道徳的な美点、あらゆる美徳を手に入れたい人は預言者ムハンマドをお手本にするべきだ。なぜならアッラーの使徒は、あらゆる善において常に進んでおられた。アッラーは彼の徳を賞賛され、全ての徳を最も完成された形で彼において集められ、あらゆる不足から彼を清められた。(İbn-i Hazm, el-Ahlâk ve's-Siyer, Kahire, 1962, s. 19-20, 50)

6. その死

預言者ムハンマドはヒジュラ歴11年のラビー・ウル・アッワル月の12日、月曜日、西暦632年の6月8日に亡くなりました。アッラーは彼に、その崇高な誉れにふさわしい形で賞賛を与えてくださいますように。そして私たちをも彼のとりなしにいたらせてくださいますように。アーミーン。

جَزَاكَ اللهُ عَنَّا خَيْرَ مَا جَزَى نَبِيًّا عَنْ أُمَّتِهِ

アッラーは彼を、それ以前にもたらされた啓示を評価すること、それらを歴史を通して受けた変更や穢れから清めること、[211]教えの不十分な部分を完成させること、過去の民族が受けた罰によって負った重い責任を取り除くことの為、そして諸世界の慈悲として、[212]遣わされました。私たちの彼の別れの説教に耳を傾け、彼がこの任務を最良の形で行ったことを証言します。

預言者ムハンマドは移住者としてマディーナに来られてから、わずか10年後には、アッラーのお許しにより、イスラームをアンマンから紅海へ、シリアからイエメンへ、アラビア半島各地を統治するものとされました。

211. 雌牛章第75節, 101節;イムラーン家第81節; 戦列章第6節; 婦人章第46節; 食卓章第13節, 41節.
212. 食卓章第3節; 雌牛章第286節; 高壁章第157節; 預言者章第104節

このようにして歴史上初めて、アラビア半島が統一されました。ラマルティンは「トルコの歴史」という作品で次のように語っています。

「目的の大きさ、その媒介の小ささ、そしてその結果の崇高さが、その人が天才であることの三つの大きな基準であるなら、近代史における最も偉大な人物を、預言者ムハンマドを比較する勇気が誰にあるだろうか」

「思想における、思想家、導師、使者、提示者、努力者、そして克服者、論理的な信条の描写、象徴、彫像がない一つの教え、そして20の世俗的な、一つの精神的な国の創始者預言者ムハンマド。人の偉大さの確認において用いられるあらゆる基準において私たちは問う。彼以上に偉大な人物がいるであろうか。」

7. 彼に対する無限の愛情

サハーバたちは、預言者ムハンマドを自分の命よりも愛していました。彼に呼びかけを行う際には、いつでも「母や父、私の命、全てをあなたに捧げましょう、アッラーの使徒よ！」と言っていました。彼の足にとげが刺さらないように、と自分たちの命を捧げていました。多神教徒の捕虜となったザイド・ビン・デシネとフバイブは、拷問によって殉

教するところでした。魂を召されるわずか前に、それぞれに

「命を助けられる代わりに、あなたの立場に預言者がいることを望むか」と聞かれました。二人とも、この不運な質問をした多神教徒をあわれんで見つめ、

「私の子供たちと共にある時に、預言者ムハンマドがこの立場にいることどころか、今彼がおられる場所で足にとげが刺さることすら、決して私の心は認めません」と答えました。この比類なき愛情の光景を前に、驚嘆のあまり固まってしまったアブー・スフヤンは、

「驚くべきことだ。私はこの世界で、サハーバがムハンマドを愛するほどに、その指導者を愛する集団を決して見たことがない」(ワーキルディI, 360-362)と言ったのでした。

❀

ウフドから戻る時、預言者ムハンマドは馬の上におられ、馬の手綱をサアド・ビン・ムアズがひいていました。サアドの母、カブシャ・ビンティ・ウバイドが預言者ムハンマドの方にやってきました。サアドは、

「アッラーの使徒よ！これは私の母です」と言いました。預言者ムハンマドは

「よく来られた」と言われました。女性は預言者ムハンマドに近づき、その神聖なお顔を見た後、

「母と父をあなたに捧げましょう。アッラーの使徒よ!あなたが健康でおられるのを拝見して、あらゆる災いがもはや無となります。

預言者ムハンマドは、殉死した息子アムル・ビン・ムアズの為に悔みを言われた後、

「サアドの母よ！あなたに吉報を伝えよう。あなたの家人全てにも吉報を伝えよう。あなた方の一族から殉死した人々は全て、天国で一堂に会している。（彼らは12人の殉死者を出しました）家族の為にとりなしを行う許しも与えられました」

女性は、

「私たちは満足しています、アッラーの使徒よ!今後、誰が彼らの為に泣くでしょうか」

と言った後、

「アッラーの使徒よ！殉死者が後に遺した者にも、ドゥアーをしていただければ」と言いました。預言者ムハンマドは、

「アッラーよ！彼らの心の悲しみを取り除き、災いに終焉をもたらしてください。遺された者たちを最良の形でお守りください」とドゥアーをした後、道を進みました。サハ

ーバたちも続いて歩いていました。預言者ムハンマドはサアドに、

「あなたの一族から多くのけが人が出ており、けがも重い。最後の審判の日、彼らは皆、傷から血が流れる状態でやってくるだろう。その血の色は、血の色のままであるが、じゃ香のような香りがするだろう。彼らに、家に戻って傷を治療するように言いなさい。誰も私たちをついてこないように。これを絶対的な命令として伝えなさい」と言われました。サアドは、

「アッラーの使徒の絶対的な命令である。ベニー・クライシュ族のけが人は、私たちと共に来てはいけない」と呼びかけました。負傷者は全て、望むと望まないとに関わらず、戻っていきました。一晩中灯りをともし、けがの治療を行いました。この一族には30人の負傷者がいました。(ワーキルディ I, 315-316;ディヤルベクリI, 444)

✿

それより前に**エチオピア**にヒジュラを行った移住者たちの最後の遠征者は、ハイバルが征服された時、海路によって預言者ムハンマドのそばに来ました。その中にはアスマ・ビンティ・ウマイスもいました。彼女は、ある時預言者ムハンマドの妻ハフサの訪問に行きました。少し後で、聖ウマルも、娘ハフサのもとに来ました。ウマルはエスマを見て、

「こちらは誰ですか」と尋ねました。彼女も、

「エスマ・ビンティ・ウマイスです」と答えました。ウマルは優しく、

「あのエチオピアの人ですか。海路での旅に加わった女性ですか」と尋ねました。得る間は、

「はい」と答えました。そこでウマルは、

「移住において私たちはあなた方を超えた。アッラーの許しにより、預言者ムハンマドに近しくなる権利を、あなた方よりも私たちは持っています」と言いました。エスマはこの言葉に非常に腹をたて。

「いいえ。あなたは間違っています、ウマルよ。あなた方はアッラーの使徒と共にいました。彼はあなた方の中で空腹である人に食べさせ、無知である者には教えておられました。私たちはエチオピアで、遠くで、異民族の無信心者の中で困難な条件のもと暮らしていました。これもアッラーとその使徒の為でした。アッラーに誓って言いますがあなたが言ったことをアッラーの使徒に伝えるまでは、何も食べないし何も飲みません。私たちはあちらで迫害を受け、恐ろしい思いをさせられてきました。これを預言者ムハンマドに話し、このことの真実を訪ねましょう。誓って私は嘘はつかないし、誤った道にすべるこ

ともないし、話の内容に何かを付け加えることもありません。この物事が起こった通り、そのままを伝えます」と言いました。預言者ムハンマドが来られるとエスマは、

「アッラーの使徒よ！ウマルがこのように話しました」と訴えました。預言者ムハンマドは、

「あなたは彼に何と言ったのですか」と言われました。彼女は、

「これこれと話しました」と言いました。預言者ムハンマドは、

「彼は、私の視点において、あなた方以上に権利の持ち主ではありません。彼やその友には一回の聖戦が、あなた方、船の旅人には、2回の聖戦があるのです」と言われました。

聖エスマは次のように語っています。「エチオピアから船で一緒にやってきたアブー・ムーサー・アル - アシュアリやその他のサハーバたちが続々とやってきて、私にこのハディースを訪ねていました。この世界で彼らを、預言者ムハンマドのこの言葉以上に喜ばせる者、そして彼らの心にとってこれ以上に大きなものはありませんでした。特にアブー・ムーサーは、このハディースを何度も何度も語らせ、預言者ムハンマドの彼ら自身についての言葉を聞き、飽くなき喜びを感じて

いました。（ブハーリー メガーズィ，36；ムスリム、F ファダーイルス・サハーバ 169）

❀

サハーバのこの活気ある愛情は、彼らのハディースを読む時、そして伝承する時に示している敬意や注意深さにおいてはっきりと見ることができます。サハーバたちは、預言者ムハンマドのハディースを伝承する際、知らずに誤ったことを話してしまわないよう、膝が震え、顔色が悪くなっていました。アムル・ビン・メイムーンは次のように語っています。

「私はイブニ・メスード師が木曜日の夜に行っていた説話に欠かさず通っていた。この説話で彼が、『アッラーの使徒はこう言われた』という形で確定的な表現を用いたところを聞いたことがなかった。ある晩、『アッラーの使徒はこう言われた』という言葉で始められた。しかしそれに続けることはなく、頭を下げていた。少し待った後、私は彼を見た。シャツのボタンが外れ、目から涙があふれ、頬が腫れた状態で立っていた。しばらくその状態でいた後、次のように言葉をつなげた。

『アッラーの使徒はこのように、もしくはこれに近い、もしくはこれに類似することをおっしゃられた』（イブニ・マジャ、ムカッディマ、3）

❀

以前、ディヤーメンディという名の正教徒であり、メヴラーナの「マスナヴィ」を知った後、涙を流す信者、預言者へ心を焦がす者となったヤマン・デデの次の愛情の状態は非常に教訓深いものです。弟子の一人が次のように語っています。

「ある時、学習が終わって学校から出た。昼ごろ、タクシムに向かっていた。ドイツ大使館の近くにモスクがあった。そこにヤマン・デデがいた。モスクの壁にもたれ、最期の呼吸をしているかのような状態だった。ぐったりして弱弱しく、頭を右側にたらし、首を折って泣いていた。私はすぐにそのそばにかけつけ、

『先生、どうして泣いているのですか？何かあったのですか」と尋ねた。彼は非常にか細く震える声で、

『いや、違うよ。アッラーの使徒のことが思い浮かぶと、我を忘れてしまうのだ。立っている力がなくなるのだ。どこかにもたれるか、座らないといけないのだ』と言った」[213] (Mustafa Özdamar, Yaman Dede, İstanbul 1994, s. 191-192)

---

213. 歴史を通して預言者ムハンマドに示された深い愛情については参照：Osman Nûri Topbaş, *Faziletler Medeniyeti,* I, 223-265; http://islamicpublishing.org/KAYNAKLAR/Dokumanlar/KITAPLAR/english/ingilizce-faziletler-medeniyeti-1.pdf

8. その奇蹟の一部

預言者ムハンマドには多くの奇蹟があります。[214]その最たるものとして、先にも触れた、時代に挑むクルアーンと、預言者ムハンマドの素晴らしい生活と崇高な徳が挙げられます。実際預言者ムハンマドの神聖な生涯と崇高な道徳については、誰も強く異論を唱えていないのです。これらを精査すれば、いかに大きな奇蹟であるかが容易に理解されます。

預言者ムハンマドの、これ以外の無数の奇蹟の一部は、次のようなものです。

マッカで、クライシュ族が奇蹟を求めた為、預言者ムハンマドはアッラーにドゥアーをされ、月が二つに割れ、この奇蹟はあらゆる場所から見ることができました。月が二つに割れ、その一つはアブー・クバイシュ山の方で、もう一つはクアイクラン山の方で見られました。多神教徒は、マッカの外の遠い地点からやってきた隊商にこの出来事を見たかどうか尋ねました。彼らも、月が割れたのを見たと答えました。[215]

---

214. Bkz. Beyhakî, *Delâilü'n-Nübüvve,* Beyrut 1985; Ebû Nuaym, *Delâilü'n-Nübüvve,* Halep 1970-1972; Suyûtî, *Olağanüstü Yönleriyle Peygamberimiz: el-Hasaisü'l-Kübra,* İstanbul 2003.
215. 月章第1-3節; Buhârî, Menâkıb 27, Menâkıbu'l-Ensâr 38, Tefsîr 54/1; Müslim, Münâfıkîn, 43, 47, 48; Tirmizî, Tefsîr, 54/3286; Ahmed, I, 377, 413.

実際、有名なフランスの天文学者**ルフランセ・ド・ラランド**は、月の過去の動きを詳しく調べ、この奇蹟の正しさを認めざるを得なかったのです。[216]

❀

預言者ムハンマドがモスクでそれにもたれ、フトゥバを読まれていた乾いた**ナツメヤシの切り株**がありました。ムスリムの数が増え、フトゥバの為に説教台が必要となりました。預言者ムハンマドが説教台に立たれると、ナツメヤシの切り株は懐かしさのあまり泣き始めました。預言者ムハンマドは説教台からおり、切り株をなでるとその泣き声は収まり、静かになりました。預言者ムハンマドは

「それは、そばで行われていたアッラーへのズィクルから遠ざかってしまった為に泣いたのだ」と言われました。[217]

❀

預言者ムハンマドの叔父アッバースが、バドゥルの戦いでの捕虜たちの間でマディーナに連れてこられた時、預言者ムハンマドは彼に、

216. Zekâî Konrapa, Peygamberimiz, İstanbul 1987, p. 110.
217. Bkz. Buhârî, Menâkıb, 25, Cuma, 26; Tirmizî, Cum'a 10, Menâkıb 6; Nesâî, Cum'a, 17; İbn-i Mâce, İkâme, 199; Dârimî, Mukaddime 6, Salât 202; Ahmed, I, 249, 267, 300, 315, 363.これらの文献ではさらに多くの奇蹟が言及されている。

「アッバースよ！あなた自身と、甥のアクル、ナウファル・ビン・ハーリスと、あなたと合意したウトゥバ・ビン・アムルの為に身代金を支払いなさい。あなたは資産を持っている人です」と言われました。アッバースは

「アッラーの使徒よ！私はムスリムでした。クライシュ族が私を無理やり出発させたのです」と言いました。預言者ムハンマドは

「あなたがムスリムであるかどうかはアッラーがご存じです。あなたの話が本当であれば、当然アッラーはあなたに報償を与えられるでしょう。しかしあなたの状態は、見かけ上は、私たちに敵対していました。従って身代金を払う必要があるのです」といい、彼が持っていた800ディルヘムの金をも、戦利品として没収しました。アッバースは、

「アッラーの使徒よ！せめてそれを身代金と見なしてください」と言いました。預言者ムハンマドは

「いいえ、あれはアッラーがあなたから私たちに与えられた戦利品です」と言われました。アッバースは、

「アッラーの使徒よ。つまり私を、生涯の残りの部分で物乞いをせざるを得ない状態にするのですね」と言いました。それに対し預言者ムハンマドは

「アッバースよ、あなたの妻のウンム・ファドゥラにあなたが与えたあの金はどうなりましたか」と問われました。アッバースは、

「どの金ですか」と尋ねました。預言者ムハンマドは

「あなたはマッカから出発する日、あなた方のそばにアッラーしかいない時に、妻のウンム・ファドゥラに『この旅で私に何が起こるかわからない。もし災いにあえば、これだけはあなたのものであり、これだけはウツバイドゥッラーのものであり、これだけはファドゥルのものであり、これだけはクセミの、これだけはアブドゥッラーのものである』と言っていた金のことです」と言われました。この言葉に驚いたアッバースは、

「これをあなたに誰が伝えたのですか」と言いました。預言者ムハンマドは、

「アッラーが教えられたのです」と言われました。驚きが落ち着いてきたアッバースは、

「あなたを預言者として送られたアッラーに誓って言うが、このことは私とウンム・ファドゥラの他、誰も知らなかった。疑いもなく、あなたはアッラーの使徒です」と言われました。（ブハーリージハード，172；アフマド I，353；イブニ・サアド IV，13-15）

ウマイル・ビン・ワフブの息子ワフブも、ムスリムの捕虜となりました。ウマイルはクライシュの多神教徒の中で、悪賢く、また勇敢な人でした。マッカで預言者ムハンマドやサハーバをひどく迫害していました。ある日ウマイルは、ヒジュルでサフワン・ビン・ウマイヤと共に座り、バドゥルで殺された人、そして直面した災難について語り合っていました。その時サフワン・ビン・ウマイヤが、

「彼らはあの状態になった以上、生きている意味はない」と言いました。ウマイルは、

「確かにその通りだ。もし私に借金と、私がいなくなれば飢え死にすると心配をしている子供たちがいなければ、必ず行ってムハンマドを殺していた。私には、彼らが認める弁解もある。『捕虜となった息子の為に来た』というのだ。聞いた限りでは、彼は市場に出て、うろうろしているらしい」と言いました。ウマイルのこの言葉はサフワンを喜ばせました。

「あなたの借金は私が引き受けよう。あなたの名で、私が支払う。あなたの子供たちも私の子供たちと一緒に、生きている限り世話をし、最良の形でその費用を賄おう」と言いました。そこでウマイルは剣を十分に研ぎ、毒を塗りました。

サフワンも乗る為の動物や旅の資金を用意させました。ウマイルはマディーナに行き、モスクの扉のところで止まり、ラクダを結わえ、剣を抱えました。聖ウマルが彼を見て、

「これはアッラーの敵、ウマイルだ。確実に、災いをもたらす為に来たに違いない。私たちを仲たがいさせ、バドゥルの日にクライシュ族の為に我々の人数を予想してみせたのは彼ではなかったか」と言い、預言者ムハンマドのそばに行きました。

「アッラーの使徒よ！アッラーの敵であるあのウマイルが剣を抱えてやってきました！」と言いました。預言者ムハンマドは、

「彼を私のそばに送りなさい」と言われました。ウマルは元の場所に戻りました。首にかけられた剣のひもをきつく締めました。アンサールのうち、彼のそばにいた人々に、

「預言者ムハンマドのそばに行き、座っていなさい。あのお方をこの悪人から守りなさい。彼は信頼できる人物ではない」と言いました。預言者ムハンマドは、

「ウマルよ、彼を放しなさい。ウマイルよ、あなたは私の方に来なさい」と命じられ、彼になぜ来たのかを尋ねました。ウマイルは、

「あなたが捕虜とされた息子の為に来ました。彼の為に善処をお願いしたい」と言いました。預言者ムハンマドは、

「では、なぜ剣を首から下げているのかね」と尋ねました。ウマイルは、

「アッラーがこの剣に災いを与えられますように。これらが何の役に立ったというのでしょう」と言いました。

預言者ムハンマドは再び、

「私に本当のことを言いなさい。あなたはここに何の為に来たのか」と尋ねました。ウマイルは、

「私は他の何かではなく、ただあなた方の捕虜となった息子の為に来ました」と言いました。預言者ムハンマドは、

「あなたがヒジュルでサイファンに出した条件は何であったか」と聞かれ、ウマイルは恐れを抱きました。

「私が何の条件を出したというのです？」と言いました。預言者ムハンマドは彼らの会話を一語一語再現し、

「アッラーは、あなたが行おうとしていることと、あなたの間に入られた。あなたの妨げとなられた」と言われました。そこでウマイルは、

「誓って言いますが、あなたは本当にアッラーの使徒であられます。アッラーの使徒よ！私たちは天からの知らせと、下された啓示についてあなたが嘘を言っていると考えました。このことについて、サフワンと私以外に、誰も知ってはいないのです。この知らせはただ、アッラーがあなたにもたらされたのでしょう。私をイスラームに招かれ、ここに連れてこられたアッラーに感謝いたします」と言い、それから信仰告白の言葉を唱えました。それに対し預言者ムハンマドは、

「あなた方の兄弟に、イスラームを十分に説明しなさい。クルアーンを読み、教えなさい。捕虜も解放しなさい」と命じられました。預言者ムハンマドの命令はすぐに実行されました。ウマイルは、

「アッラーの使徒よ！私はアッラーの光を消そうとし、ムスリムにひどい拷問を行う人間でした。もし許可されるなら、マッカに行き、多神教徒をアッラーへ、アッラーの使徒へ、そしてイスラームへと招きましょう。アッラーが彼らを導いてくださると願っています」と言いました。預言者ムハンマドも彼に許可を与えられました。

その頃、サフワン・ビン・ウマイヤは起こったことについて何も知らず、マッカの多神教徒たちに、

「数日のうちにもたらされる知らせに、あなた方は喜ぶだろう。それはバドゥルの痛みを忘れさせるだろう」といい、やってくる隊商に知らせがないか尋ねていました。結果としてある騎兵が彼に、ウマイルがムスリムになったことを伝えたのでした。ウマイル・ビン・ワフブはマッカに来ると、人々をイスラームへと招き始めました。彼によって多くの人がムスリムとなりました。聖ウマイルはある日、カーバのそばでサフワン・ビン・ウマイヤとばったり会いました。そして彼に、

「あなたは我々の中の有力者だ。私たちが石を崇拝していること、それらの為に犠牲をほふっていることを見ないのか。教えというものはこういうものか？私は誓って言うが、アッラーの他に神はない。ムハンマドもアッラーのしもべであり、その使徒である」と言ったのでした。サフワンは彼に何も言うことができず、沈黙していました。[218]

❁

ジャービル・ビン・アブドゥッラーは次のように語っています。

「ある時、アッラーの使徒と共に歩いていました。最後に広い谷に降りました。アッラーの使徒は、トイレの用を済ませる為に先に行きました。私も水入れの容器を持って彼

218. Bkz. İbn-i Hişâm, II, 306-309; Vâkıdî, I, 125-128; İbn-i Sa‘d, IV, 199-201; Heysemî, VIII, 284-286.

の後を行きました。預言者ムハンマドは周囲を見渡されましたが、物陰に隠れる為のものが何もありませんでした。谷のそばにある二本の木が目に入りました。預言者ムハンマドはそのうちの一本の方に近づかれ、枝を手にされ、

『アッラーの許しを得て、私に頭を下げなさい』と命じられました。木は、鼻にくつわをされたラクダのようにアッラーの使徒に従い、実を掲げました。もう一本の木の方にも行かれ、枝を手にされ、

「アッラーの許しにより、私に従いなさい」と命じられました。その木も、もう一本の木のように曲がりました。その2本の間に行かれ、それらをつなげられました。それから、

「アッラーの許しにより、私の上を覆いなさい」と命じられました。木はすぐにその上を覆いました。アッラーの使徒が、わたしがそばにいることを感じれば、さらにそれを進めると恐れ、私は急いで走って遠ざかりました。ある場所で座って、物思いにふけっていました。目を少し横にそらすと、突然アッラーの使徒が来られたのが見えました。その2本の木も互いから離れ、それぞれの幹の上にまっすぐ立っていました。預言者ムハンマドが一瞬、立ち止まられたのを目にしました。頭で右と左を示されました。それから私の方に歩いてこられました。そばに来ると、

『ジャービルよ！私が立ち止った場所を見たか』と尋ねられました。

『はい、アッラーの使徒よ！』と答えました。

『では、この二本の木のところに行き、それぞれから一本ずつの枝を切り、持ってきなさい。私が立ち止った場所に来て、一本の枝を右側に、もう一本の枝を左側に植えなさい』と命じられました。私はすぐにその願いを実行し、おそばに戻りました。そして、

『おっしゃられた通りにしました、アッラーの使徒よ、ただ、これはどうして行ったのですか？』と尋ねました。預言者ムハンマドは、

『罰を受けている二つの墓のそばを通ったのだ。この枝が湿ったままでいる限り、私のとりなしによって罰が軽減されると望んだのだ』と言われました。それから隊商が露営している場所にやってきました。アッラーの使徒は、

『ジャービル、ウドゥーの為の水があるか、人々に声をかけなさい』と言われました。アンサールのうちの一人のものである袋の口の部分に残った一滴の水以外には、水はありませんでした。そのわずかな水を出そうとすれば、袋の乾いた部分に吸われてしまい、一滴の水も出てこないでしょう。預言者

ムハンマドはその袋を手にされ、何であるか私にはわからない、何かを唱えられました。一方で両手でそれを締め付けておられました。それから袋を私に渡され、

『ジャービルよ、大きな器があるか、声をかけなさい』と命じられました。アッラーの使徒は手を容器の中に入れ、指を開かれました。そして手を容器の底に置かれ、

『ジャービルよ、その袋を取り、私の手の上にしずくを流しなさい。そしてビスミッラーと言いなさい』と言いました。私はすぐにその水を手の上にかけました。そして『ビスミッラー』と言いました。アッラーの使徒の指の間から水がわき出ていました。水は容器の中でうずをまき、ついには口まで一杯になりました。アッラーの使徒は、

『ジャービルよ、水を必要としている人々に呼びかけなさい』と命じられました。人々はやってきて、十分に水を飲みました。

私は『水を必要としている人はもういませんか』と尋ねました。誰も出て来ませんでした。預言者ムハンマドは手をあげました。容器は口まで一杯になっていました。しばらくして人々は空腹を訴えました。アッラーの使徒は、

『インシャッラー、アッラーがあなた方の空腹を満たされるだろう』と言われまし

た。その時、私たちは海岸に来ていました。朧が波打ち、岸に動物を打ち上げました。私たちはこの動物のそばで火を起こし、肉を料理し、揚げ、満腹するまで食べました。それでも半分しか食べられませんでした』（ムスリム、ズフド、74）

✿

預言者ムハンマドが誰かにドゥアーされた時には、その影響はその人に一生涯、見られました。聖アブー・フライラには、聞いた知識を決して忘れないこと。聖アナス・ビン・マーリクには、生涯、財産、子供たちが豊かになること。聖ベシル・ビン・アクラバには恵みを得ること、聖アブールーヤサルにはその生涯が長くなり、ムハンマドのウンマがそこから益を得ること、こういったドゥアーが、その一例です。ここでは次の二つの出来事を、その例として示すことで十分と見なします。

アブドゥラー・ビン・ヒシャームは、預言者ムハンマドに（6歳の時に）間に合うことのできた世代でした。母のザイナブ・ビンティ・ムマイドは彼を（マッカ征服の際に）預言者ムハンマドのもとに連れて行き、

「アッラーの使徒よ！息子から、ムスリムであるという誓いを得てください」と言いました。預言者ムハンマドは、

「彼はまだ小さい」と言われ、その頭をなでられ、アブドゥラーの為にドゥアーされました。

アブドゥラー・ビン・ヒシャームは成長し、市場に行き、食料品を購入していました。イブニ・ウマルとイブニ・ズバイルは彼を市場で見かけ、すぐにそのそばに寄り、

「私たちをも、この財産の共同経営者にしてください。なぜなら預言者ムハンマドは、あなたの為に豊かさを求めてドゥアーをされた」と言いました。アブドゥラーも彼らを共同経営者にしました。時にはちょうどラクダ一頭分ほどの利益を上げ、それを家に送っていました。（ブハーリー、シルケット、13）

ジュアイド・ビン・アブドゥルラフマーンは次のように語っています。

「私はサイド・ビン・ヤジディが94歳の時に彼を見ました。非常に健康で、バランスのとれた体つきをしていました。彼は私にこう言いました。

『私は非常によく理解しているが、この年になって耳や目が非常に健康であるのは、ひとえにアッラーの使徒のドゥアーの恵みによる。子供の時、伯母が私をアッラーの使徒のもとに連れて行き、

『アッラーの使徒よ、妹の息子は病気です。彼の為にアッラーにドゥアーしてくださ

い』と言いました。それに対し預言者ムハンマドは私の頭を撫で、あらゆる点で恵みを受けることができるよう、ドゥアーされた」(参照. Buhârî, Menâkıb, 21-22)

❁

アブー・フライラは次のように語っています。

「私はアッラーの使徒と共に遠征をしていた。その時、兵士たちの糧が底をついた。動物たちの一部をほふることを彼らは望んだ。聖ウマルは、

『アッラーの使徒よ！私が集団で残された食べ物を集めて、あなたはそれらがより豊かになる為にドゥアーすればよりよいのではないでしょうか』と言った。預言者ムハンマドもその通りにした。麦がある者は麦を、ナツメヤシがある者はナツメヤシを、種がある者は種を持ってきた」

その場にいた人々はアブー・フライラに、大きな驚きと共に、

「種で何をしていたのだろうか」と言いました。この祝福されたサハーバは。

「人々は食べ物を見つけることができない為に、それを吸っていた。それから水を飲んでいた」と言いました。アブー・フライラ

はハディースの続きを次のように語っています。

「アッラーの使徒はドゥアーをされた。食べ物が非常に豊かにされ、皆、自分の容器を満たした。預言者ムハンマドはこの神のもてなしに対し、

『誓って言うが、アッラーの他に神はなく、私はその使徒である。この二つの項目への疑念に陥ることなくアッラーに至る人は、天国に行く』[219]

（ムスリム、イマーン、44）

219. 預言者ムハンマドの生涯、道徳、奇蹟については以下の文献から広い知識を得ることができる。
http://islamicpublishing.org/KAYNAKLAR/Dokumanlar/KITAPLAR/english/ingilizce-rahmet-esintileri.pdf
http://hazretimuhammedmedinedevri.darulerkam.altinoluk.com/
Ibn Ishaq (150/767), *The life of Muhammed,* Karaçi: Oxford University, 1967; **Mevlana Şibli en-Numani,** *Siretü'n-Nebi=The life of the Prophet,* Lahor: Kazı Publications, 1979; **Afzalurrahman,** *Encyclopaedia of Seerah: Muhammed,* London: The Muslim Schools Trust, 1982; **Abdulahad Dawud,** *Mohammad in the Bible*, Devha [Doha]: A Publications of Presidency, 1980; **Martin Lings,** *Muhammad: his life based on the earliest sources,* London: The Islamic Texts Society, 1983; **A. H. Vidyarthi,** *Mohammad in world scriptures,* New Delhi: Deep-Deep Publications, 1988.

終りに

　歴史を通して啓示宗教は、人間によって損なわれ、中に逸脱した信条が混入されるたびにアッラーはそれを新しくされ、しもべたちに道を示す効果的な鉱石と、効果のない泡を区別する預言者たちを遣わされました。つまり全ての神の法と預言者たちは、金の鎖の環のように互いに結びつき、同じ源からもたらされているのです。その最後の環を、クルアーンと預言者ムハンマドが形成しているのです。

　私たちはこの書物で、イスラームについて果てしない大海のひとしずくのように、非常に本質的な知識を提供しようと試みました。イスラームの、人、自然、生命、現世、そして来世への観点を可能な限り取り上げるべく努力しました。イスラームについて調べ、研究してからムスリムとなった人々の経験を伝えました。非常に多くの人が、研究の結果イスラームが破壊されていない最後の教えであるという結論に至っています。この形で長い研究の結果としてムスリムとなる人々の数は日々増えています。次々に蓄積されていくこの経験には、誤りであるという可能性

はありません。無数の経験により手にされた結果は、疑いもなく正しいものなのです。

イスラームを深く研究すれば、それが私たちが伝えたもの以外にも多くの素晴らしさを持つものであることがわかるでしょう。残念なことに今日、イスラームは意識して、もしくは知らないうちに、誤った形で教えられ、もしくは覆い隠されようとしているのです。知性を持つ人にふさわしいことは、イスラームを先入観なく公平に、正しい文献から全体を学び、それから判断することです。

アッラーが全ての人に、現世と来世での幸福を与えられますように。現世での生が終わる前に最も正しい道を見つけ、私たちに与えられている試練の時間を最も効果的な形で活かすことが、私たち皆にかないますように。あなた方の手にあるこの作品を、この道における要因、媒介の一つとしてくださいますように。

アーミーン！

سُبْحَانَ رَبِّكَ رَبِّ الْعِزَّةِ عَمَّا يَصِفُونَۚ. وَسَلَامٌ عَلَى الْمُرْسَلِينَۚ. وَالْحَمْدُ لِلّٰهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ

あなたの主、威徳の主、かれらが配するものから（超絶なされる）主に讃えあれ。使徒たちに平安あれ。万有の主、アッラーに讃えあれ。（整列者章第180－182節）

参考文献

A. C. Morrison, *Man Does Not Stand Alone/İnsan, Kâinât ve Ötesi,* İstanbul 1979.

Ahmed bin Hanbel, *el-Müsned,* I-VI, İstanbul 1992.

Ahmet Böken - Ayhan Eryiğit, *Yeni Hayatlar,* I-II, İzmir 2005.

Prof. Dr. Ali Bardakoğlu, Ayşe Sucu ve diğerleri, *Gençlik ve Din,* Ankara 2005.

Prof. Dr. Bekir Topaloğlu, "Allah" mad., *Diyanet İslâm Ansiklopedisi,* II, 488-489.

Belâzurî, *Ensâbu'l-Eşrâf,* Mısır, 1959; *Fütûhu'l-büldan,* Beyrut 1987.

Buhârî, Ebû Abdillah Muhammed bin İsmâil, *el-Câmiu's-sahîh,* I-VIII, İstanbul, 1992.

Dârimî, *Sünenü'd-Dârimî,* I-II, İstanbul 1992.

Diyanet İşleri Başkanlığı, *İslâm'a Giriş I-II,* Ankara, 2006.

Ebû Dâvud, Süleyman bin Eş'as es-Sicistânî, *Sünenü Ebî Dâvud,* I-V, İstanbul 1992.

Prof. Dr. Fuat Sezgin, *Science et technique en Islam I-V,* Frankfurt, 2004; *İslam'da Bilim ve Teknik I-V,* Ankara 2007.

Prof. Dr. Günay Tümer, "Din" mad., *Diyanet İslâm Ansiklopedisi,* İstanbul 1994, IX, 315-317.

Hâkim en-Neysâbûrî, *el-Müstedrek ale's-Sahîhayn,* I-V, Beyrut 1990.

Heysemî, Hâfız Nûreddîn Ali bin Ebî Bekir, *Mecmau'z-zevâid,* I-X, Beyrut 1988.

İbn-i Ebî Şeybe, *el-Musannef,* I-VII, thk. Kemal Yûsuf el-Hût, Riyad 1409.

İbn-i Hacer el-Askalânî, *el-İsâbe fî temyîzi's-sahâbe,* I-IV, Beyrut 1328.

İbn-i Hişâm, Ebû Muhammed Abdülmelik bin Hişâm, *Sîretü'n-Nebî,* I-IV, Beyrut 1937.

İbn-i Kesîr, *el-Bidâye ve'n-Nihâye,* I-XV, Kâhire 1993.

İbn-i Sa'd, Muhammed, *et-Tabakâtü'l-kübrâ,* I-IX, Beyrut, Dâru Sâdır.

İmâm Mâlik bin Enes, *Muvatta',* I-II, İstanbul 1992.

Kadir Mısıroğlu, *İslâm Dünya Görüşü,* İstanbul 2008.

Dr. Maurice Bucaille, *La Bible le Coran et la science: les ecritures saintes examinees a la lumiere des connaissances modernes,* Paris: Seghers, 1980; *The Bible, the Qur'an and science,* trc. Alastair D. Pannell, Karaçi, t.y.

Prof. Dr. M. Abdullah Draz, *İslâm Hakkında Bazı Görüşler,* trc. Ali Özek, İstanbul 1977.

Prof. Dr. M. Hamîdullah, *Introduction to Islam* (*İslâm'a Giriş*), İstanbul 2003; *Le Saint Coran.*

Prof. Dr. M. M. el-A'zami, *The History of the Qur'anic Text from Revelation to Compilation: A Comparative Study with the Old and New Testaments,* Leicester: UK Islamic Academy, 2003 (*Kur'an Tarihi: Eski ve Yeni Ahit ile Karşılaştırmalı bir Araştırma,* İstanbul 2006).

Prof. Dr. M. Said Ramazan el-Bûtî, *İslâm Akâidi,* İstanbul 1986; *Min ravâi'ı'l-Kur'ân,* Beyrut 1996.

Müslim, Ebû'l-Hüseyin bin Haccâc el-Kuşeyrî, *el-Câmiu's-sahîh*, I-III, İstanbul, 1992.

Prof. Dr. M. Yaşar Kandemir - Prof. Dr. İsmâil Lütfi Çakan - Prof. Dr. Râşit Küçük, *Riyâzü's-Sâlihîn -Tercüme ve Şerh-,* I-VIII, İstanbul 2001.

Nesâî, Ebû Abdirrahmân Ahmed bin Şuayb, *Sünenü'n-Nesâî,* I-VIII, İstanbul 1992.

Prof. Dr. Osman Çakmak, *Bir Çekirdekti Kâinat,* İstanbul 2005; *Kâinat Kitap Atomlar Harf,* İstanbul 2007.

Osman Nûri Topbaş, *Rahmet Esintileri* (Genişletilmiş yeni baskı), İstanbul 2008; *Faziletler Medeniyeti,* I-II, İstanbul 2007; *Hazret-i Muhammed Mustafa (s.a.v),* I-II, İstanbul 2005; *İslâm Îmân İbadet,* İstanbul 2006; *Nebiler Silsilesi,* I-III, İstanbul 2008; *Vakıf - İnfak - Hizmet,* İstanbul 2002; *Âbide Şahsiyetleri ve Müesseseleriyle OSMANLI,* İstanbul 2008; *Peygamber Mesleği: İnsanın Eğitimi (Eğitim Rehberi 2),* İstanbul 2009.

Prof. Dr. Ömer Faruk Harman, *Yahudi Kutsal Kitapları*; a.mlf., "Ahd-i Atik" mad., *Diyanet İslâm Ansiklopedisi*, I, 495.

Rahmetullah bin Halilurrahman el-Hindî, *Izhâru'l-Hak,* trc. Ömer Fehmi Efendi - Nüzhet Efendi, İstanbul 1972, Sönmez yay.; *Idharul-Haqq ou Manifestation de la Verite,* trc. P.V. Carletti, Paris: Ernest Leroux, Editeur, 1880.

Prof. Dr. Recep Şentürk, *İnsan Hakları ve İslâm,* İstanbul 2007.

Prof. Dr. Seyyid Hüseyin Nasr, *Islamic Science, An Illustrated Study,* World of Islam Festival Pub. Co. Ltf., England, 1976; *İslam ve İlim*, İstanbul 1989.

Prof. Dr. Seyyid Kutup, *İslâm'ın Dünya Görüşü,* trc: Ali Arslan, İstanbul 1974.

Dr. Sigrid Hunke, *Allahs Sone über dem Abendland-Unser Arabischen Erbe,* Germany 1960; *Avrupanın Üzerine Doğan İSLAM GÜNEŞİ,* İstanbul 1991.

Prof. Dr. Süleyman Uludağ, *İslâm'da Emir ve Yasakların Hikmeti,* Ankara 1992.

Süyûtî, Ebû'l-Fazl Celâleddîn Abdurrahmân bin Ebû Bekir, *el-Câmiu's-sağîr,* Mısır 1306.

Prof. Dr. Şaban Kuzgun, *Dört İncil -Farklılıkları ve Çelişkileri-,* Ankara 1996.

Tirmizî, Ebû İsâ, Muhammed bin İsâ, *Sünenü't-Tirmizî,* I-V, İstanbul 1992.

Vâhidî, İmâm Ebu'l-Hasen Ali bin Ahmed, *Esbâbü nüzûli'l-Kur'ân,* Beyrut 1990.

Prof. Dr. Vahidüddin Han, *İslâm Meydan Okuyor,* trc. Cihad H. Reşad, İstanbul 1996.

Vâkidî, Ebû Abdillah Muhammed bin Ömer, *Meğâzî,* I-III, Beyrut, 1989.

http://www.**islamicpublishing**.org

http://www.**usveihasene**.com

http://www.**questionsonislam**.com

http://www.**1001inventions**.com

http://www.**hayrettinkaraman**.net

http://www.**altinoluk**.com